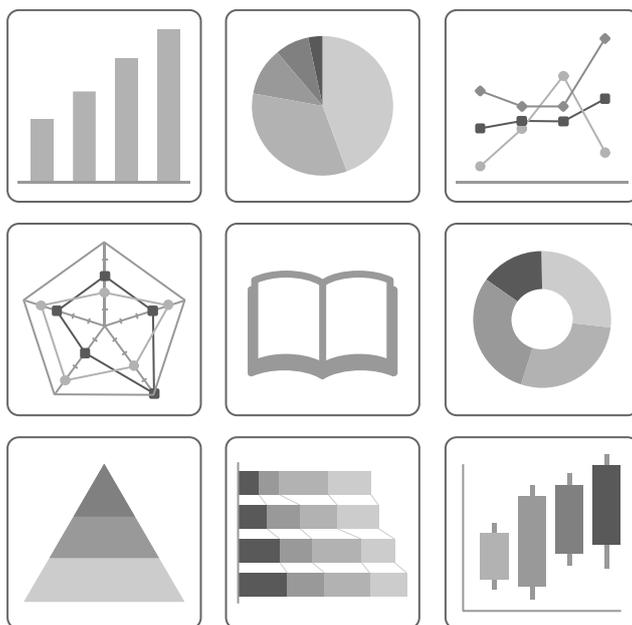


香芝市
男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書



令和4年3月

香 芝 市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査項目	1
7	調査結果の表示方法	3
8	標本誤差	4
II	調査結果のまとめ	5
1	男女平等意識について	5
2	家庭生活や、地域での活動について	5
3	職業生活について	6
4	新型コロナウイルス感染症による影響について	6
5	LGBTQ（性的マイノリティ）など多様な性について	6
6	ドメスティック・バイオレンス（DV）、ハラスメントについて	6
7	誰もが等しく活躍できる社会にするために、必要なことについて	7
III	調査結果	8
1	回答者属性	8
2	男女平等意識について	21
3	家庭生活や、地域での活動について	31
4	職業生活について	42
5	新型コロナウイルス感染症による影響について	66
6	LGBTQ（性的マイノリティ）など多様な性について	70
7	ドメスティック・バイオレンス（DV）、ハラスメントについて	73
8	誰もが等しく活躍できる社会にするために、必要なことについて	98
IV	自由回答	99
資料	調査票	103

I 調査の概要

1 調査の目的

香芝市では、性別にかかわらず全ての人が互いに認め合い、思いやりとやさしさを持って、対等な立場で責任と喜びを分かち合うことのできる社会（男女共同参画社会）の実現に向けた取組を進めております。

この「男女共同参画社会」の実現に向け、その指針となる「第3次香芝市男女共同参画プラン」の策定にあたり、市民の皆さまの考えを聴き、プラン策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

香芝市内に在住する16歳以上の市民2,000人（無作為抽出）

3 調査期間

令和3年5月10日から令和3年6月14日

4 調査方法

郵送による配布・回収及び、インターネットによる回答

5 回収状況

配布数	有効回答数	有効回答率
2,000通	801通	40.1%

6 調査項目

調査項目	番号	質問項目
1. 男女平等意識について	問1	分野ごとの、男女の地位
	問2	言葉の認知度
	問3	性別役割分担意識
	問4	最も望ましいと思われる女性・男性の生き方
2. 家庭生活や、地域での活動について	問5	(1) 家庭での役割分担【現状】 (2) 家庭での役割分担【理想】
	問6	(1) 仕事などに費やす時間【現状】 (2) 仕事などに費やす時間【理想】
	問7	男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参画していくために必要なこと
	問8	災害時に備えるために必要なこと

調査項目	番号	質問項目
3. 職業生活について	問 9	(1) 管理職へのイメージ
		(2) 管理職への就任意向
		(3) 女性管理職へのイメージ
	問 10	(1) 回答者本人または妻が仕事を辞めた時期
		(2) 回答者本人または妻が仕事を辞めた理由
	問 11	育児休業や介護休業の取得状況
	問 12	取得できなかった理由
	問 13	育児休業や介護休業制度が今より利用しやすくなるために必要なこと
	問 14	ワーク・ライフ・バランスの実現
問 15	仕事と家庭の両立を実現するために必要なこと	
問 16	女性が活躍するために必要なこと	
4. 新型コロナウイルス感染症による影響について	問 17	新型コロナウイルス感染症の影響による生活や行動、心身への変化
	問 18	新型コロナウイルス感染症の影響下で、家事・育児等に関するパートナー間の役割分担の変化
	問 19	新型コロナウイルス感染症の影響下で、あなたや配偶者（パートナー）の働き方の変化
5. LGBTQ（性的マイノリティ）など多様な性について	問 20	身体の性、心の性、または性的指向への悩み
	問 21	性的マイノリティの方の社会生活状況
	問 22	問 21 でそう思う理由
	問 23	性的マイノリティの方にとって、偏見や差別をなくし生活しやすい社会を実現するために必要なこと
6. ドメスティック・バイオレンス（DV）、ハラスメントについて	問 24	足でけるなどの行為が暴力だと思うか
	問 25	DVを受けた経験
	問 26	DVを受けたときの対応
	問 27	問 26 で回答した対応をした結果
	問 28	DVに対する対策や支援として必要なこと
	問 29	受けたことがあるハラスメントの種類
	問 30	ハラスメントを受けたときの対応
	問 31	問 30 で回答した対応をした結果
	問 32	若年層の女性が性的な被害を受ける問題の認知度
	問 33	異性に対する暴力、性犯罪、性暴力、ハラスメントなどから人権を守るために必要なこと
7. 誰もが等しく活躍できる社会にするために、必要なこと	問 35	すべての人が対等な立場で活躍できる社会を実現するために力を入れていくこと
	問 36	すべての人が対等な立場で活躍できる社会の実現に関する意見・要望

調査項目	番号	質問項目
8. あなたご自身やご家族のことについて	①	性別
	②	年齢
	③	結婚
	④	住まい
	⑤	家族構成
	⑥	一番下のお子さんの年齢
	⑦	就業（回答者本人）
	⑧	就業（配偶者・パートナー）

7 調査結果の表示方法

- 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- 調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）
- 回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。

8 標本誤差

今回のように全体(母集団)から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査に比べて調査結果に差が生じることがあります。抽出による結果の誤差は、以下の計算式によって算出されます。(信頼度 95%)

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

N = 母集団数、n = 回答者数、P = 回答比率(0 ≤ P ≤ 1)

標本数と回答の比率ごとに誤差を整理したものが以下の表となります。例えば、ある設問の回答者数(n)が670人であり、その設問中の選択肢の回答比率(P)が30%であった場合、その回答比率の誤差は±3.3%となり、26.7%~33.3%の範囲にあると考えられます。

		(P) (n)	5% または 95%	10% または 90%	15% または 85%	20% または 80%	25% または 75%	30% または 70%	35% または 65%	40% または 60%	45% または 55%	50% または 50%
総数		801	±1.5	±2.1	±2.5	±2.8	±3.0	±3.2	±3.3	±3.4	±3.4	±3.4
性別	女性	434	±2.0	±2.8	±3.3	±3.7	±4.0	±4.3	±4.5	±4.6	±4.7	±4.7
	男性	336	±2.3	±3.2	±3.8	±4.3	±4.6	±4.9	±5.1	±5.2	±5.3	±5.3
年齢別 (女性)	20歳未満	12	±12.3	±16.9	±20.1	±22.6	±24.4	±25.9	±26.9	±27.6	±28.1	±28.2
	20歳代	37	±7.0	±9.6	±11.5	±12.8	±13.9	±14.7	±15.3	±15.7	±16.0	±16.0
	30歳代	61	±5.4	±7.5	±8.9	±10.0	±10.8	±11.4	±11.9	±12.2	±12.4	±12.5
	40歳代	80	±4.7	±6.5	±7.8	±8.7	±9.4	±10.0	±10.4	±10.7	±10.8	±10.9
	50歳代	94	±4.4	±6.0	±7.2	±8.0	±8.7	±9.2	±9.6	±9.8	±10.0	±10.0
	60歳代	67	±5.2	±7.1	±8.5	±9.5	±10.3	±10.9	±11.3	±11.6	±11.8	±11.9
	70歳以上	83	±4.7	±6.4	±7.6	±8.6	±9.3	±9.8	±10.2	±10.5	±10.6	±10.7
年齢別 (男性)	20歳未満	17	±10.3	±14.2	±16.9	±18.9	±20.5	±21.7	±22.6	±23.2	±23.5	±23.7
	20歳代	25	±8.5	±11.7	±14.0	±15.6	±16.9	±17.9	±18.6	±19.1	±19.4	±19.5
	30歳代	47	±6.2	±8.5	±10.2	±11.4	±12.3	±13.0	±13.6	±13.9	±14.1	±14.2
	40歳代	58	±5.6	±7.7	±9.1	±10.2	±11.1	±11.7	±12.2	±12.5	±12.7	±12.8
	50歳代	52	±5.9	±8.1	±9.7	±10.8	±11.7	±12.4	±12.9	±13.3	±13.5	±13.5
	60歳代	67	±5.2	±7.1	±8.5	±9.5	±10.3	±10.9	±11.3	±11.6	±11.8	±11.9
	70歳以上	69	±5.1	±7.0	±8.4	±9.4	±10.2	±10.8	±11.2	±11.5	±11.7	±11.7

II 調査結果のまとめ

1 男女平等意識について

男性と女性の地位は平等になっていると思うかについて、「③学校教育の場」で平等感が高くなっている一方で、「②職場」「⑤政治の場」「⑦社会通念・慣習・しきたり」において、“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっており、性別でみると、男性に比べ女性で“男性優遇”と感じる割合が高い傾向にあります。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、“賛成”の割合が37.7%、“反対”の割合が59.8%となっており、県の調査と比較すると、本市では、男性で“賛成”の割合が、県の調査と比較するとやや低くなっています。

最も望ましいと思う女性の生き方については、「結婚して子どもを持ち、結婚あるいは子どもを持ったタイミングでいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が38.2%と最も高く、性別でみると、女性は「結婚して子どもを持ち、家事・子育てをしながら、仕事も続ける」と、「結婚して子どもを持ち、結婚あるいは子どもを持ったタイミングでいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が同程度となっています。一方、最も望ましいと思う男性の生き方は、「結婚して子どもを持ち、家事・子育てをしながら、仕事も続ける」の割合が53.7%と最も高くなっており、女性が仕事を続ける方がよいとする考えや、男女ともに家事・子育てを担うという考えが広がりつつあることがうかがえます。

2 家庭生活や、地域での活動について

日常的な仕事や家事、地域活動などの役割分担について、①生活費を得るを除く、②日常の家事（炊事・掃除・洗濯など）、③日常の家計の管理、④家族の介護や看護、⑤子どもの世話・教育、⑥地域活動（自治会やPTA、ボランティアなど）において「主に母または妻」の割合が高くなっており、多くの役割を女性が担っている現状がうかがえます。④家族の介護や看護、⑤子どもの世話・教育、⑥地域活動（自治会やPTA、ボランティアなど）においては、7割以上で「父母または夫妻で同じくらい」担うことが理想と回答している一方で、④家族の介護や看護、⑤子どもの世話・教育において理想と現状の乖離が大きくなっています。

生活におけるワーク・ライフ・バランスについて、①仕事に関しては現状「60%～80%未満」の割合が高いのに対し、理想は「20%～40%未満」「40%～60%未満」の割合が高くなっています。また、④プライベートにおいて、現状「1%～20%未満」の割合が高いのに対し、理想は「20%～40%未満」の割合が高くなっており、仕事の比重がやや大きく、現状と理想で差がみられます。

男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参画していくために必要なことについて、「夫妻や家族間でコミュニケーションをよくはかること」の割合が55.7%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度の普及等で、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が45.2%、「男性が家事等をするに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が43.2%となっています。このことから、家庭生活と仕事の両立支援策の充実が求められるとともに、男性が家事・育児・介護をすることへの理解・意識改革が必要です。

3 職業生活について

「管理職以上に昇進すること」に対するイメージについて、性別で見ると、男性で「賃金が上がる」「自分自身で決められる事柄が多くなる」の割合が高くなっています。一方、女性で「仕事と家庭の両立が困難になる」の割合が高くなっており、同僚や上司の理解促進、長時間労働の是正など、管理職になる年代の女性が働きやすい環境を整える必要があります。

加えて、妻の退職の経験については、「結婚とほぼ同じ頃」の割合が45.7%と最も高く、その理由については「勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったから」の割合が高くなっています。また、育児休業、介護休業が取得できなかった理由について、「取得しづらい雰囲気だったから」の割合が55.2%と最も高くなっており、すべての人が仕事と家庭の両立を実現するためには「育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること」の割合が45.7%と最も高くなっていることから、男女ともに制度が利用しやすく、働きやすい職場環境づくりを促進することが必要です。

4 新型コロナウイルス感染症による影響について

新型コロナウイルス感染症の影響で、コロナ禍前に比べ「人との交流機会が減っている」の割合が78.5%となっています。また、男性で「在宅勤務（テレワーク）が増えた」「時差出勤・フレックスタイム等になった（増えた）」の割合が高くなっている一方で、生活や行動、心身の変化について女性で「家事の負担が増えている」の割合が高くなっていることから、男性の在宅勤務によって女性の家事負担が増えている様子が見えます。

5 LGBTQ（性的マイノリティ）など多様な性について

自分の身体の性、心の性、または性的指向（自分が好きになる相手の性）などに悩んだ経験があると回答した割合は2.2%となっています。また、性的マイノリティの方々にとって、現在の社会が生活しづらいかについて、“思う”の割合が76.4%となっており、その理由としては「学校や職場でいじめ（悪口、嫌がらせなど）や差別を受ける可能性があるから」「カミングアウト後、周囲の態度が変化する可能性があるから」の割合が高くなっていることから、学校教育や様々な立場の人々との交流等の機会を通じて、幼少期からの人権尊重意識を高めていくことが必要です。

6 ドメスティック・バイオレンス（DV）、ハラスメントについて

配偶者（パートナー）間で行われる暴力の認識について、①足でける、②平手で打つ、③なぐるふりをして、おどす などの身体的暴力や、⑩いやがっているのに、性的な行為を強要する といった性的暴力については性別で大きな差異がみられません。一方、④大声でどなる、⑥何を言っても長時間無視し続ける、⑦交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する、⑧家計に必要な生活費を渡さない などの精神的暴力については、性別で見ると、男性に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっているのに対し、女性に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっており、男女での意識

差がみられます。

DVを受けた経験について、平成28年度調査と比較すると、女性で「精神的暴力」を受けた割合が増加し、「受けたことはない」の割合が減少しています。全体でみると、いずれの暴力についても受けたことがある人は数%みられ、依然として暴力の根絶には至っていません。

ハラスメントを受けた経験について、いずれのハラスメントでも受けたことがある人は数%みられ、特に女性で「セクシュアル・ハラスメント」の割合が高くなっています。

ハラスメントを受けたときの対応について、「仕方がないと思い、何もしなかった」の割合が48.8%と最も高くなっています。また「世間体や今後の不利益を考えると何もできなかった」の割合が19.5%、「こわくて何もできなかった」の割合が14.6%となっていることから、ハラスメントに関する啓発強化や相談しやすい環境づくりは必要です。

7 誰もが等しく活躍できる社会にするために、必要なことについて

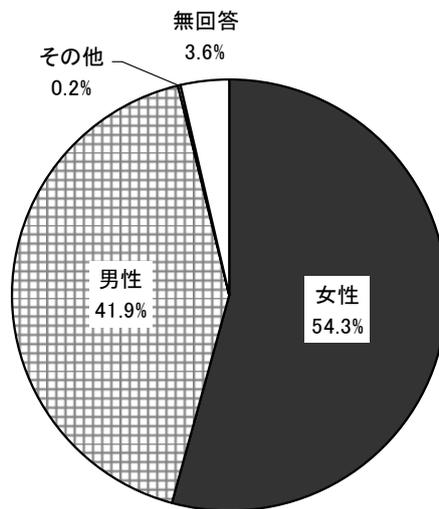
すべての人が対等な立場で活躍できる社会（男女共同参画社会）を実現するために、行政が力を入れていくべきことについて、「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」の割合が43.4%と最も高くなっています。また、性別でみると、女性で「LGBTQなど、多様な性に対する理解を促進する」「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参画を促進する」の割合が高くなっていることから、職場環境の整備のみならず、育児や家庭生活に男性が参画するための意識啓発が必要です。

Ⅲ 調査結果

1 回答者属性

① 性別

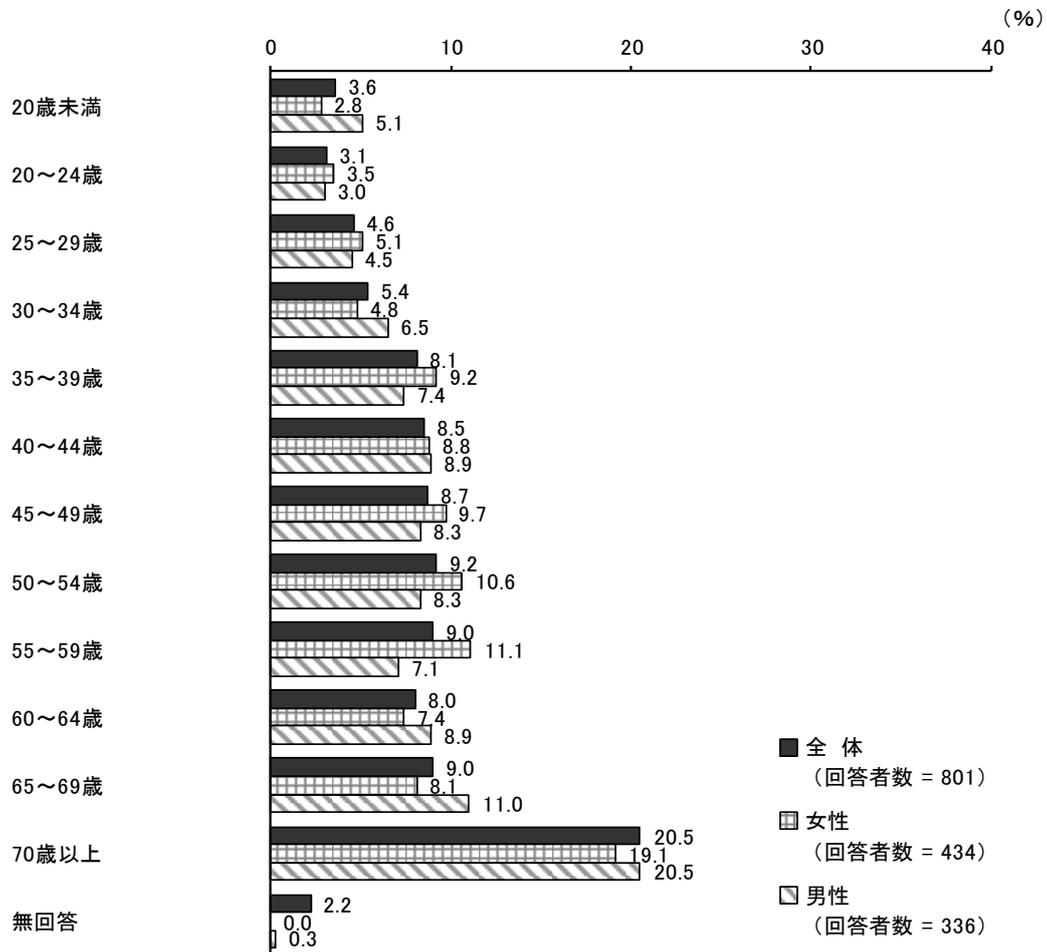
「女性」の割合が54.3%、「男性」の割合が41.9%となっています。



(回答者数 = 801)

② 年齢

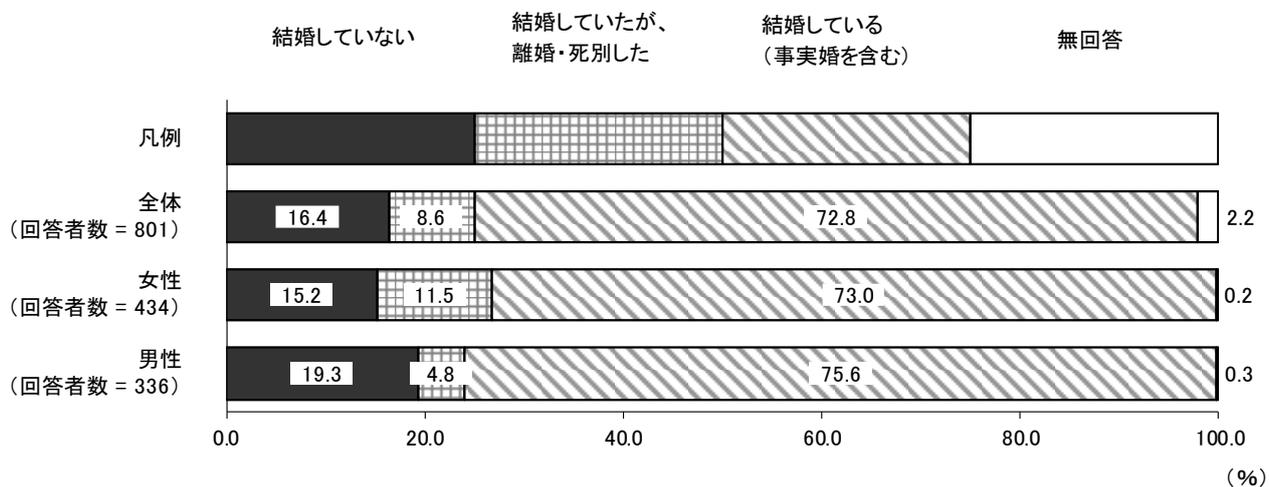
「70歳以上」の割合が20.5%と最も高くなっています。
性別でみると、大きな差異はみられません。



③ 結婚

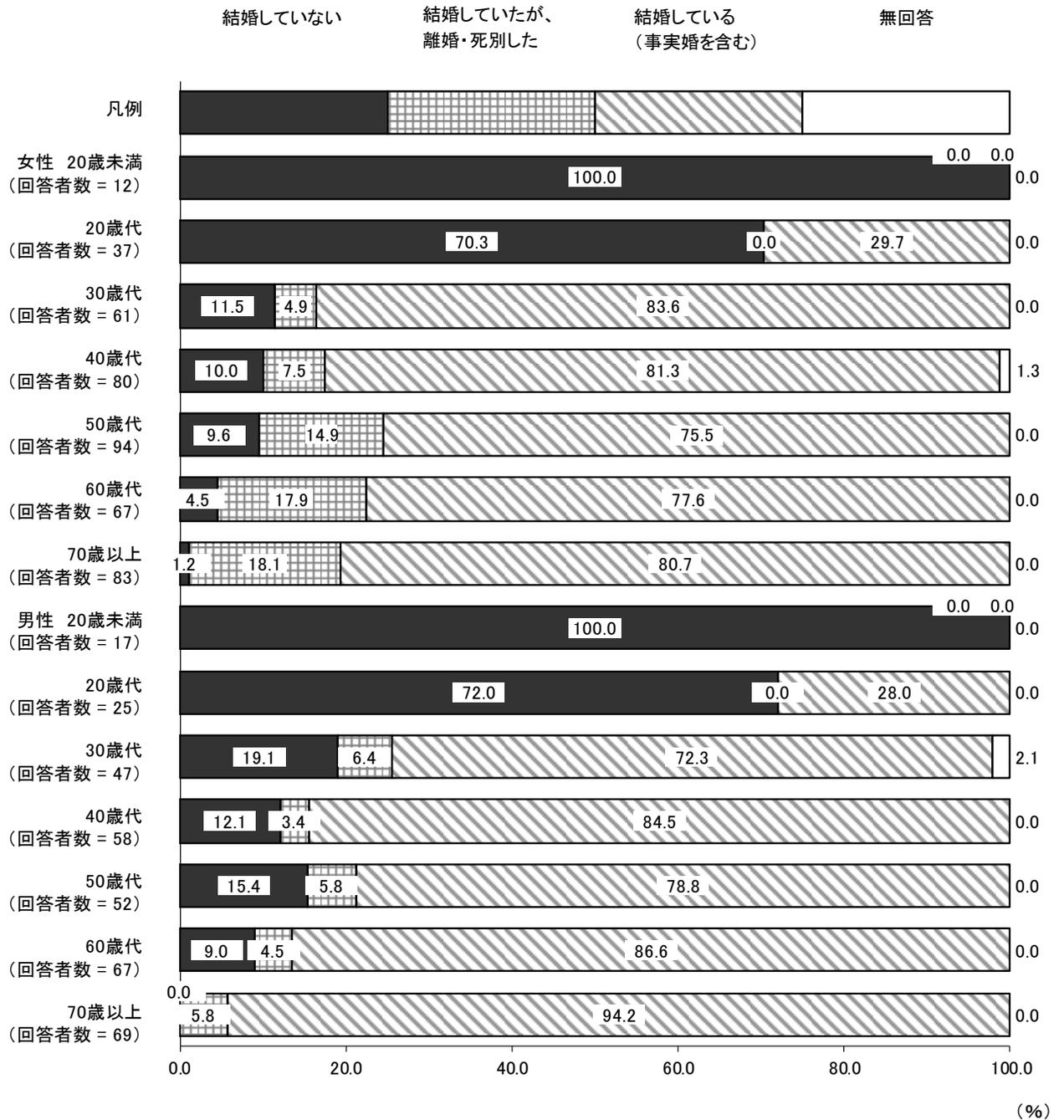
「結婚している（事実婚を含む）」の割合が72.8%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が16.4%となっています。

性別でみると、男性に比べ、女性で「結婚していたが、離婚・死別した」の割合が高くなっています。



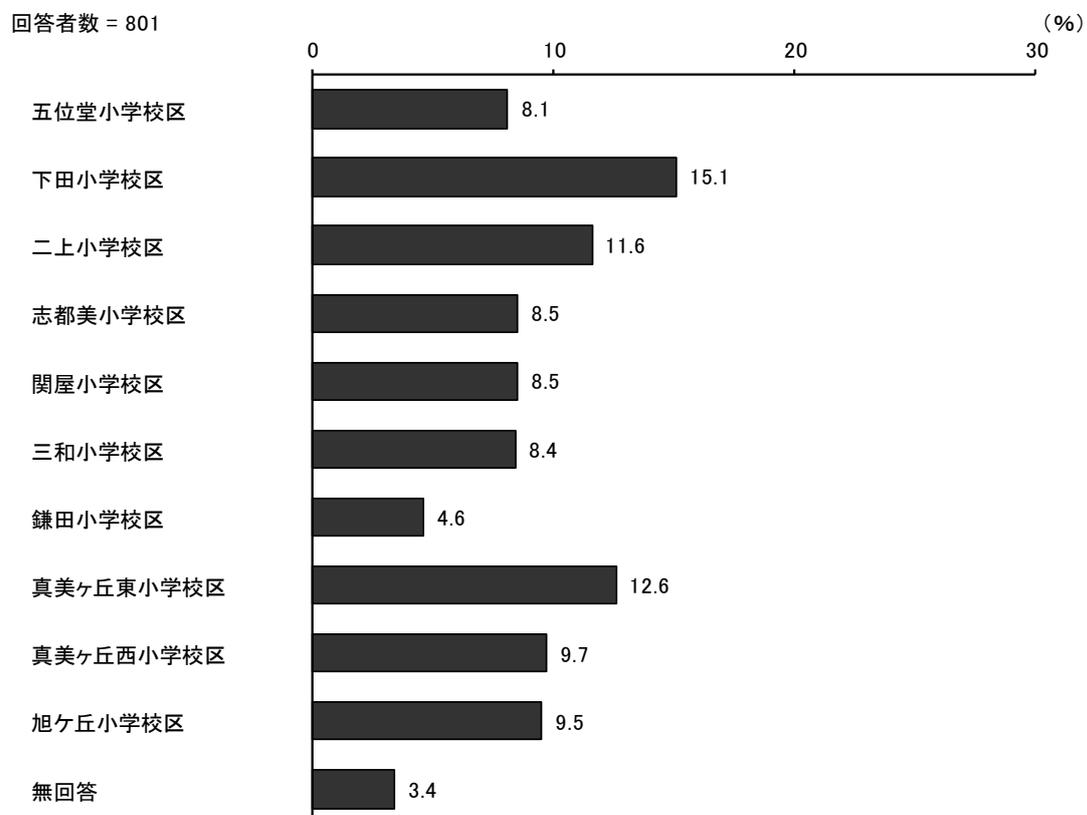
【性・年齢別】

性・年齢別で見ると、男女ともに30歳代以上で「結婚している（事実婚を含む）」の割合が高くなっています。



④ 住まい

「下田小学校区」の割合が 15.1%と最も高く、次いで「真美ヶ丘東小学校区」の割合が 12.6%、「二上小学校区」の割合が 11.6%となっています。

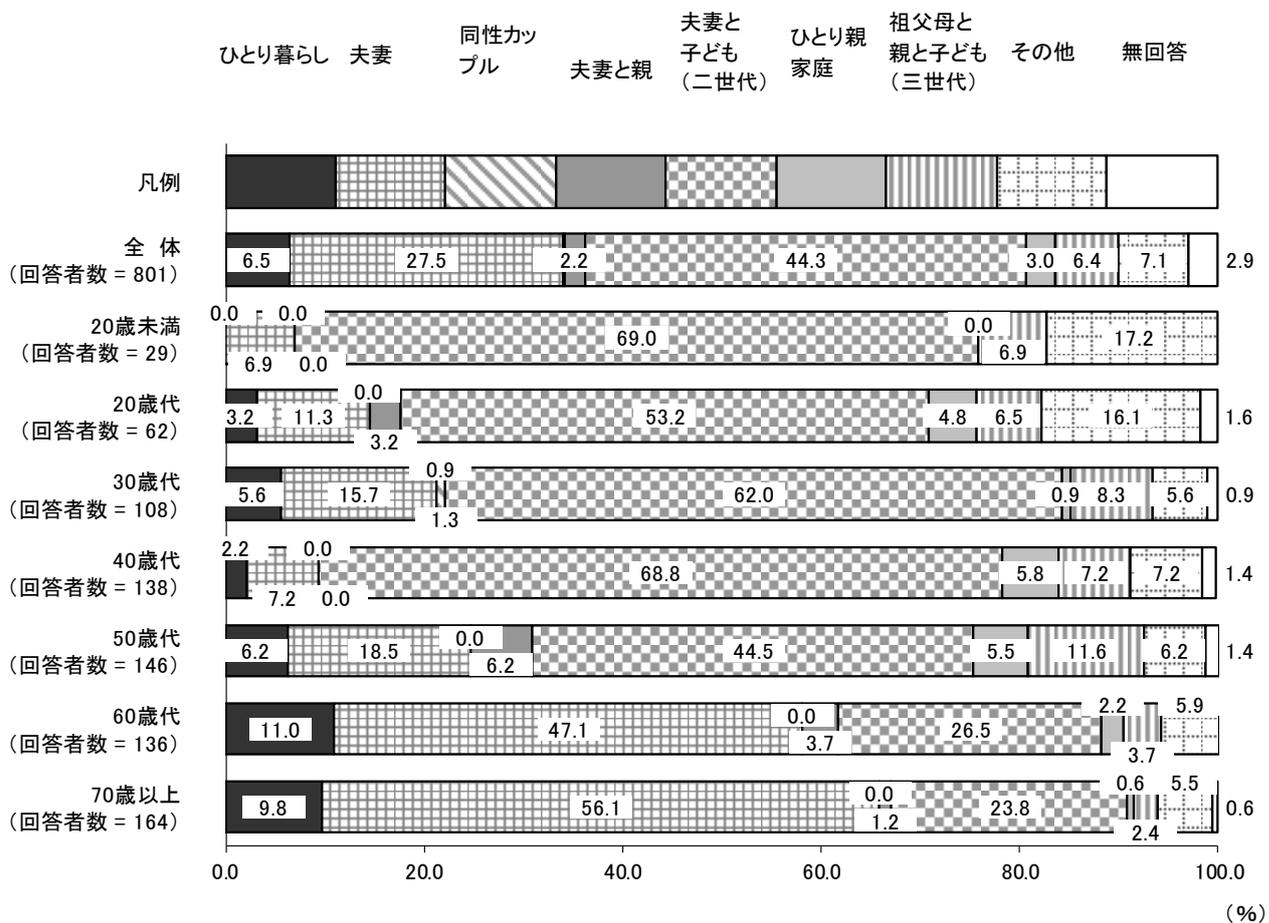


⑤ 家族構成

「夫妻と子ども（二世代）」の割合が44.3%と最も高く、次いで「夫妻」の割合が27.5%となっています。

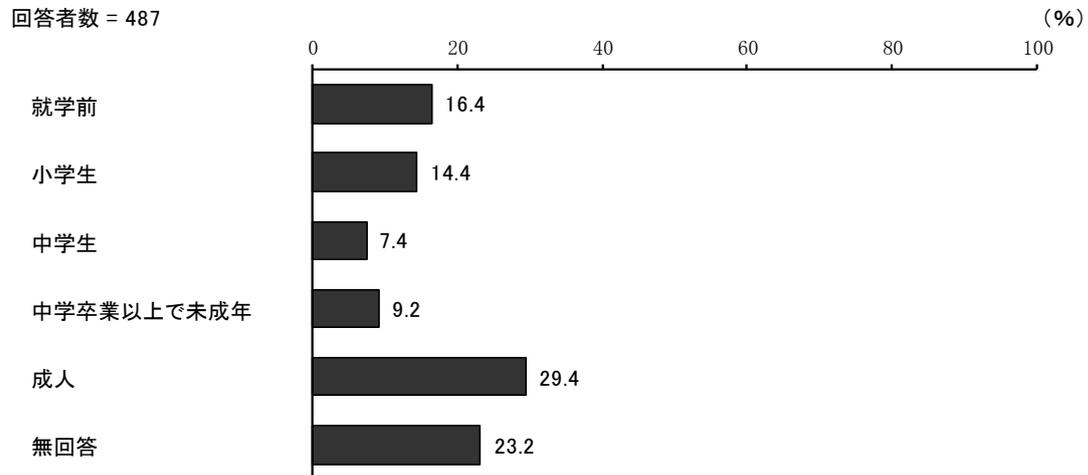
【年代別】

年代別でみると、年代が高くなるにつれて「夫妻」の割合が高くなる傾向がみられます。



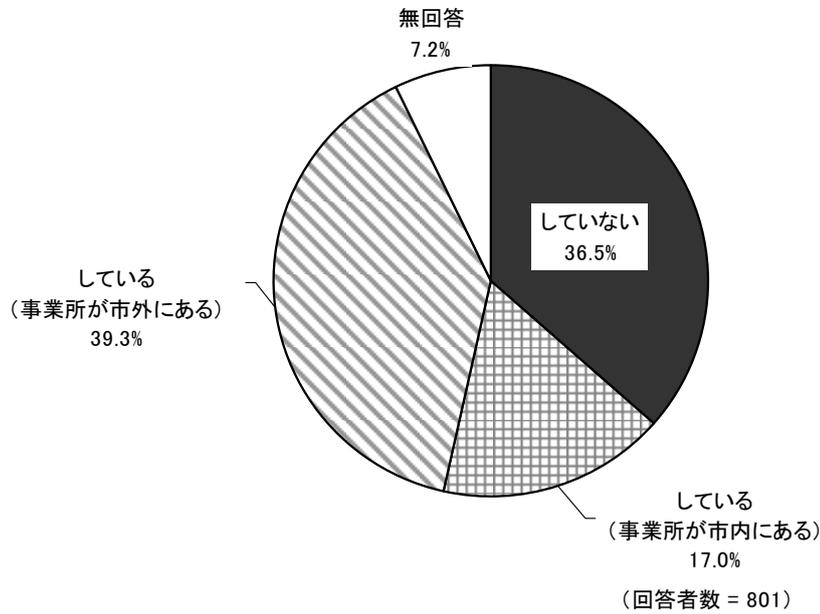
⑥ 一番下のお子さんの年齢

「成人」の割合が 29.4%と最も高く、次いで「就学前」の割合が 16.4%、「小学生」の割合が 14.4%となっています。



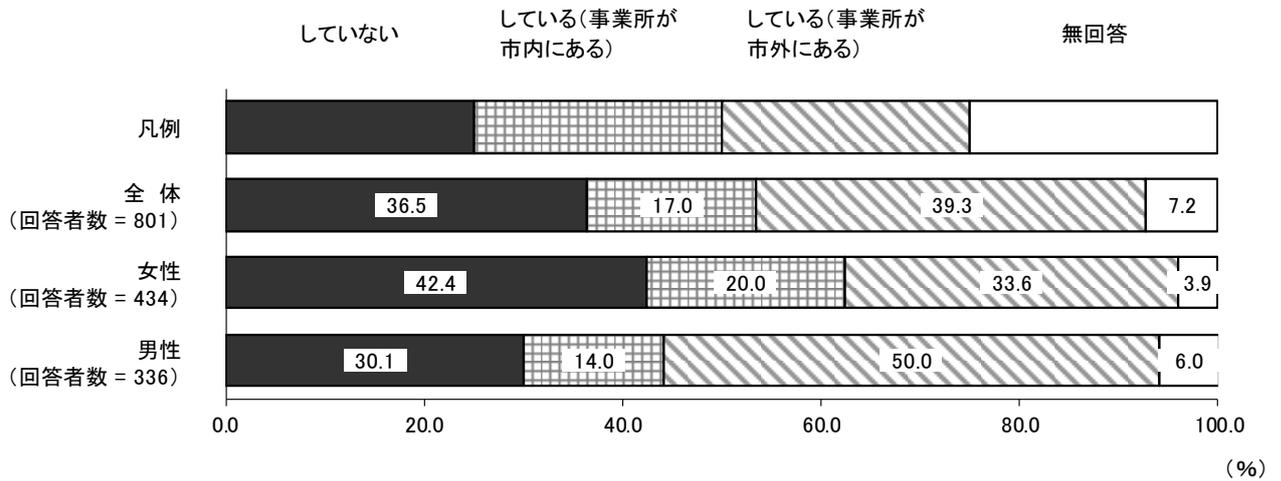
⑦ 就業（回答者本人）

「している（事業所が市外にある）」の割合が 39.3%と最も高く、次いで「していない」の割合が 36.5%、「している（事業所が市内にある）」の割合が 17.0%となっています。



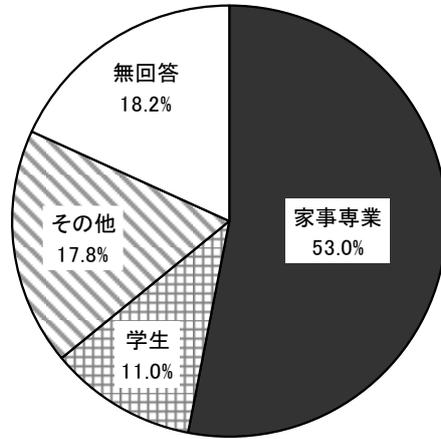
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「していない」の割合が高くなっています。



〈「していない」と回答した人の職業〉

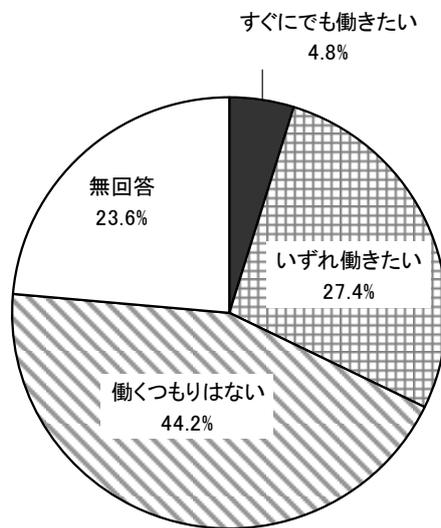
「家事専業」の割合が53.0%、「学生」の割合が11.0%となっています。



(回答者数 = 292)

〈「していない」と回答した人の就業意向〉

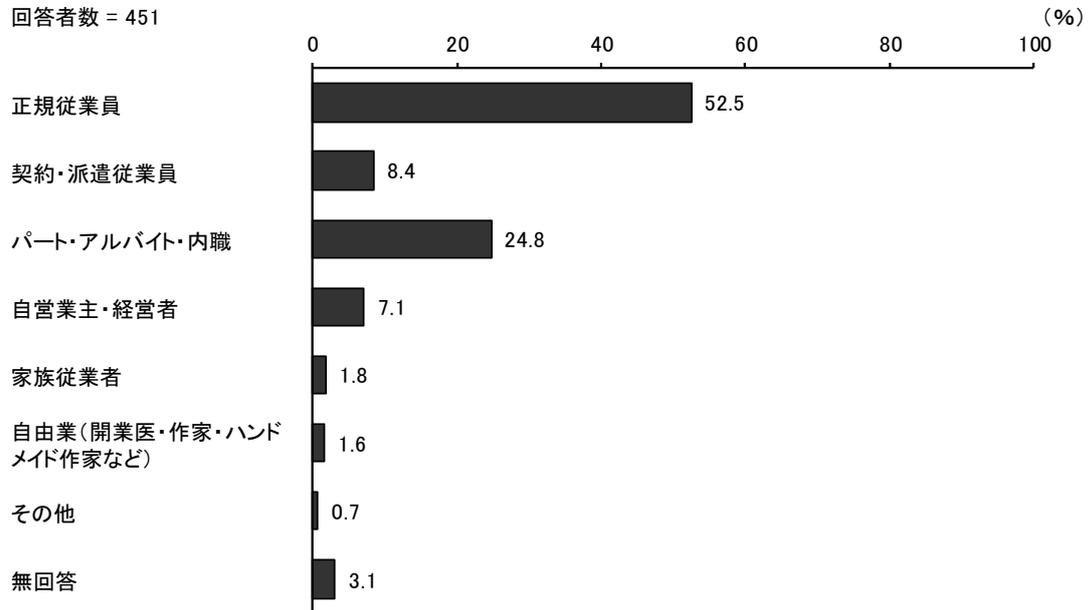
「働くつもりはない」の割合が44.2%と最も高く、次いで「いずれ働きたい」の割合が27.4%となっています。



(回答者数 = 292)

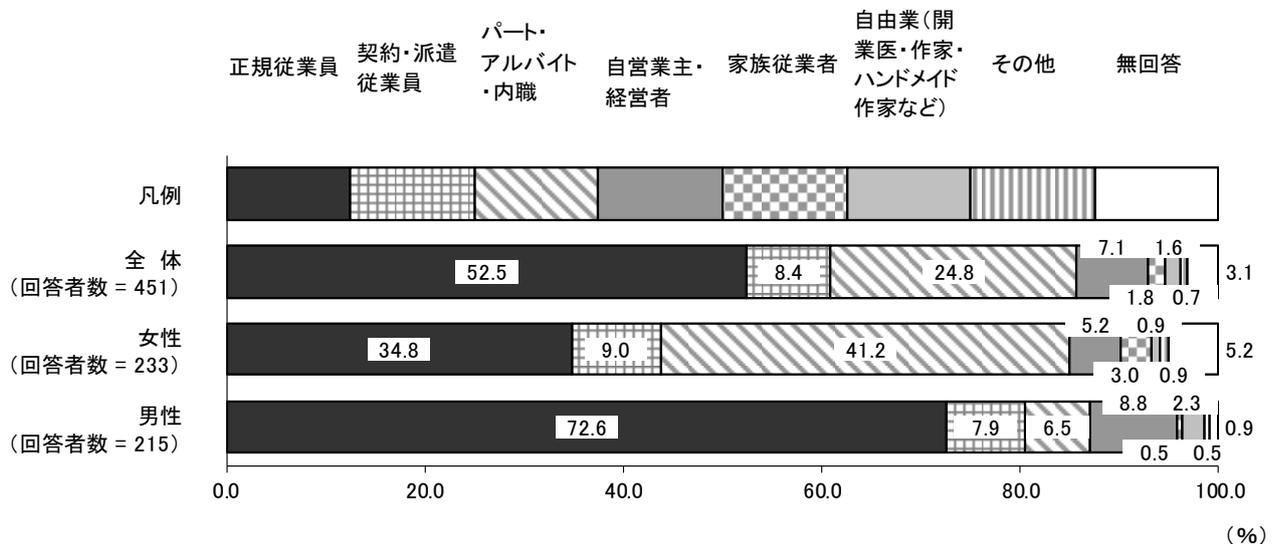
〈「している」と回答した人の就業形態〉

「正規従業員」の割合が 52.5%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・内職」の割合が 24.8%となっています。



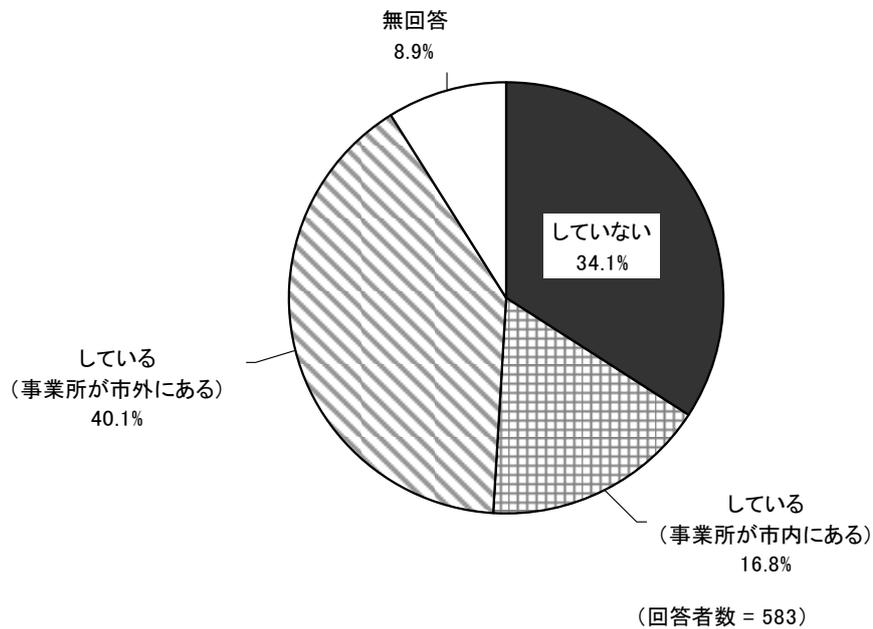
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「正規従業員」の割合が高くなっています。また、男性に比べ、女性で「パート・アルバイト・内職」の割合が高くなっています。



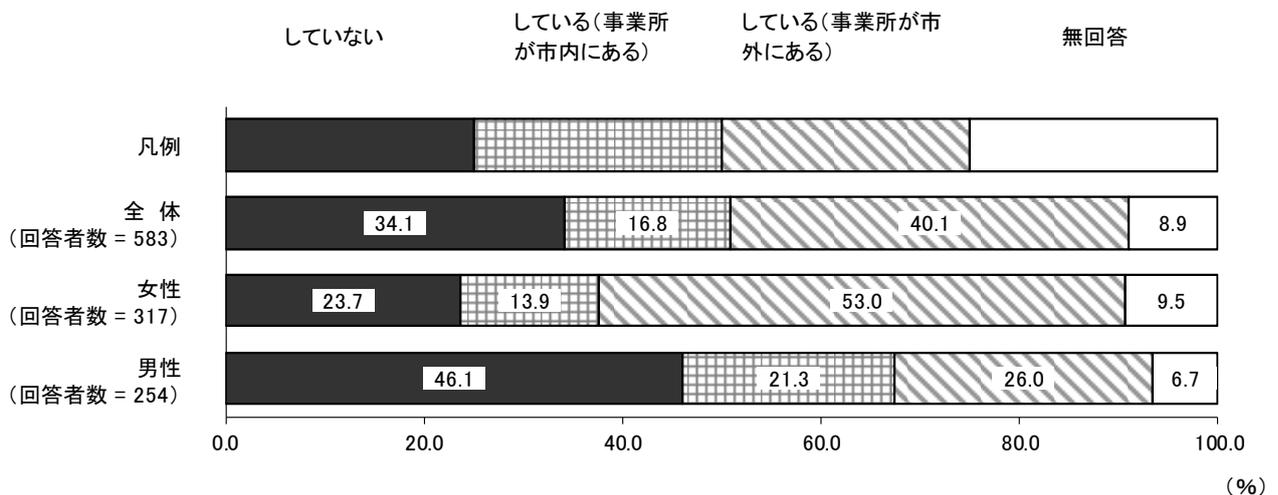
⑧ 就業（配偶者・パートナー）

「している（事業所が市外にある）」の割合が40.1%と最も高く、次いで「していない」の割合が34.1%、「している（事業所が市内にある）」の割合が16.8%となっています。



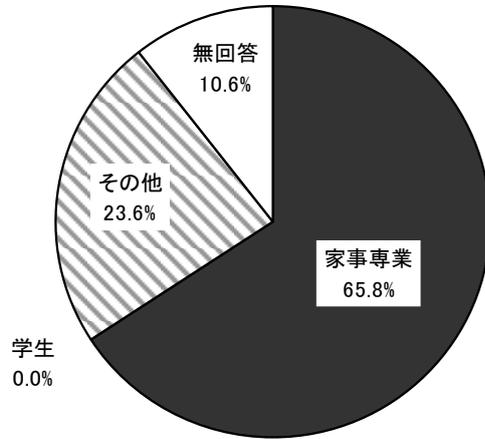
【性別】

性別で見ると、女性のパートナーに比べ、男性のパートナーで「していない」の割合が高くなっています。また、男性のパートナーに比べ、女性のパートナーで「している（事業所が市外にある）」の割合が高くなっています。



〈就業していないパートナーの職業〉

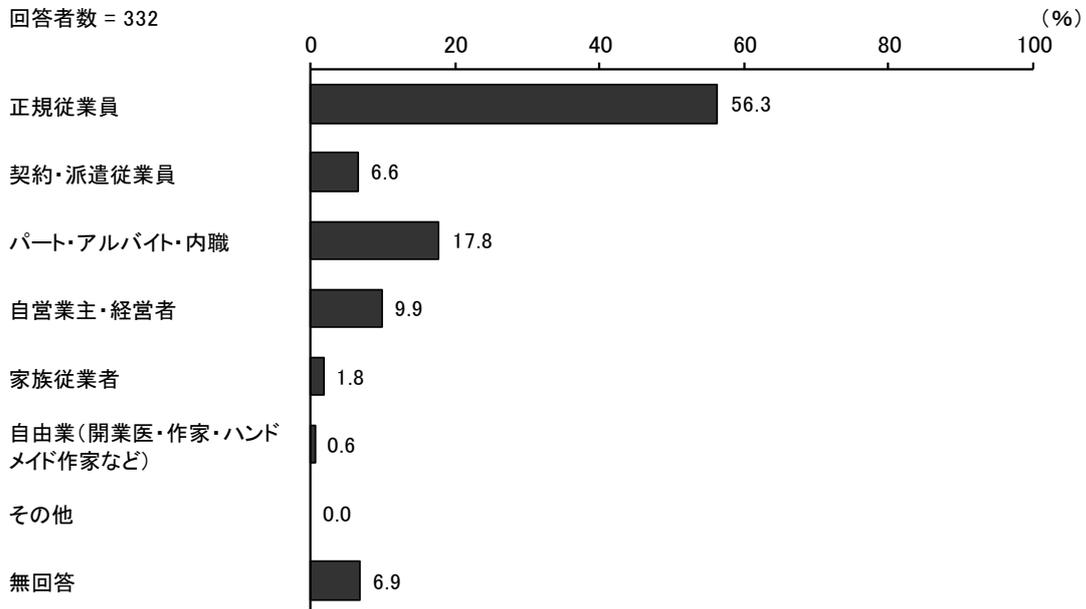
「家事専業」の割合が65.8%、「学生」の割合が0.0%となっています。



(回答者数 = 199)

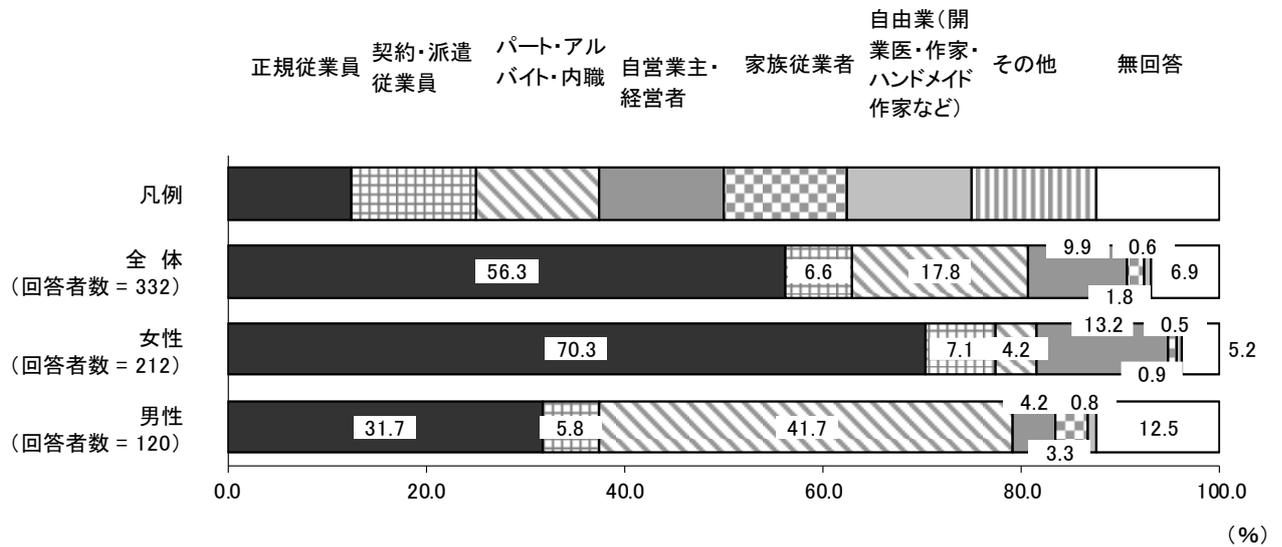
〈就業しているパートナーの就業形態〉

「正規従業員」の割合が56.3%と最も高く、次いで「パート・アルバイト・内職」の割合が17.8%となっています。



【性別】

性別で見ると、女性のパートナーに比べ、男性のパートナーで「パート・アルバイト・内職」「家族従業者」の割合が高くなっています。また、男性のパートナーに比べ、女性のパートナーで「正規従業員」の割合が高くなっています。



2 男女平等意識について

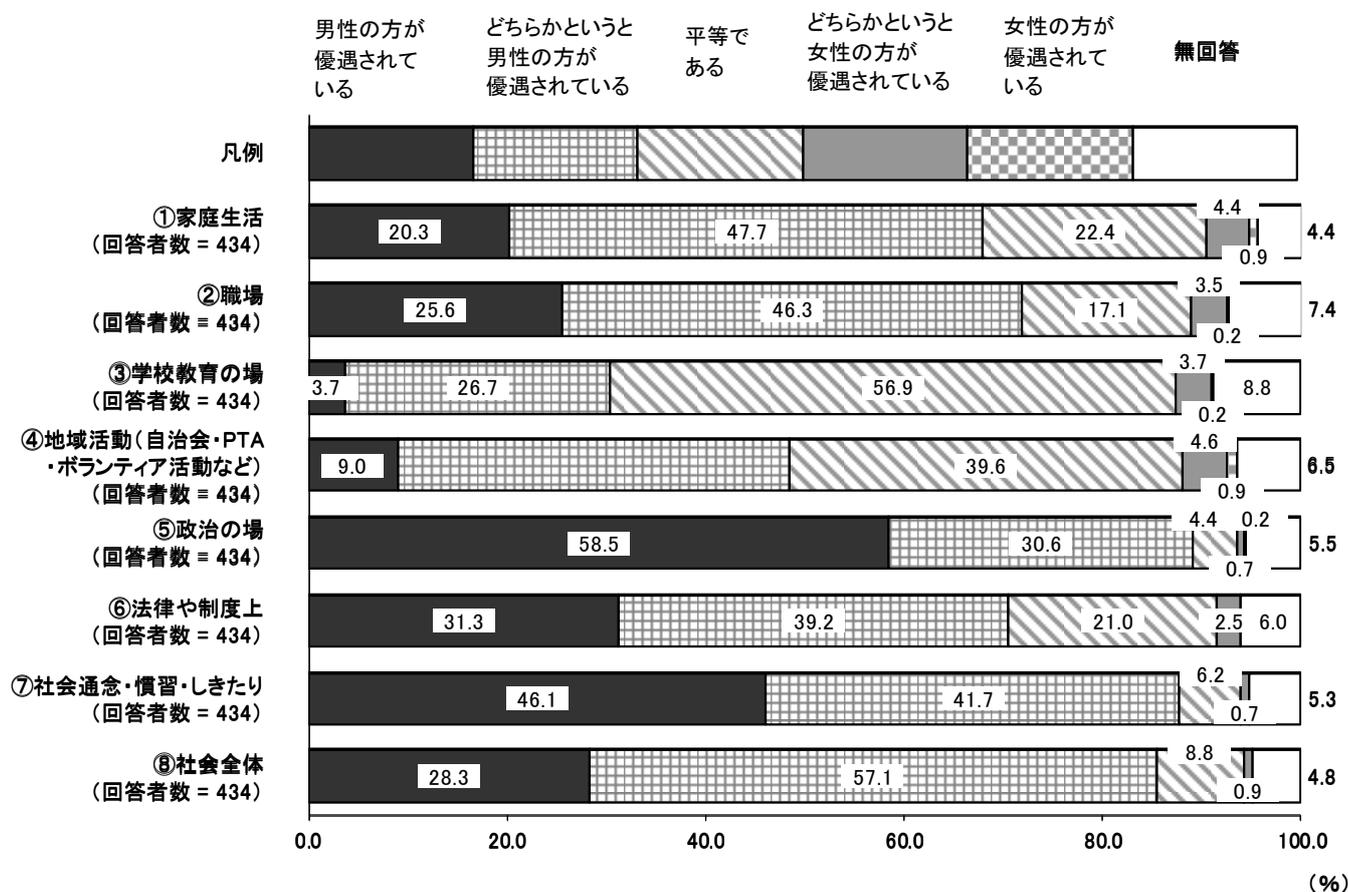
問1 あなたは次の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。
①～⑧の項目ごとに1つずつ○をつけてください。

【性別】

1. 女性

女性では、『③学校教育の場』を除くすべての項目で「男性の方が優遇されている」と「どちらかというと男性の方が優遇されている」をあわせた“男性の方が優遇されている”の割合が最も高くなっており、特に『⑤政治の場』『⑦社会通念・慣習・しきたり』では“男性の方が優遇されている”の割合が約90%となっています。

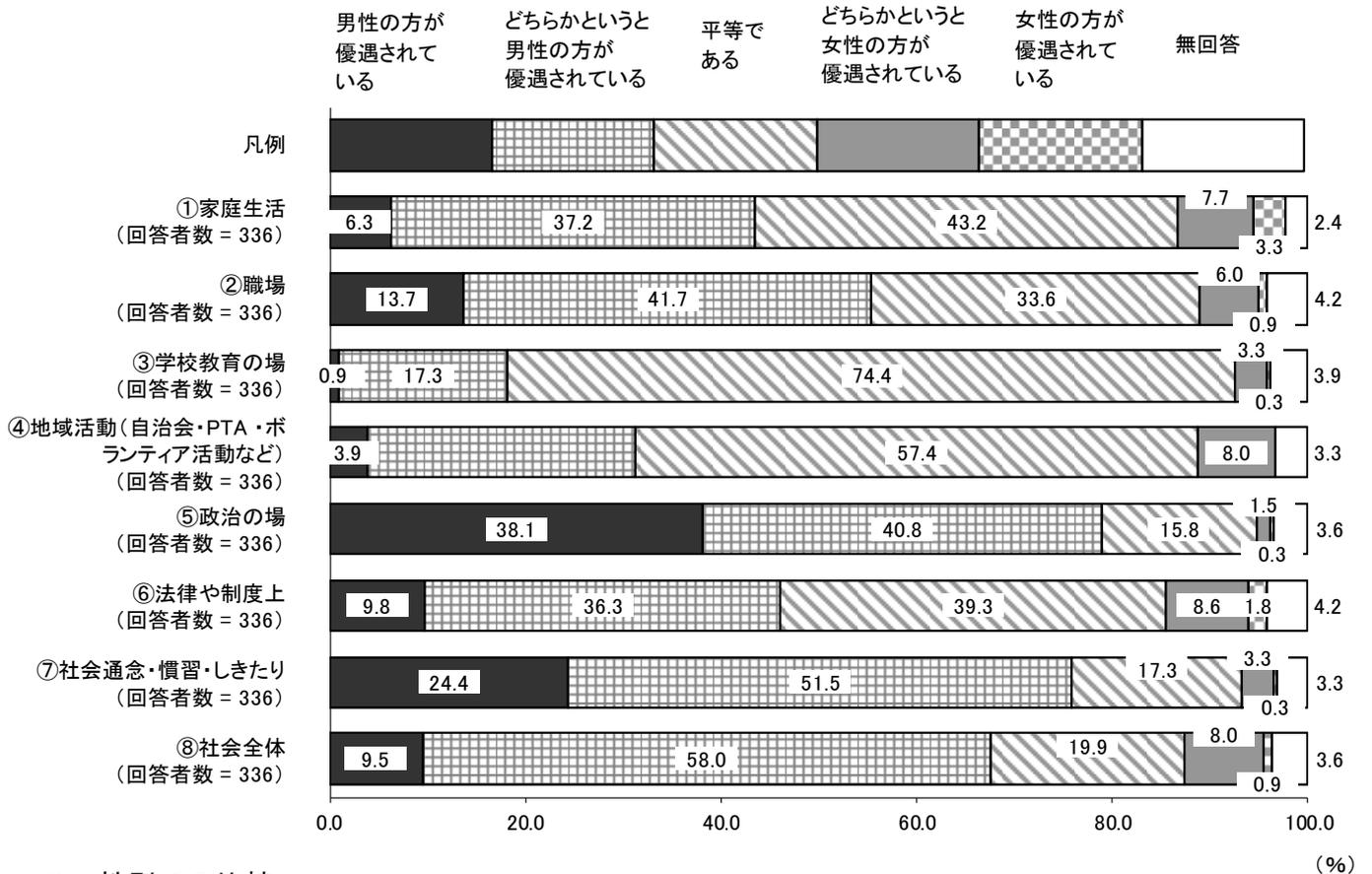
一方、『③学校教育の場』では「平等である」の割合が高く、56.9%となっています。



2. 男性

男性では、『③学校教育の場』『④地域活動（自治会・PTA・ボランティア活動など）』を除くすべての項目で“男性の方が優遇されている”の割合が最も高くなっており、『⑦社会通念・慣習・しきたり』で“男性の方が優遇されている”の割合が75.9%となっています。

一方、『③学校教育の場』で「平等である」の割合が高く、74.4%となっています。



3. 性別での比較

性別で比較すると、“男性の方が優遇されている”の割合は、すべての項目で男性よりも女性で割合が高くなっています。特に『①家庭生活』『⑥法律や制度上』では、“男性の方が優遇されている”の割合に性別で約24ポイントの差がみられます。

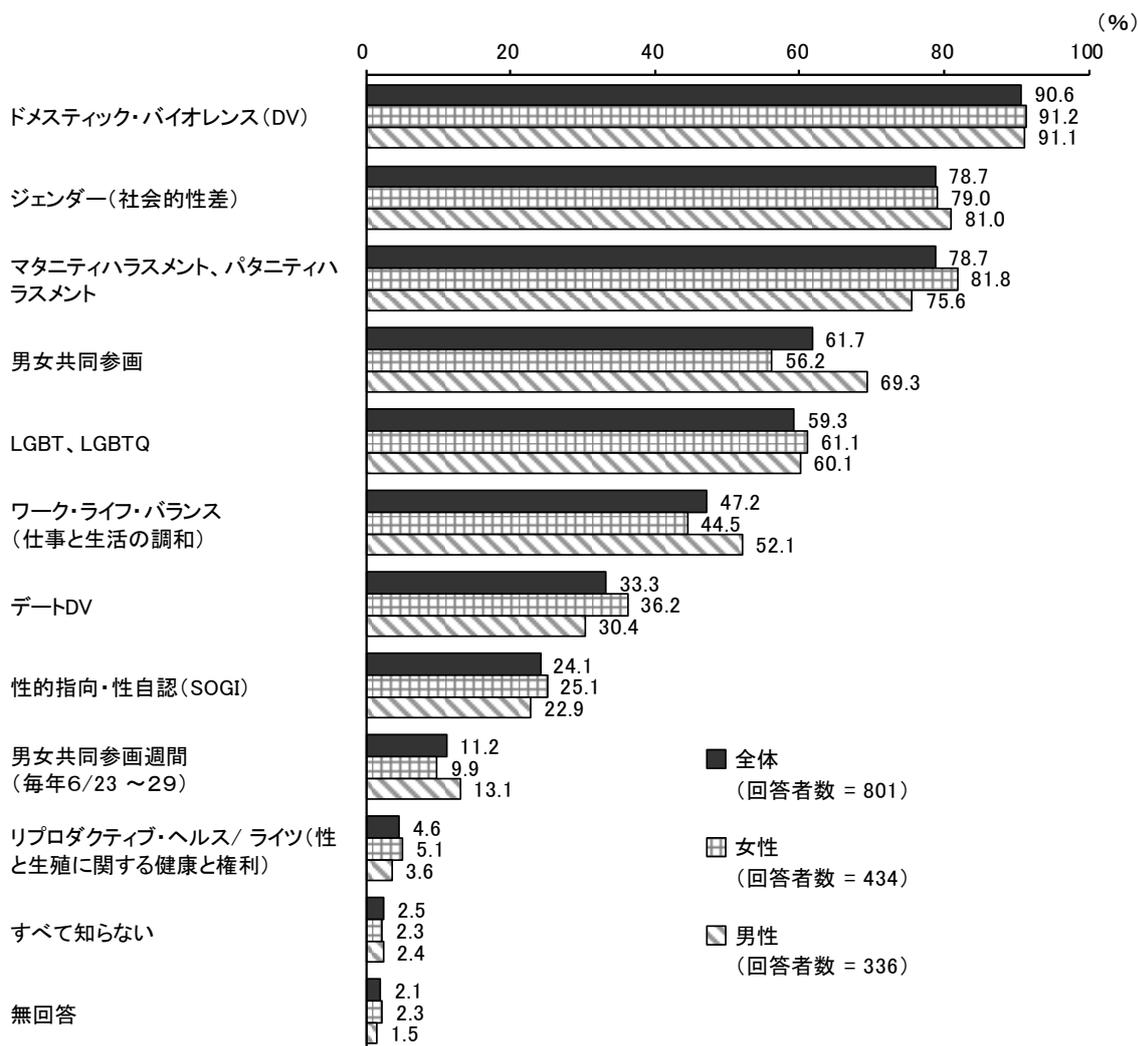
また、すべての項目で、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっており、すべての項目で、性別での差が10ポイント以上みられます。

問2 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりして、知っているものはありますか。
(〇はいくつでも)

「ドメスティック・バイオレンス (DV)」の割合が90.6%と最も高く、次いで「ジェンダー (社会的性差)」、「マタニティハラスメント、パタニティハラスメント」の割合が78.7%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「男女共同参画」「ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「マタニティハラスメント、パタニティハラスメント」「デートDV」の割合が高くなっています。

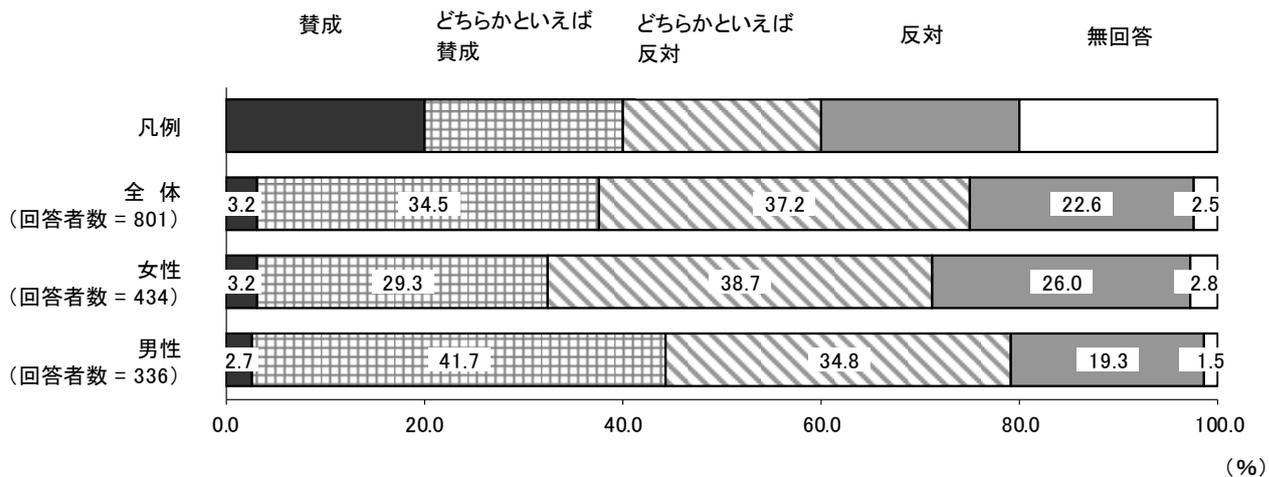


問3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”の割合が37.7%、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた“反対”の割合が59.8%となっています。

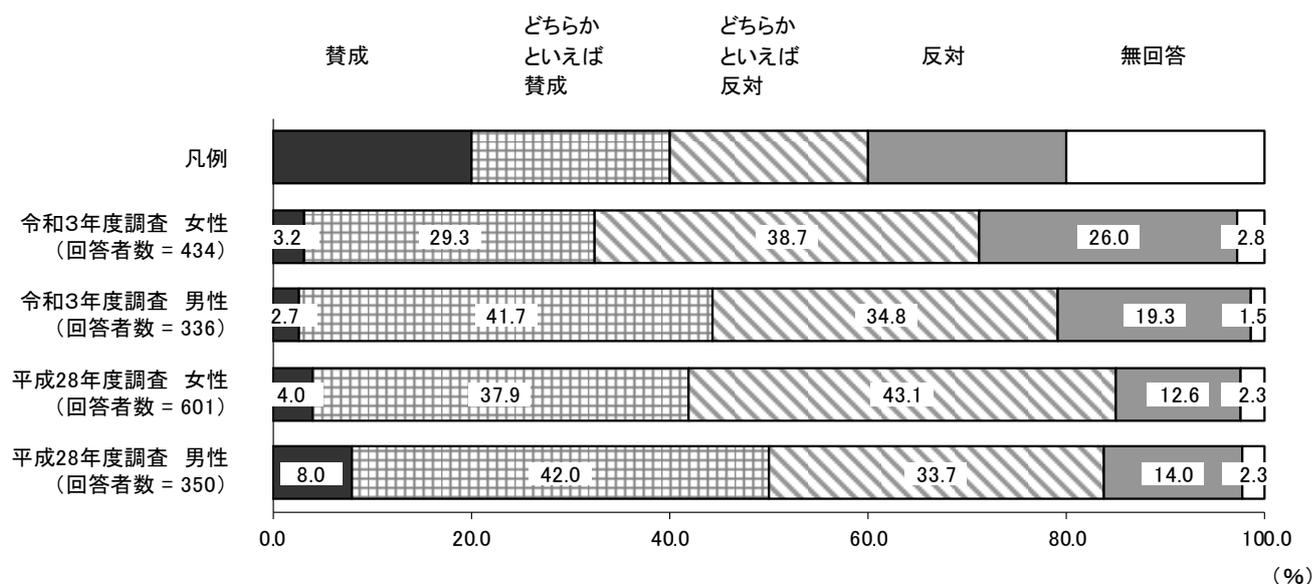
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「どちらかといえば賛成」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「反対」の割合が高くなっています。



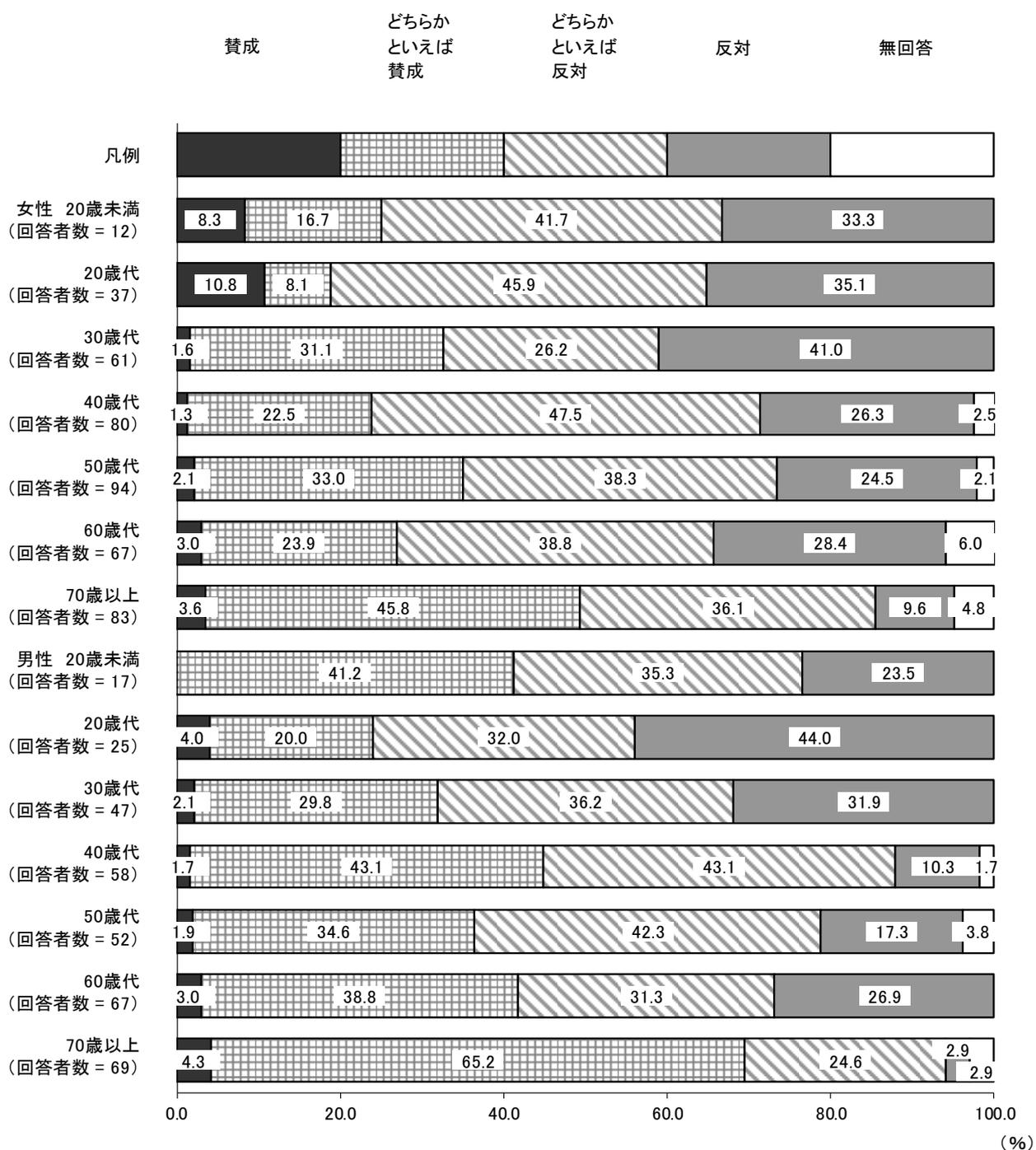
【前回比較】

平成28年度調査と比較すると、男女ともに、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた“反対”の割合が増加しています。



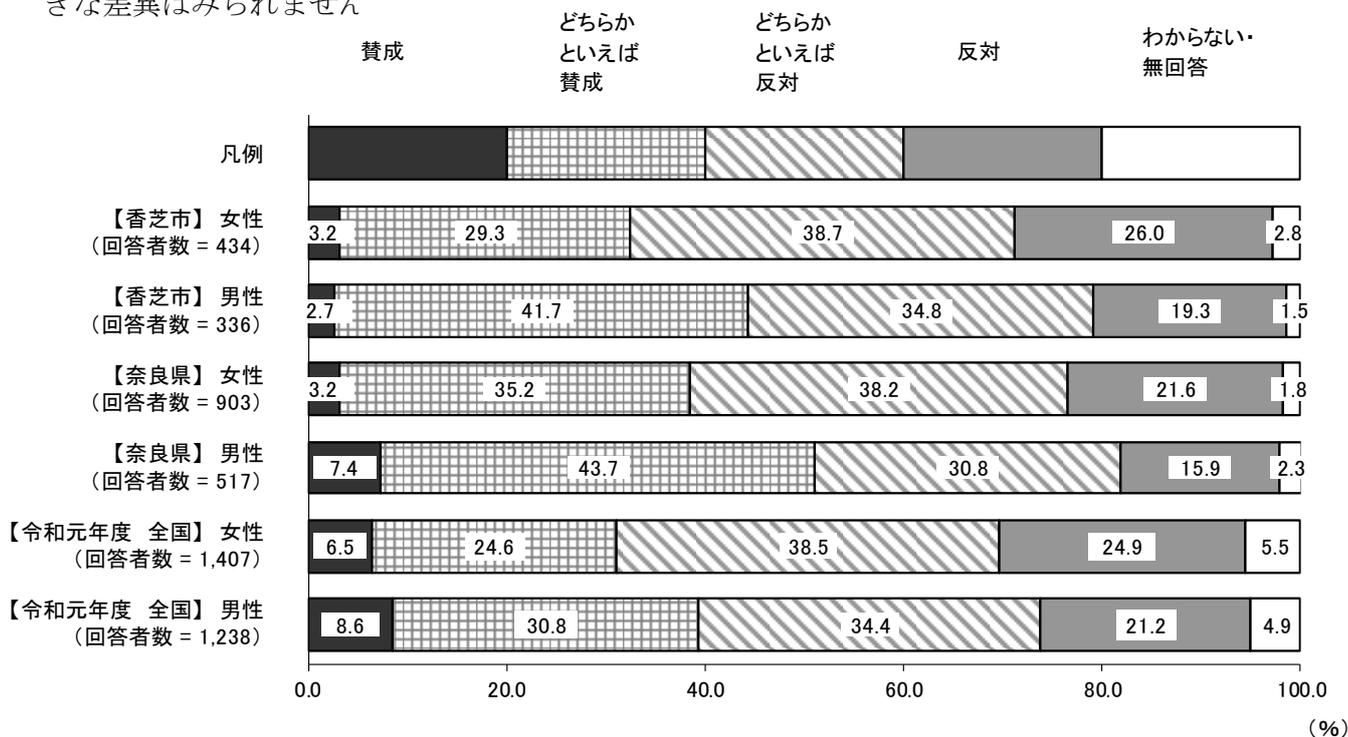
【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、女性の20歳代で「賛成」の割合が、男性の70歳以上で「どちらかといえば賛成」の割合が、女性の40歳代で「どちらかといえば反対」の割合が、男性の20歳代で「反対」の割合が高くなっています。



【国・県との比較】

県の調査^{※1}と比較すると、本市では、男性で「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた“賛成”の割合が、県の調査と比較するとやや低くなっています。全国調査^{※2}と比較すると、大きな差異はみられません



^{※1} 奈良県女性活躍推進に関する意識調査（令和元年度）

^{※2} 男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年度）

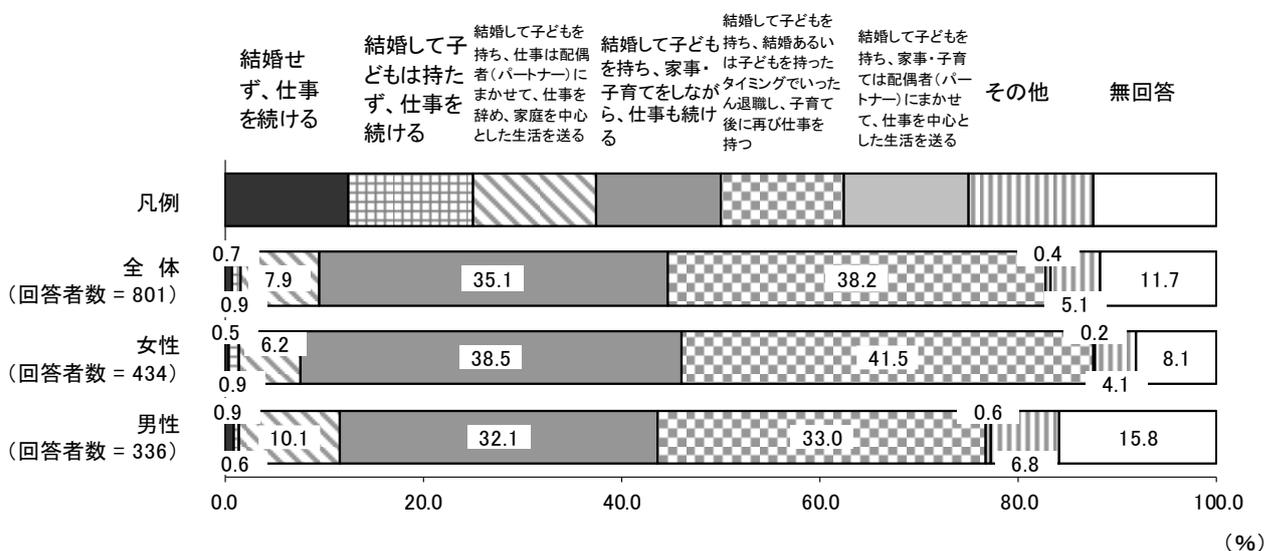
問4 あなたが考える、最も望ましいと思う女性・男性の生き方はどのようなタイプですか。下記に生き方のタイプをいくつか示してあるので、あなたの考えに近いものを選んでください。

(1) 女性の生き方

「結婚して子どもを持ち、結婚あるいは子どもを持ったタイミングでいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が38.2%と最も高く、次いで「結婚して子どもを持ち、家事・子育てをしながら、仕事も続ける」の割合が35.1%となっています。

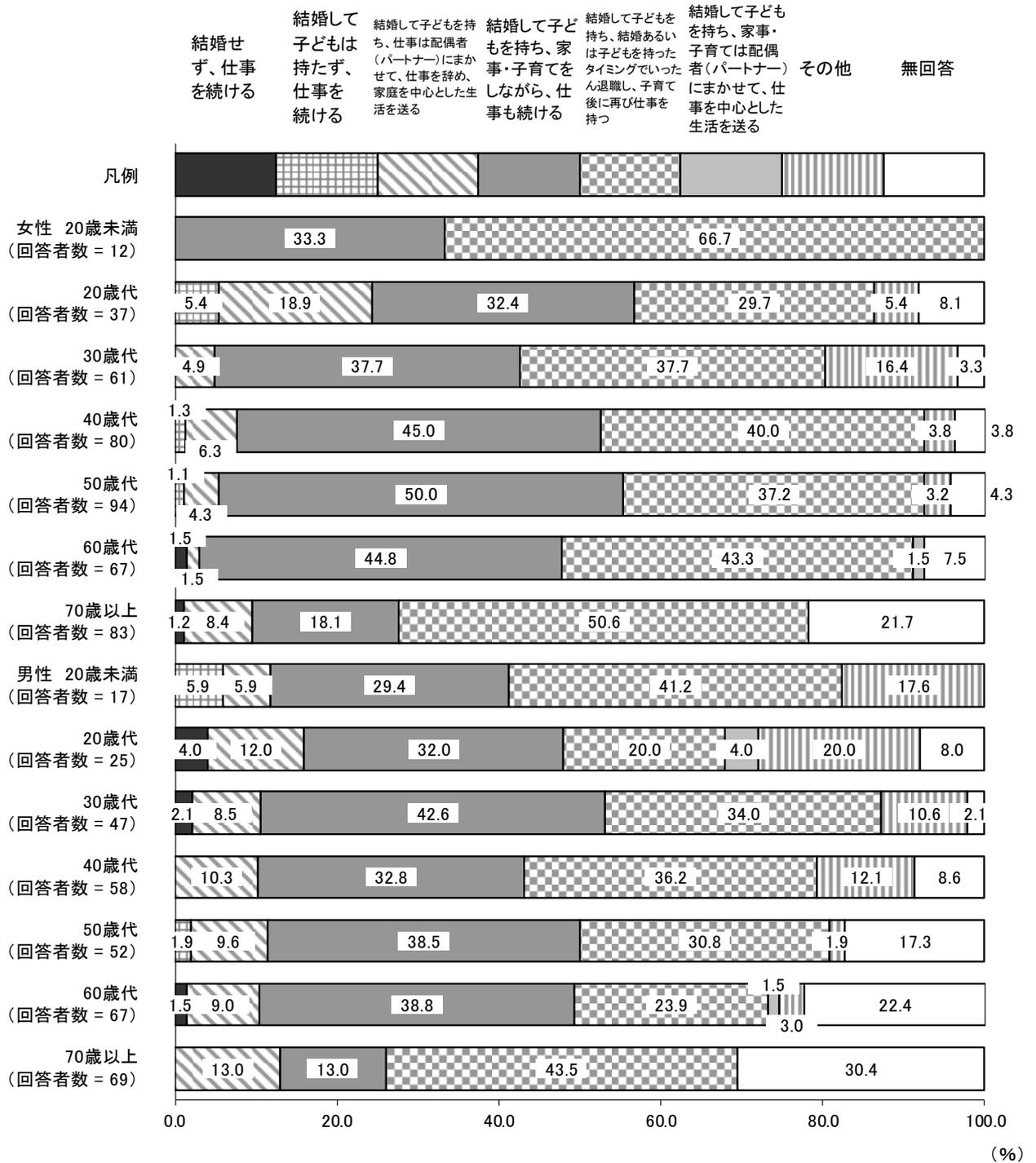
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「結婚して子どもを持ち、家事・子育てをしながら、仕事も続ける」「結婚して子どもを持ち、結婚あるいは子どもを持ったタイミングでいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が高くなっています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、女性の20歳代で「結婚して子どもを持ち、仕事は配偶者（パートナー）にまかせて、仕事を辞め、家庭を中心とした生活を送る」の割合が、女性の50歳代で「結婚して子どもを持ち、家事・子育てをしながら、仕事も続ける」の割合が、女性の20歳未満で「結婚して子どもを持ち、結婚あるいは子どもを持ったタイミングでいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が高くなっています。

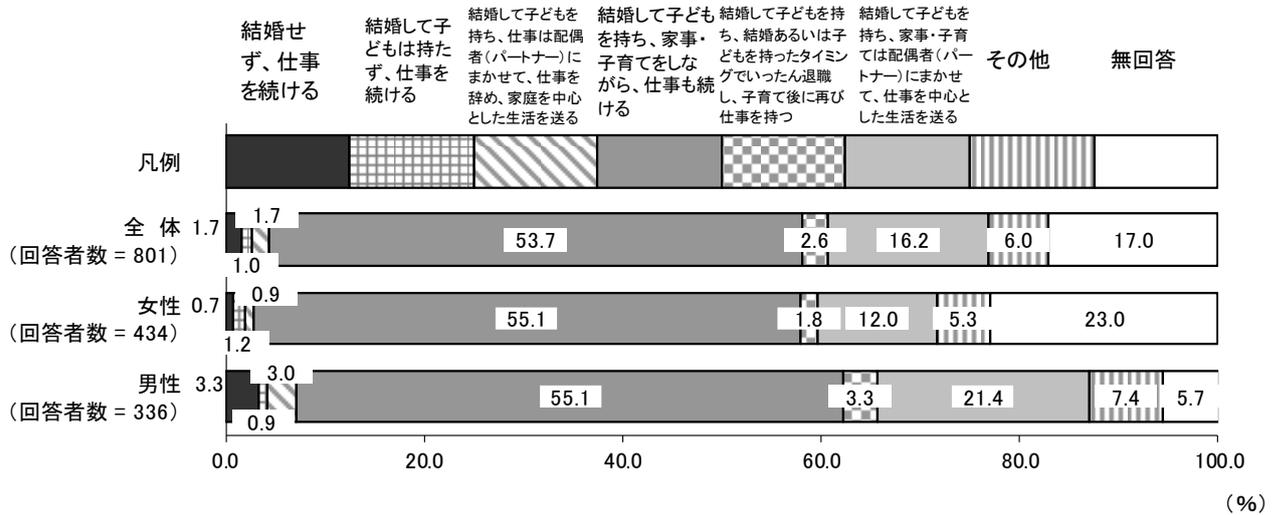


(2) 男性の生き方

「結婚して子どもを持ち、家事・子育てをしながら、仕事も続ける」の割合が53.7%と最も高く、次いで「結婚して子どもを持ち、家事・子育ては配偶者（パートナー）にまかせて、仕事を中心とした生活を送る」の割合が16.2%となっています。

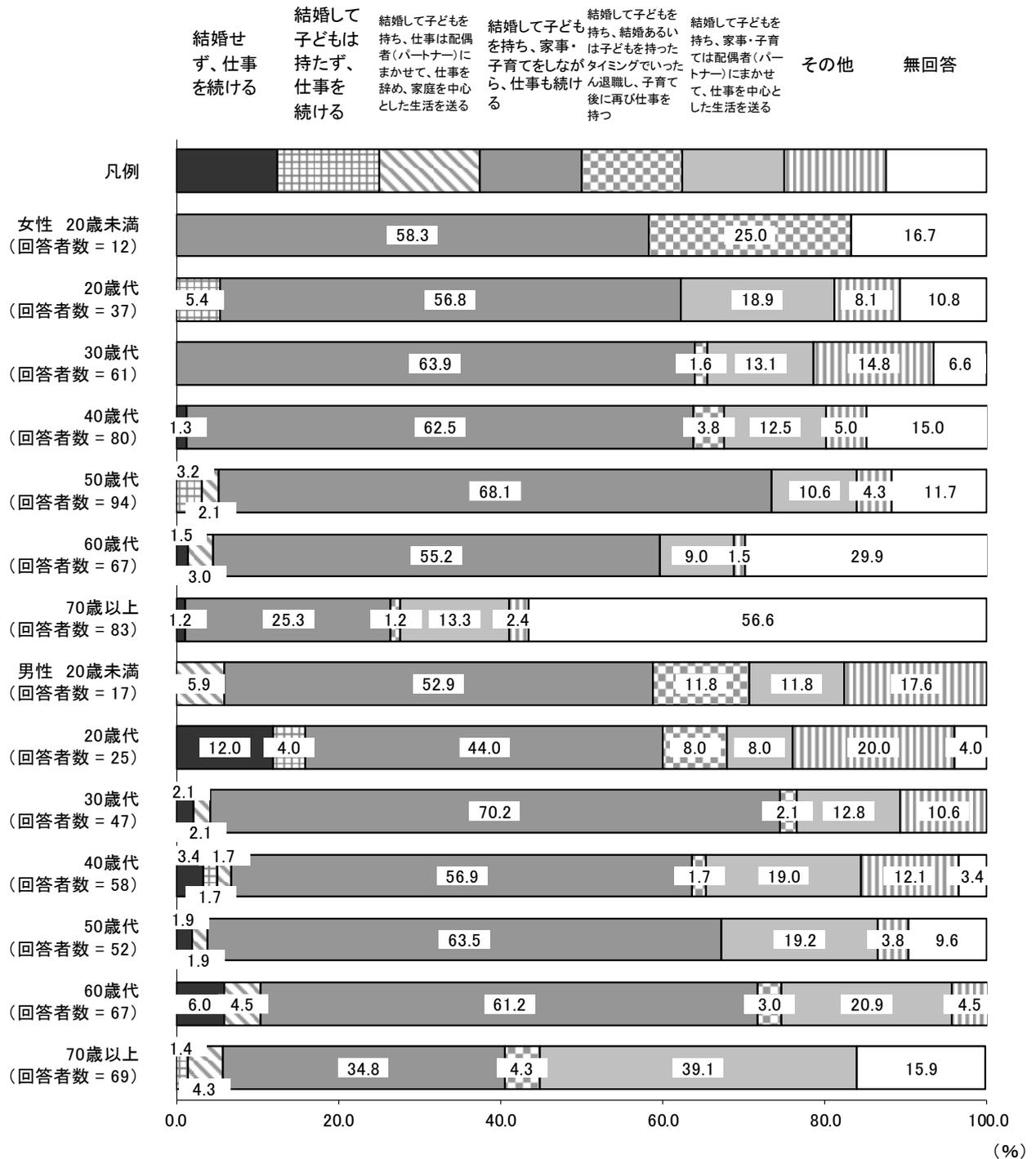
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「結婚して子どもを持ち、家事・子育ては配偶者（パートナー）にまかせて、仕事を中心とした生活を送る」の割合が高くなっています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、男性の30歳代で「結婚して子どもを持ち、家事・子育てをしながら、仕事も続ける」の割合が、男性の70歳以上で「結婚して子どもを持ち、家事・子育ては配偶者（パートナー）にまかせて、仕事を中心とした生活を送る」の割合が高くなっています。



3 家庭生活や、地域での活動について

問5 (1) あなたの家庭では、①～⑥の項目について、主に誰が担っていますか。
現在一人暮らしの方は、過去の生活のことをお答えください。
(〇は1つずつ)

(2) あなたは、①～⑥の項目について、主に誰が担うのが理想だと思いますか。(〇は1つずつ)

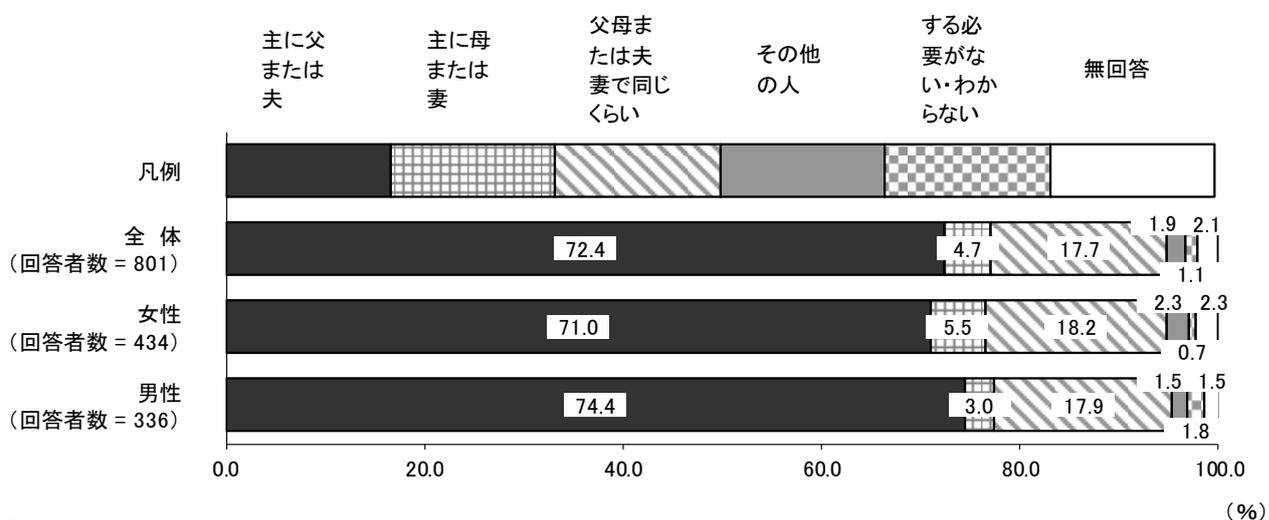
①生活費を得る

ア 現状

「主に父または夫」の割合が72.4%と最も高く、次いで「父母または夫妻で同じくらい」の割合が17.7%となっています。

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

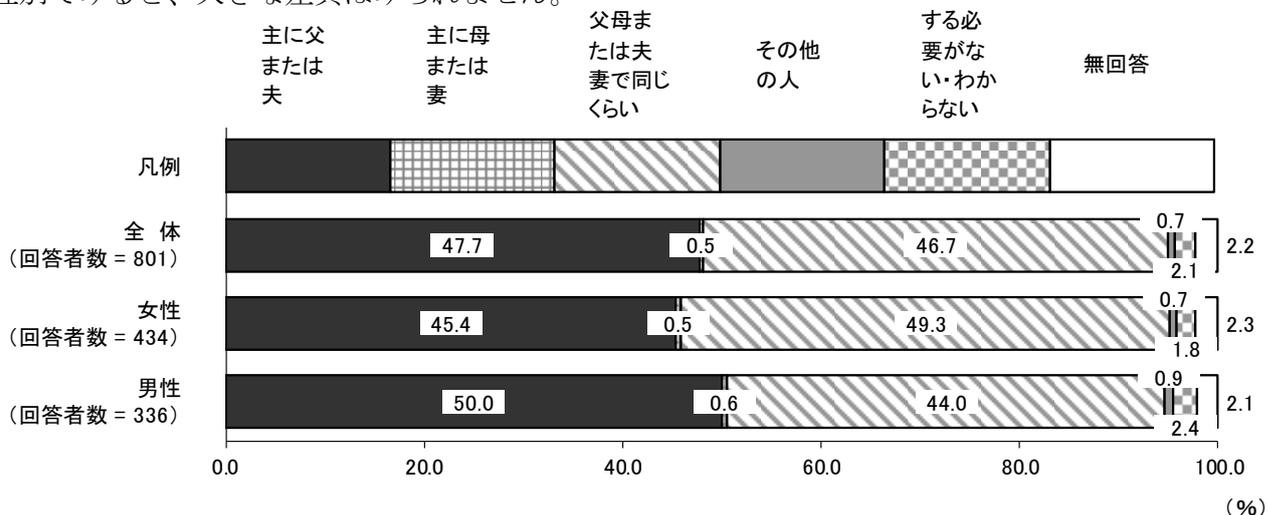


イ 理想

「主に父または夫」の割合が47.7%と最も高く、次いで「父母または夫妻で同じくらい」の割合が46.7%となっています。

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



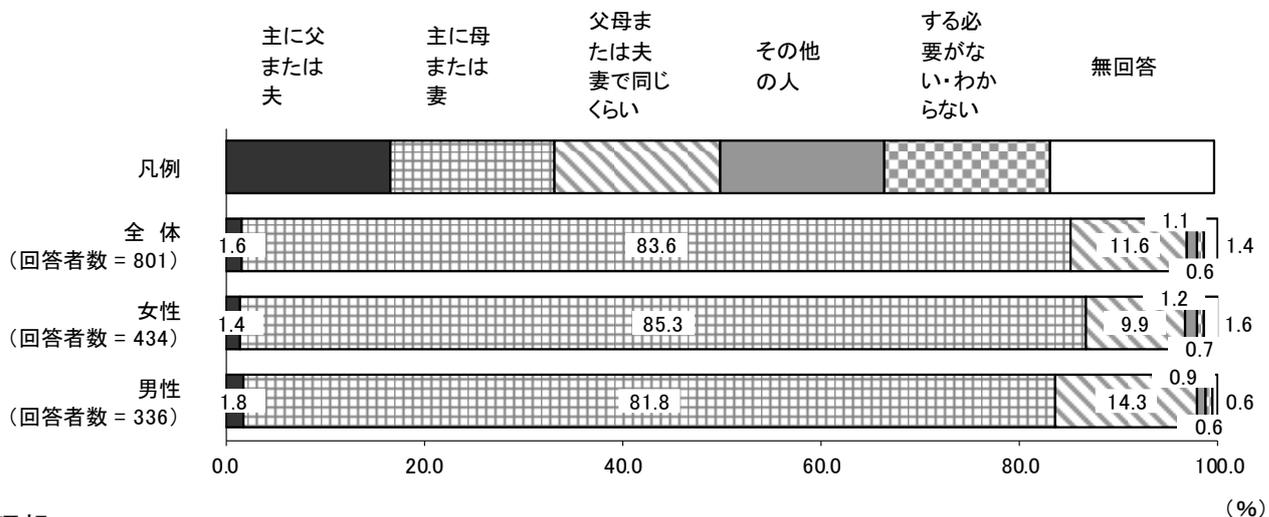
②日常の家事（炊事・掃除・洗濯など）

ア 現状

「主に母または妻」の割合が83.6%と最も高く、次いで「父母または夫妻で同じくらい」の割合が11.6%となっています。

【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。

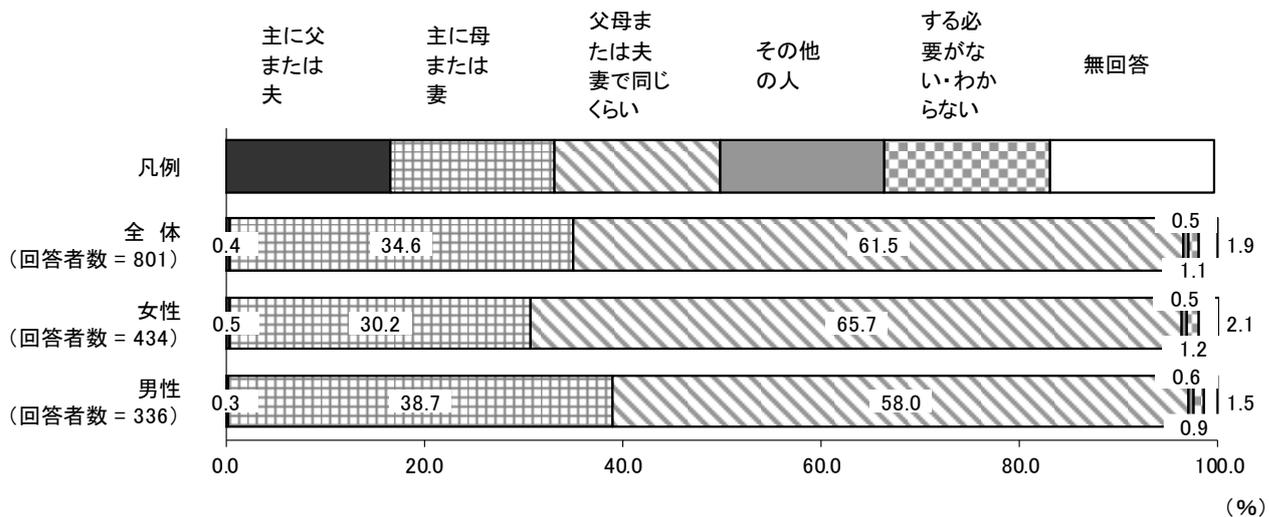


イ 理想

「父母または夫妻で同じくらい」の割合が61.5%と最も高く、次いで「主に母または妻」の割合が34.6%となっています。

【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「主に母または妻」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「父母または夫妻で同じくらい」の割合が高くなっています。



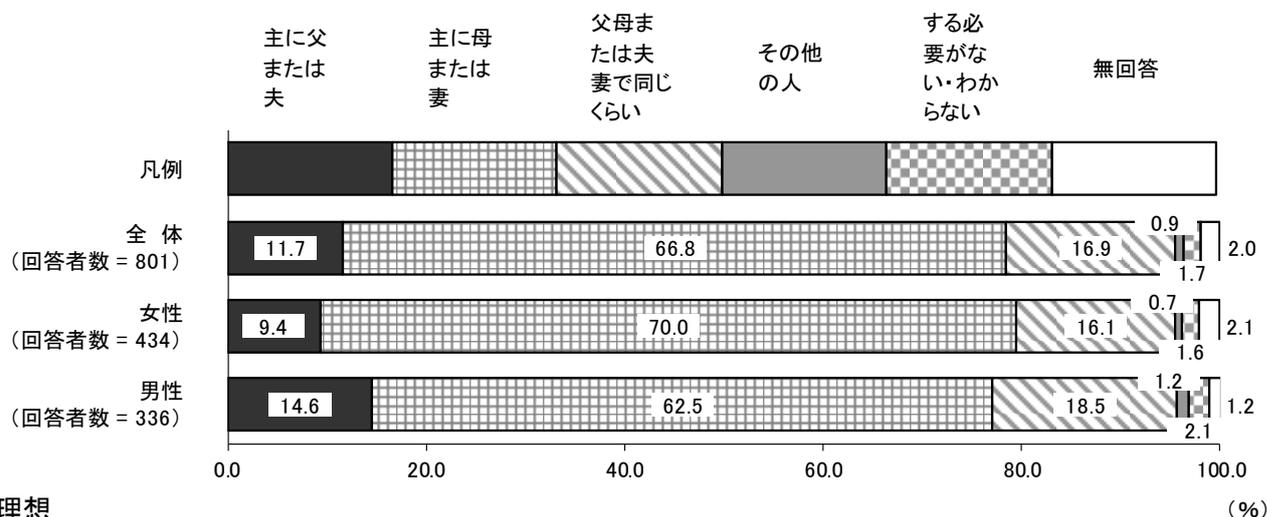
③日常の家計の管理

ア 現状

「主に母または妻」の割合が66.8%と最も高く、次いで「父母または夫妻で同じくらい」の割合が16.9%、「主に父または夫」の割合が11.7%となっています。

【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。

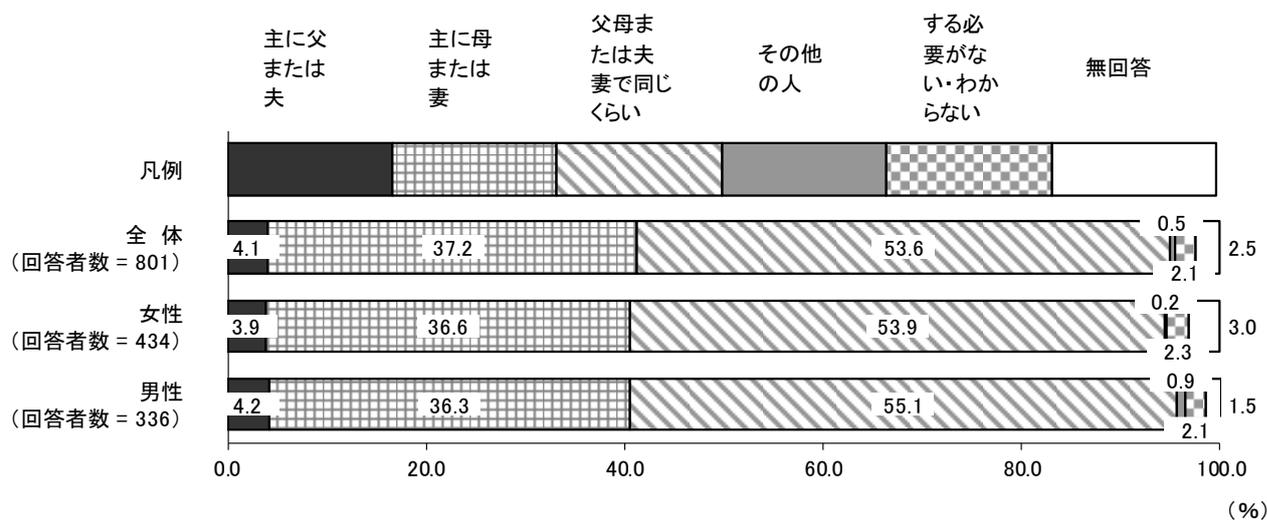


イ 理想

「父母または夫妻で同じくらい」の割合が53.6%と最も高く、次いで「主に母または妻」の割合が37.2%となっています。

【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



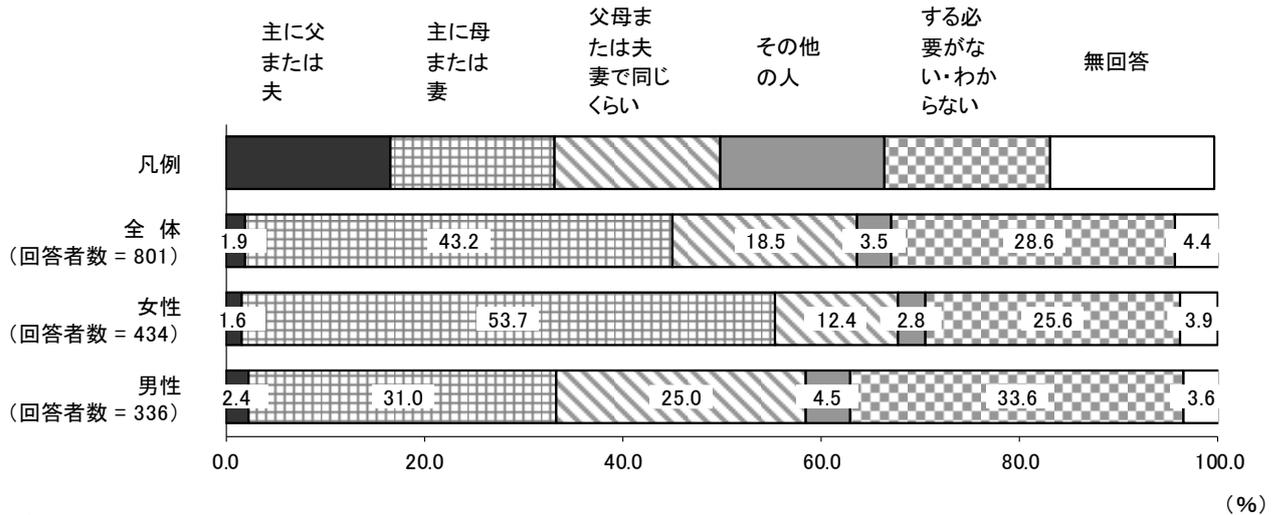
④家族の介護や看護

ア 現状

「主に母または妻」の割合が43.2%と最も高く、次いで「する必要がない・わからない」の割合が28.6%、「父母または夫妻で同じくらい」の割合が18.5%となっています。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「主に母または妻」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「父母または夫妻で同じくらい」「する必要がない・わからない」の割合が高くなっています。

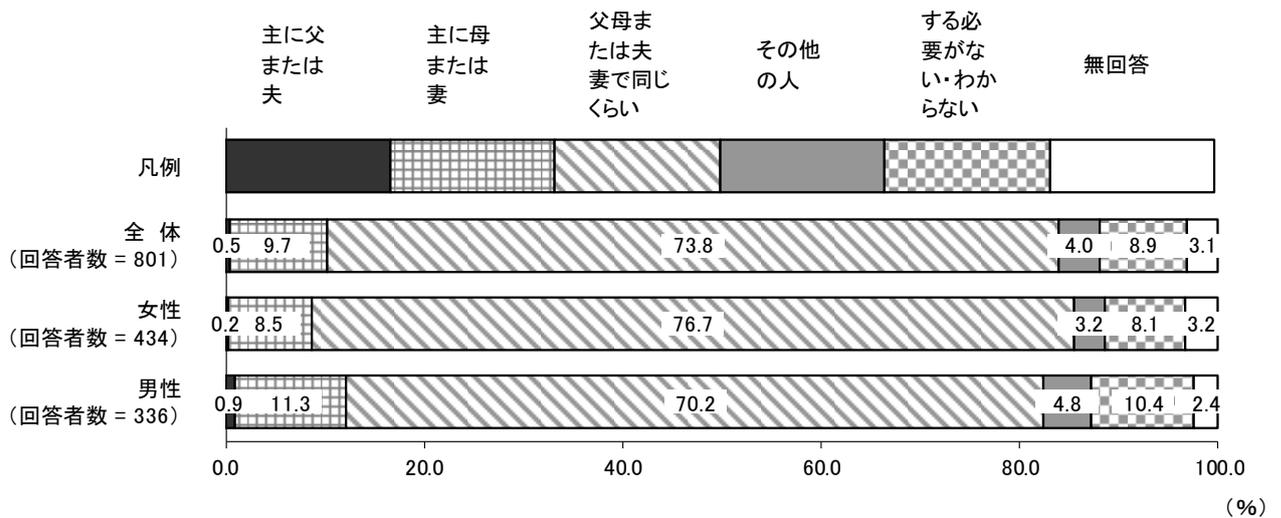


イ 理想

「父母または夫妻で同じくらい」の割合が73.8%と最も高くなっています。

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



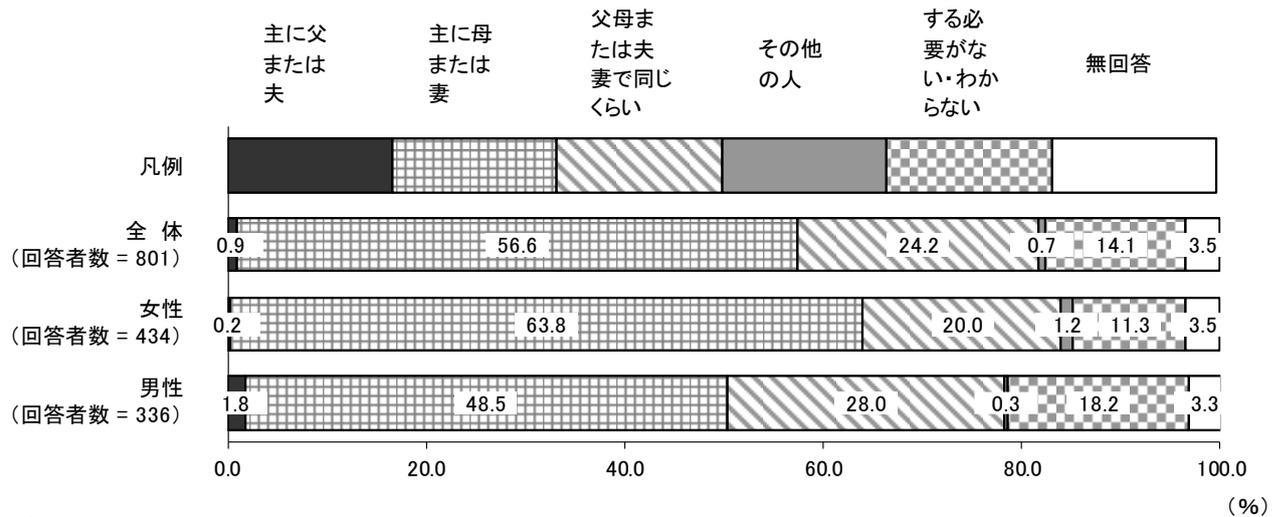
⑤子どもの世話・教育

ア 現状

「主に母または妻」の割合が56.6%と最も高く、次いで「父母または夫妻で同じくらい」の割合が24.2%、「する必要がない・わからない」の割合が14.1%となっています。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「主に母または妻」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「父母または夫妻で同じくらい」「する必要がない・わからない」の割合が高くなっています。

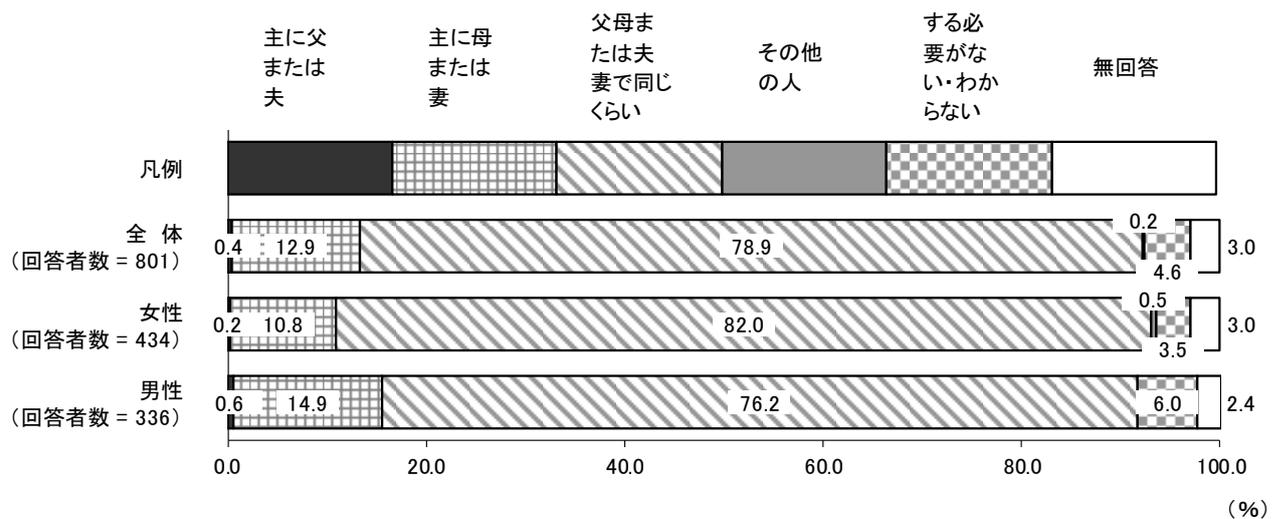


イ 理想

「父母または夫妻で同じくらい」の割合が78.9%と最も高く、次いで「主に母または妻」の割合が12.9%となっています。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「父母または夫妻で同じくらい」の割合が高くなっています。



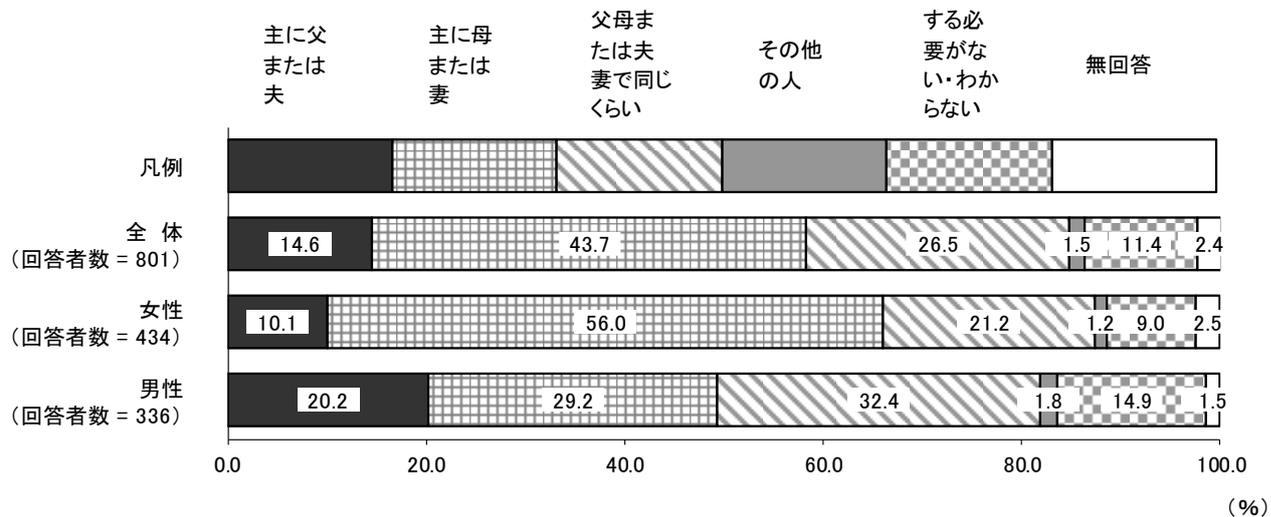
⑥地域活動（自治会やPTA、ボランティアなど）

ア 現状

「主に母または妻」の割合が43.7%と最も高く、次いで「父母または夫妻で同じくらい」の割合が26.5%、「主に父または夫」の割合が14.6%となっています。

【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「主に父または夫」「父母または夫妻で同じくらい」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「主に母または妻」の割合が高くなっています。

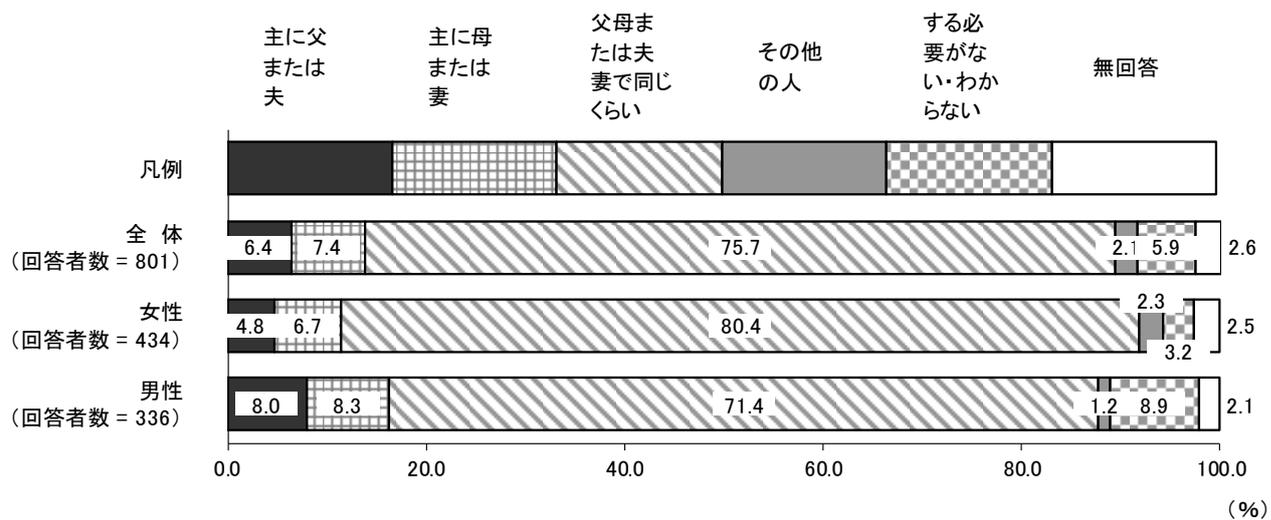


イ 理想

「父母または夫妻で同じくらい」の割合が75.7%と最も高くなっています。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「父母または夫妻で同じくらい」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「する必要がない・わからない」の割合が高くなっています。



問6 (1) あなたの現在の生活で、「①仕事」「②家庭生活」「③地域活動」「④プライベート」に費やす時間と労力が占める割合は、何%くらいですか。

また、(2) あなたの理想としては何%くらいを希望しますか。それぞれについて数字を記入してください。

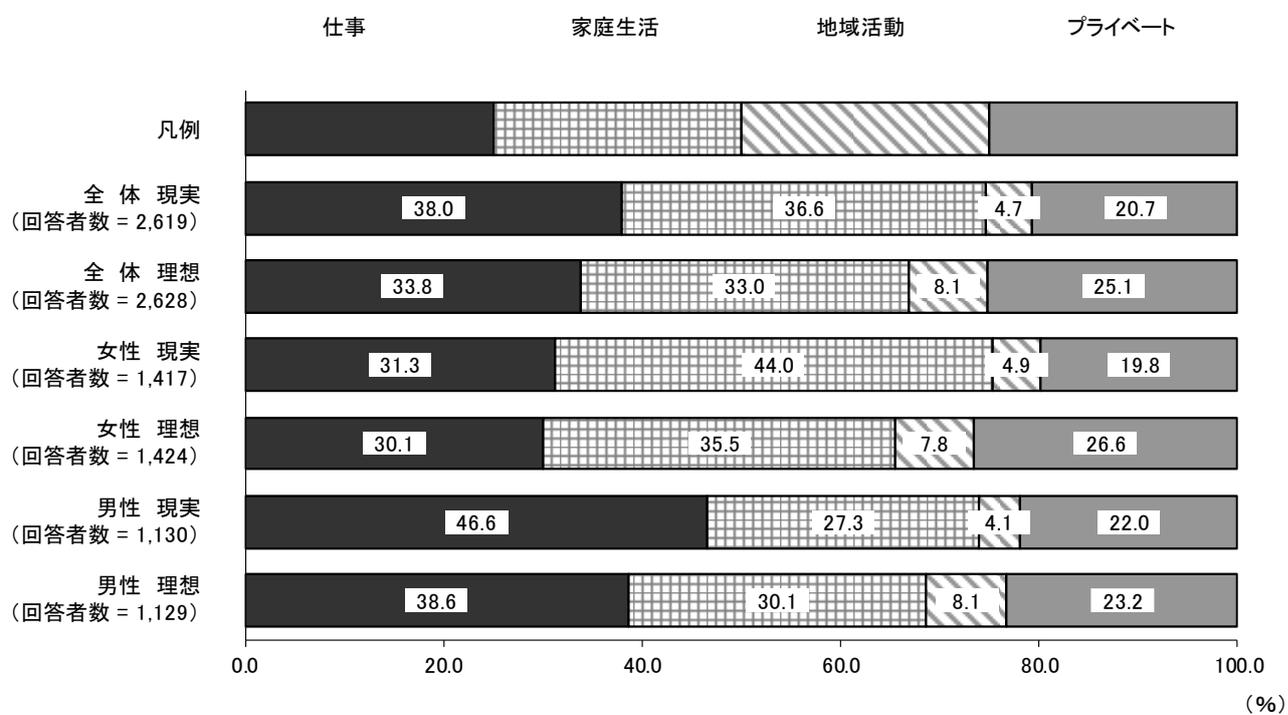
現実では、「仕事」の割合が38.0%と最も高く、次いで「家庭生活」の割合が36.6%、「プライベート」の割合が20.7%となっています。

理想では、「仕事」の割合が33.8%と最も高く、次いで「家庭生活」の割合が33.0%、「プライベート」の割合が25.1%となっています。

理想に比べ、現実で「仕事」の割合が高く、「プライベート」の割合が低くなっています。

【性別】

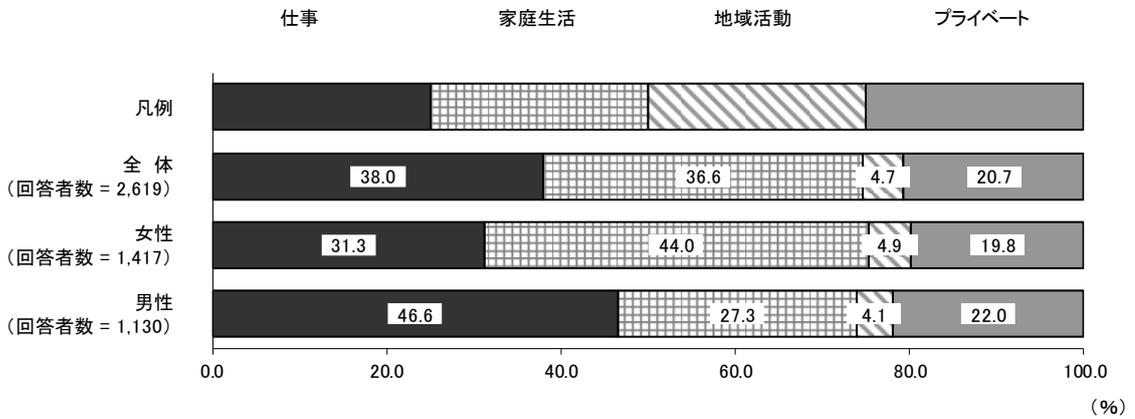
性別でみると、現実と理想の乖離が大きいものは、女性では「家庭生活」、男性では「仕事」となっており、どちらも理想に比べて現実で大きい比重となっています。



(1) 現実

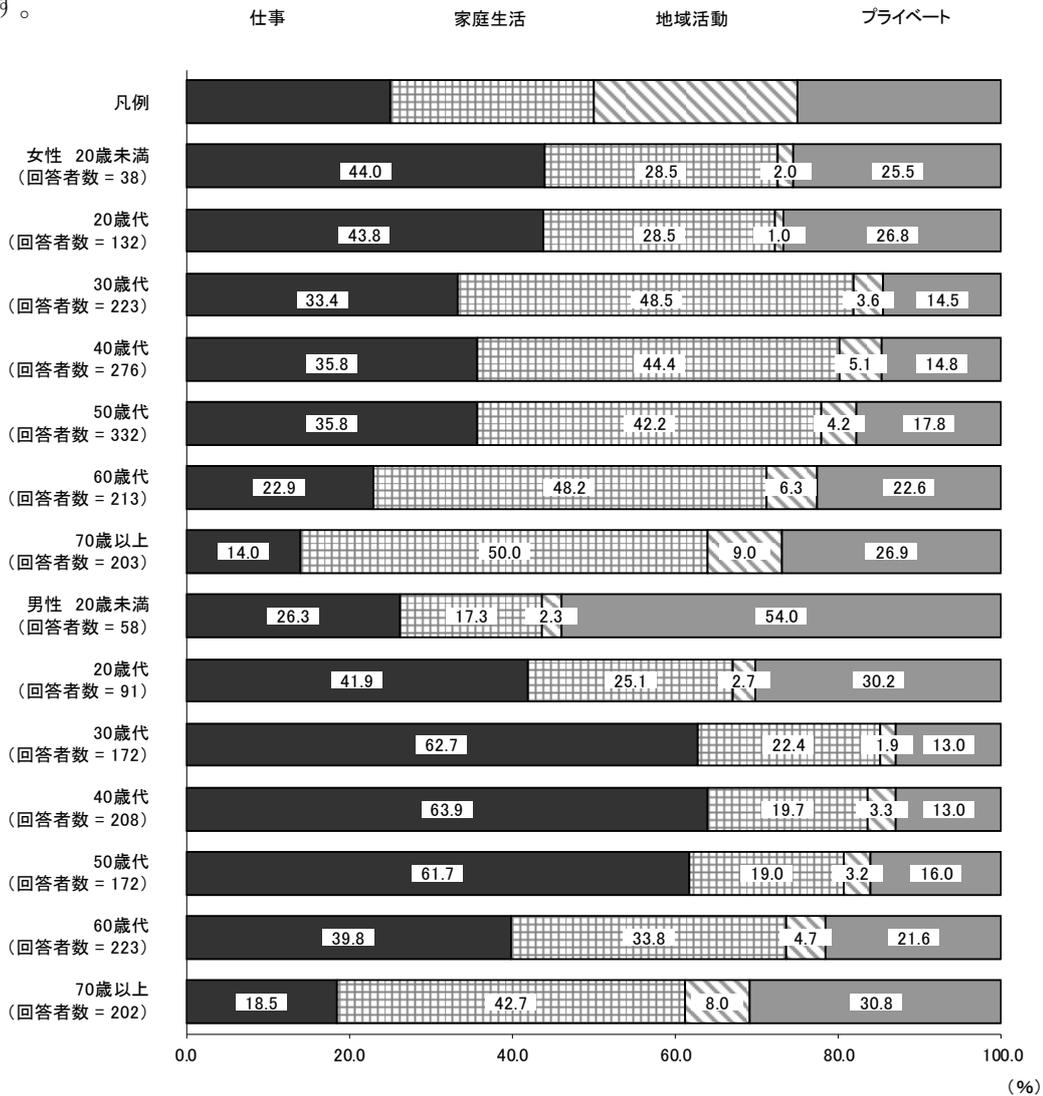
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家庭生活」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「仕事」の割合が高くなっています。



【性年齢別】

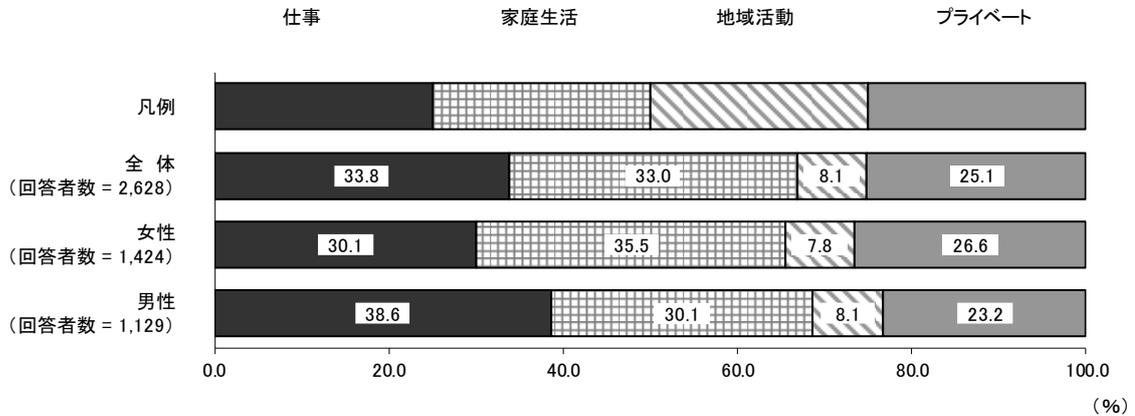
性年齢別でみると、女性で年齢が下がるにつれ「仕事」の割合が、年齢が上がるにつれ「家庭生活」の割合が高くなる傾向がみられます。また、男性の30歳代から50歳代にかけて「仕事」の割合が高くなっているほか、男女とも30歳代から50歳代で「プライベート」の割合が低くなっています。



(2) 理想

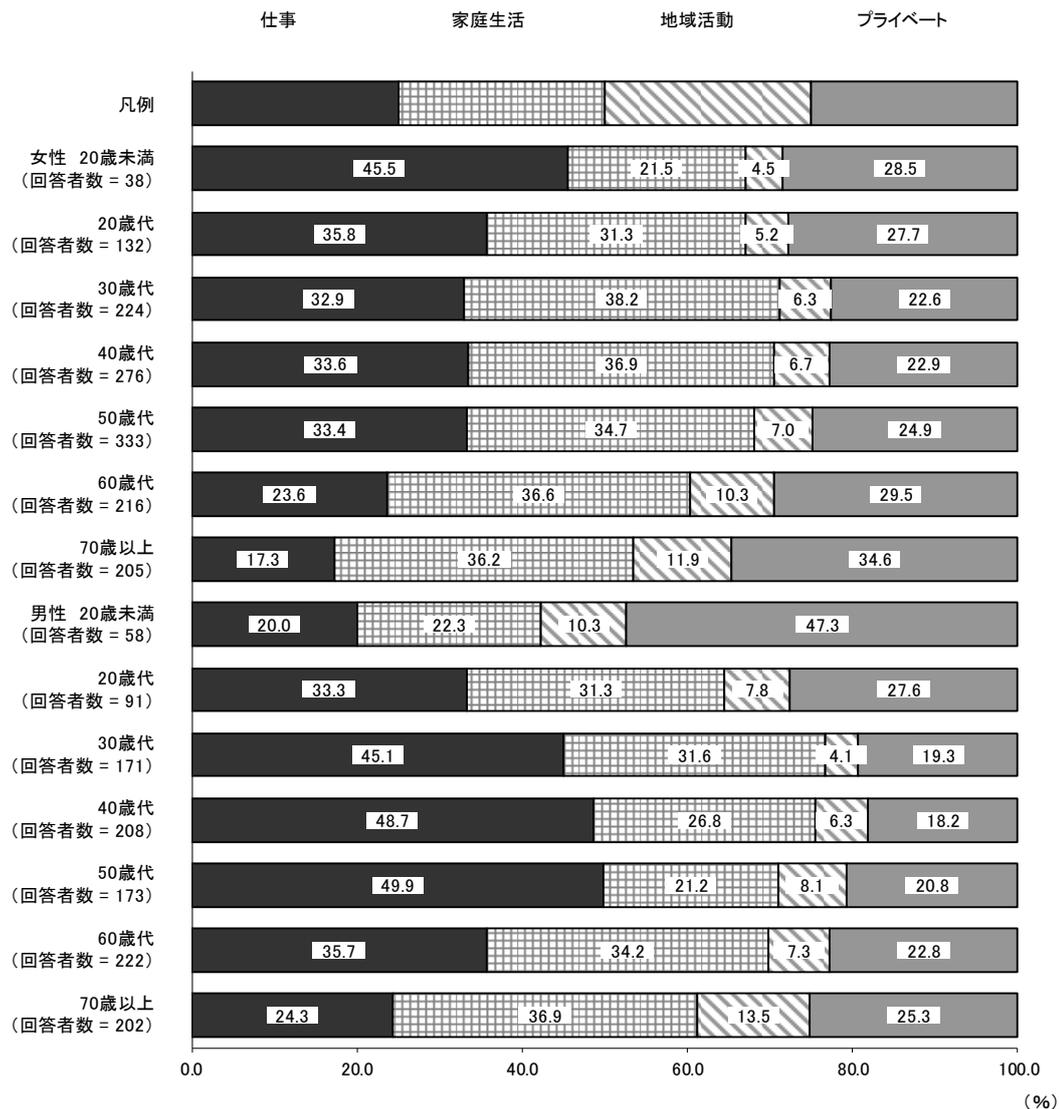
【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「家庭生活」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「仕事」の割合が高くなっています。



【性年齢別】

性年齢別で見ると、他に比べ、女性の20歳代、男性の30歳代から50歳代で「仕事」の割合が高くなっています。また、男性の20歳代で「プライベート」の割合が高くなっています。

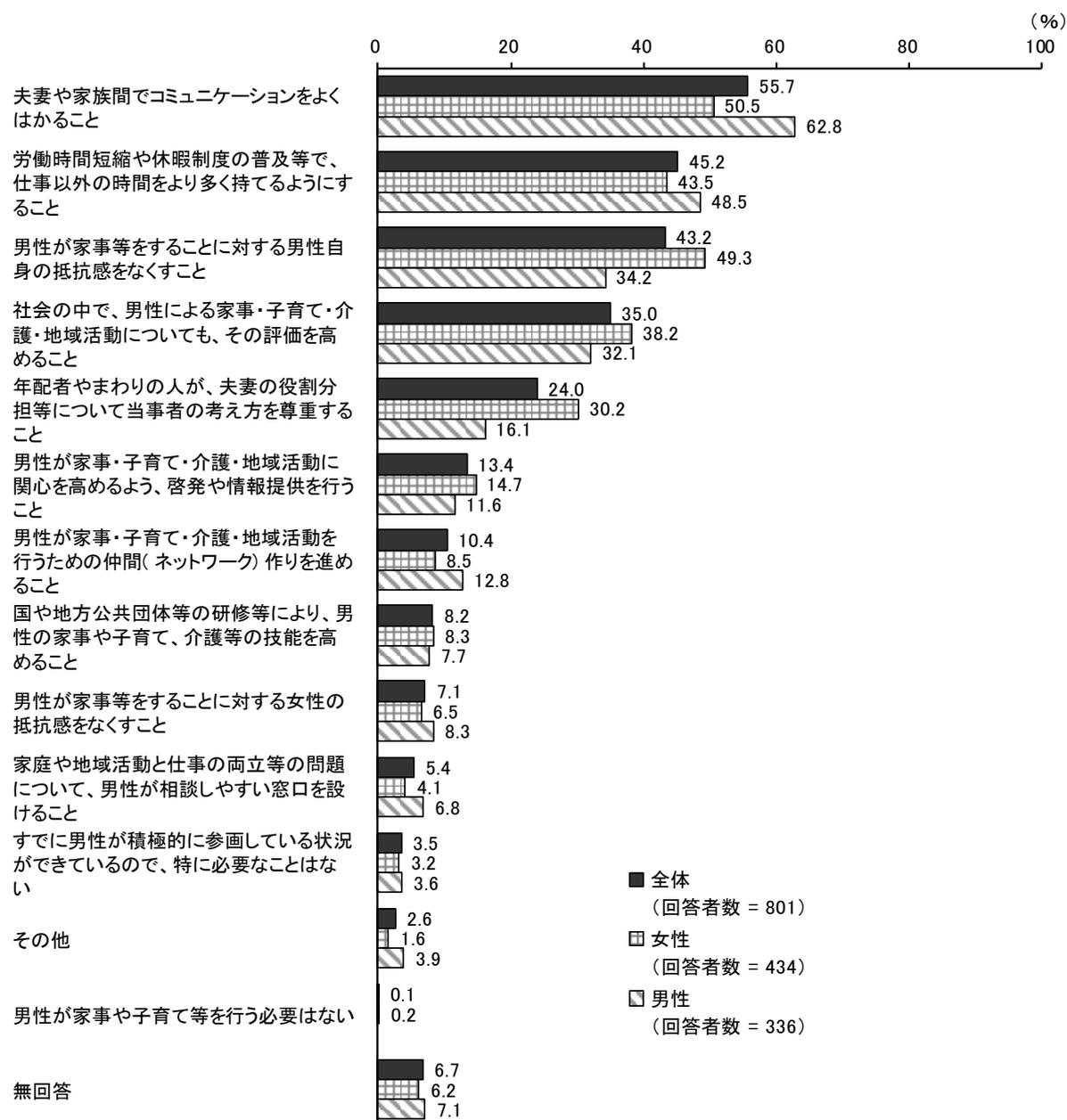


問7 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参画していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

「夫妻や家族間でコミュニケーションをよくはかること」の割合が55.7%と最も高く、次いで「労働時間短縮や休暇制度の普及等で、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が45.2%、「男性が家事等をするに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が43.2%となっています。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「男性が家事等をするに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」「社会の中で、男性による家事・子育て・介護・地域活動についても、その評価を高めること」「年配者やまわりの人が、夫妻の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「夫妻や家族間でコミュニケーションをよくはかること」「労働時間短縮や休暇制度の普及等で、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が高くなっています。

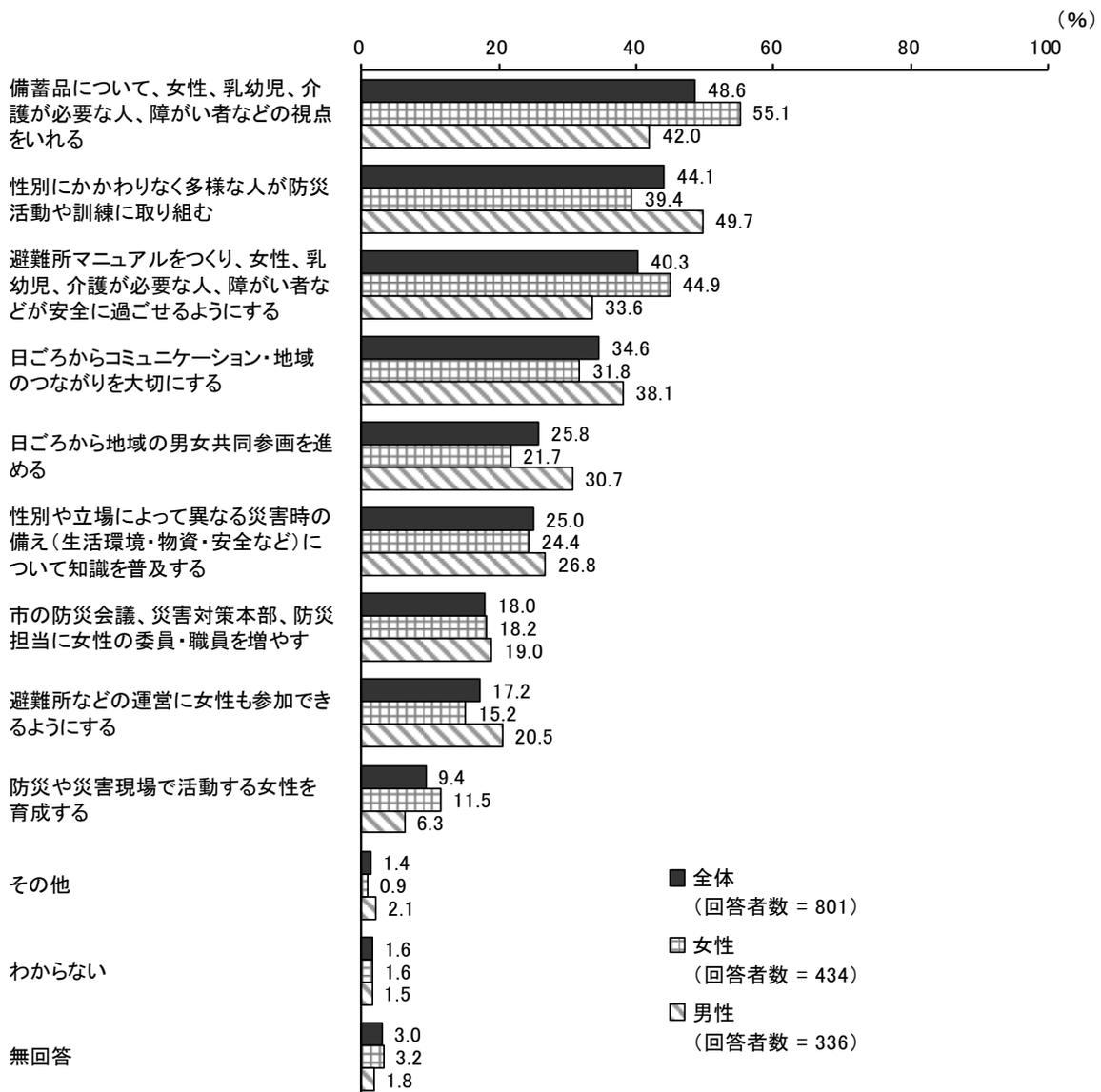


問8 東日本大震災をはじめとするこれまでの災害の教訓から、平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要だとされています。災害時に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。
(特に必要だと思うもの3つまでに○)

「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点をいれる」の割合が48.6%と最も高く、次いで「性別にかかわらず多様な人が防災活動や訓練に取り組む」の割合が44.1%、「避難所マニュアルをつくり、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする」の割合が40.3%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「性別にかかわらず多様な人が防災活動や訓練に取り組む」「日ごろからコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」「日ごろから地域の男女共同参画を進める」「避難所などの運営に女性も参加できるようにする」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点をいれる」「避難所マニュアルをつくり、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする」「防災や災害現場で活動する女性を育成する」の割合が高くなっています。



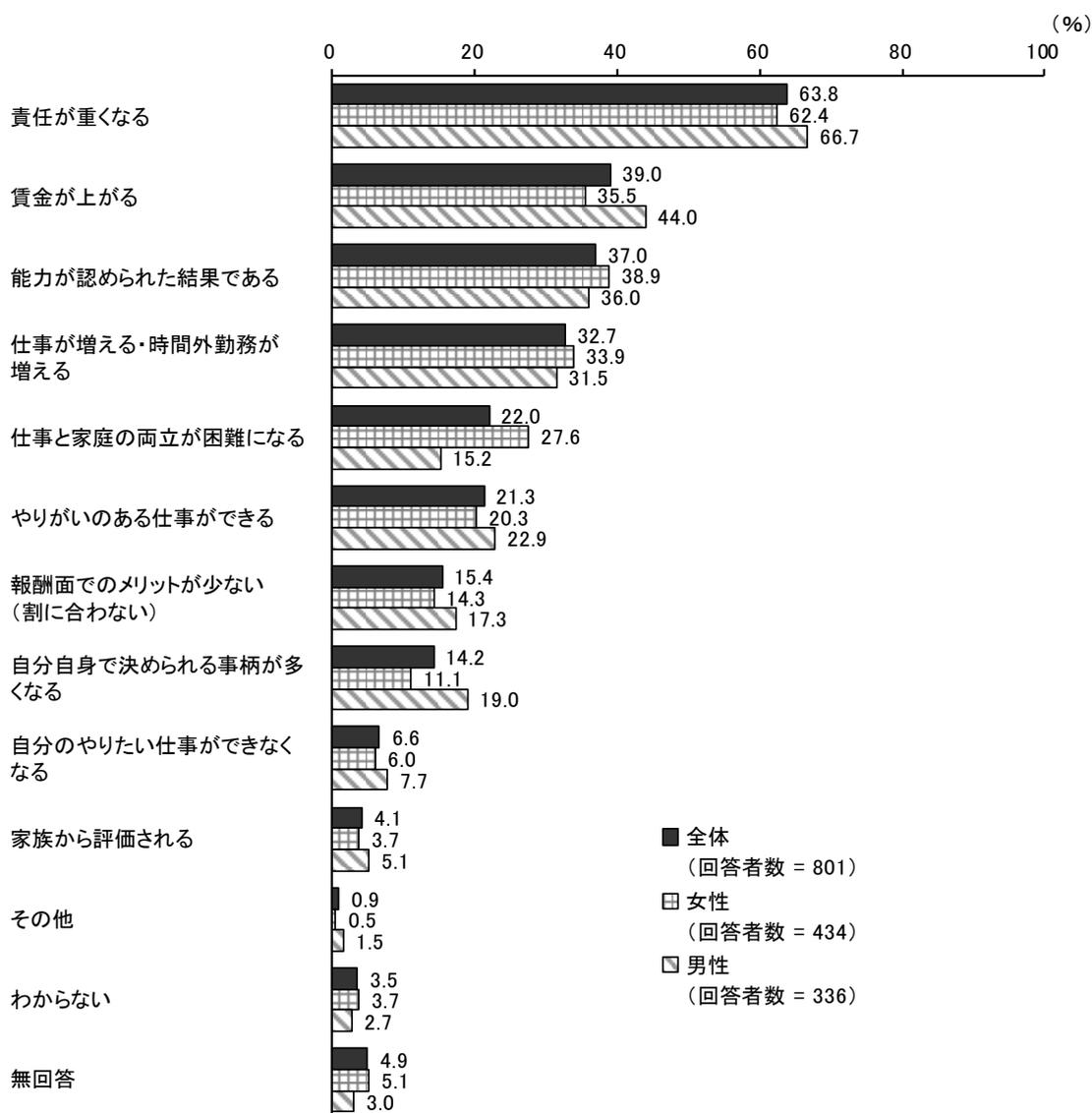
4 職業生活について

問9 (1) あなたは、管理職以上に昇進することについて、どのようなイメージをお持ちですか。現在管理職の方は、管理職になる前に思っていたこととお答えください。(特にあてはまるもの3つまでに○)

「責任が重くなる」の割合が63.8%と最も高く、次いで「賃金が上がる」の割合が39.0%、「能力が認められた結果である」の割合が37.0%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「賃金が上がる」「自分自身で決められる事柄が多くなる」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「仕事と家庭の両立が困難になる」の割合が高くなっています。

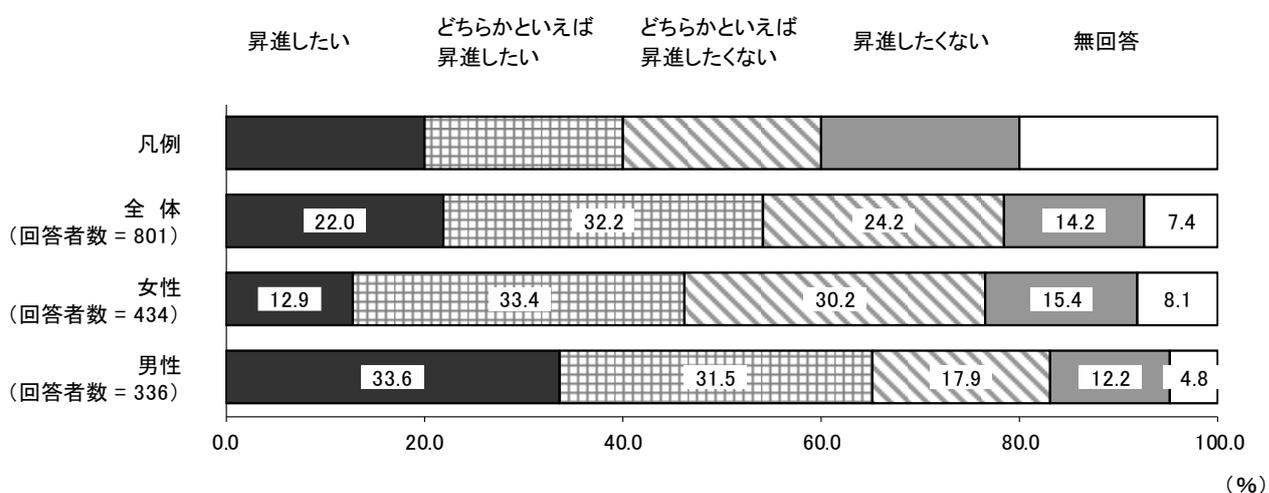


問9 (2)(1)で答えたイメージを踏まえた上で、あなたは、将来管理職に昇進できるのであれば昇進したいと思いますか。現在管理職の方は、管理職になる前に思っていたことをお答えください。(〇は1つ)

「昇進したい」と「どちらかといえば昇進したい」を合わせた「昇進したい」の割合が54.2%、「どちらかといえば昇進したくない」と「昇進したくない」を合わせた「昇進したくない」の割合が38.4%となっています。

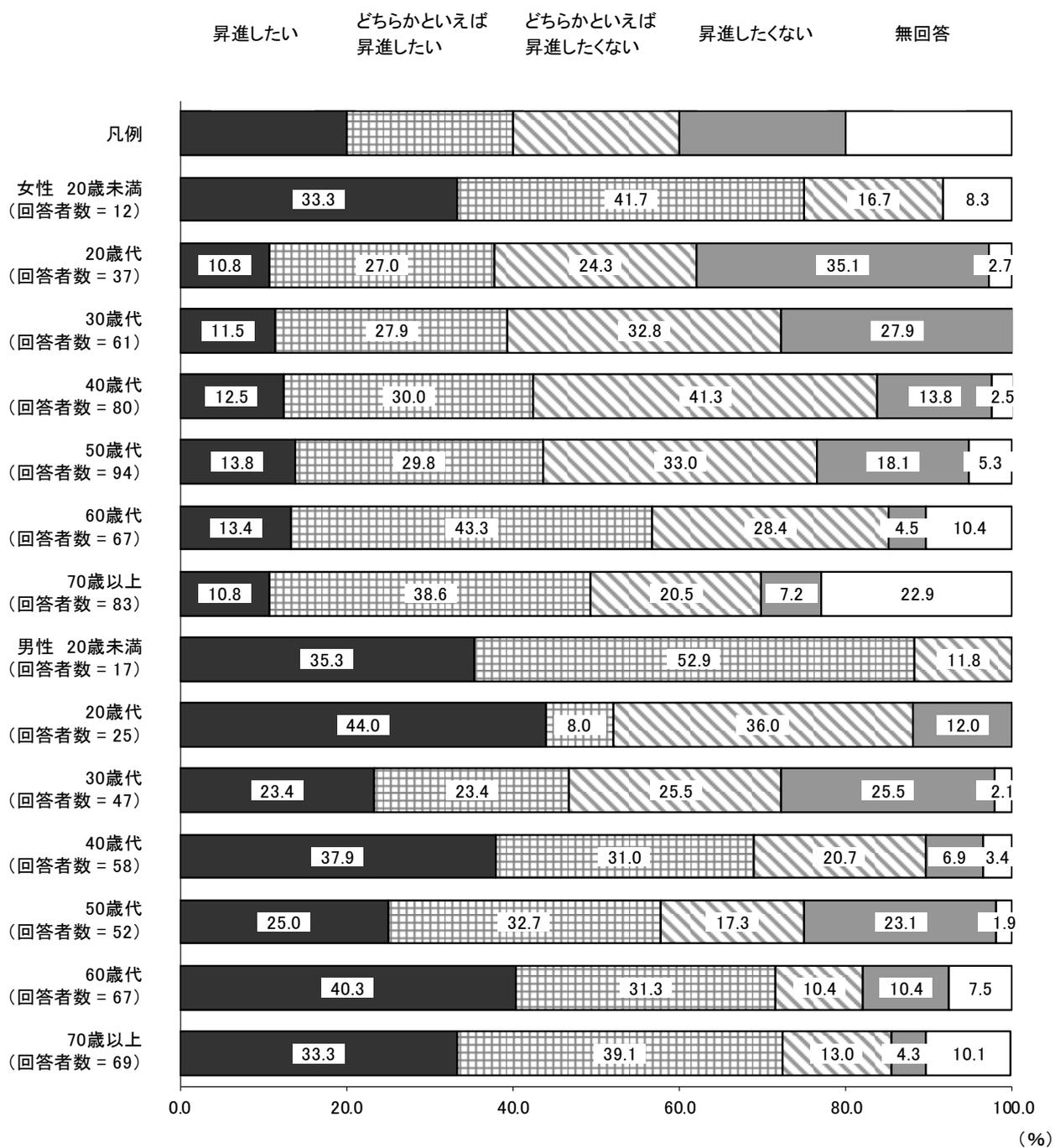
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「昇進したい」と「どちらかといえば昇進したい」を合わせた「昇進したい」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「どちらかといえば昇進したくない」と「昇進したくない」を合わせた「昇進したくない」の割合が高くなっています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、男性の20歳代で「昇進したい」の割合が、男性の20歳未満で「どちらかといえば昇進したい」の割合が、女性の40歳代で「どちらかといえば昇進したくない」の割合が、女性の20歳代で「昇進したくない」の割合が高くなっています。

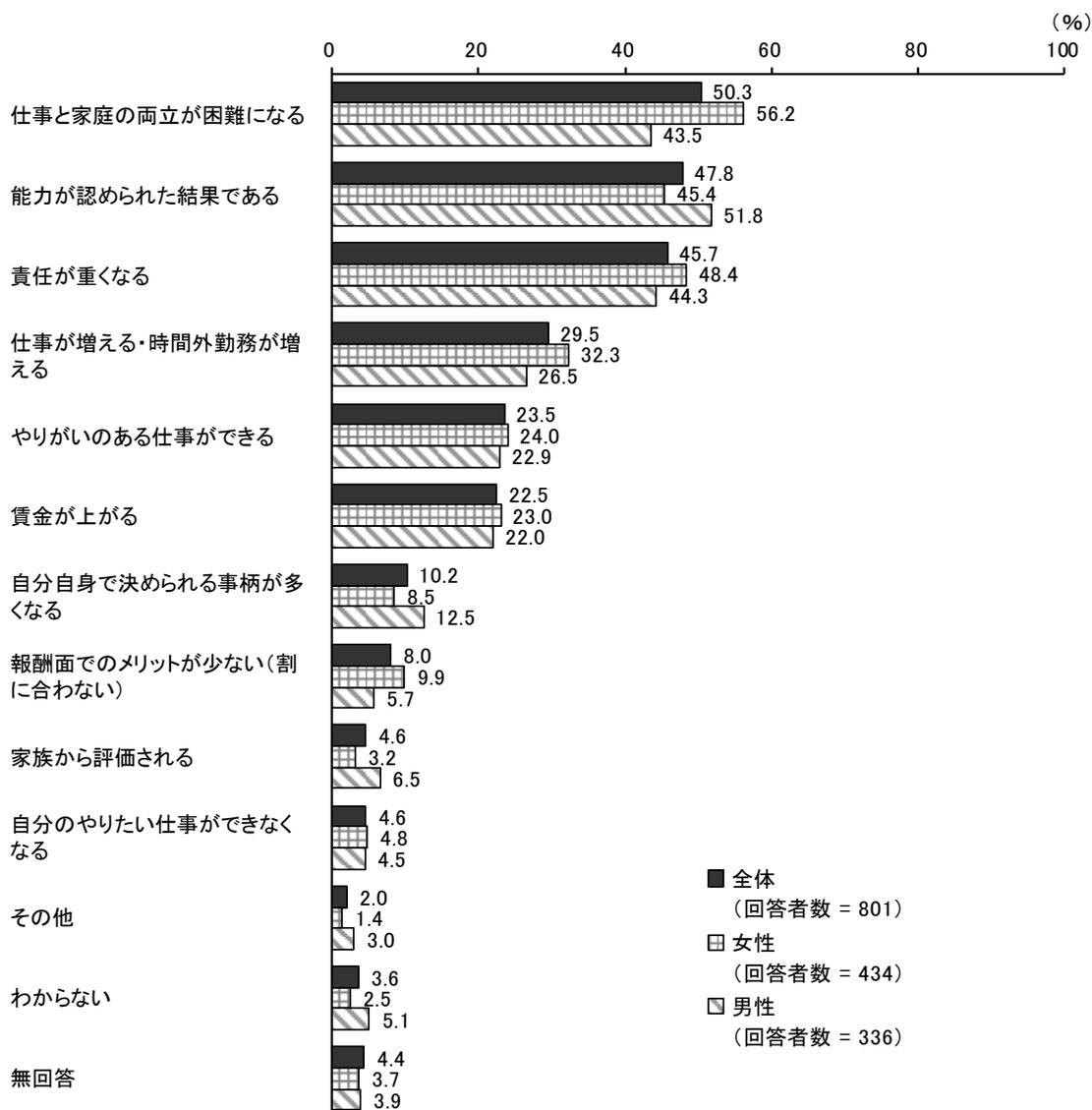


問9 (3) あなたは、女性が管理職以上に就くことについて、どのようなイメージをお持ちですか。(特にあてはまるもの3つまでに○)

「仕事と家庭の両立が困難になる」の割合が50.3%と最も高く、次いで「能力が認められた結果である」の割合が47.8%、「責任が重くなる」の割合が45.7%となっています。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「仕事と家庭の両立が困難になる」「仕事が増える・時間外勤務が増える」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「能力が認められた結果である」の割合が高くなっています。



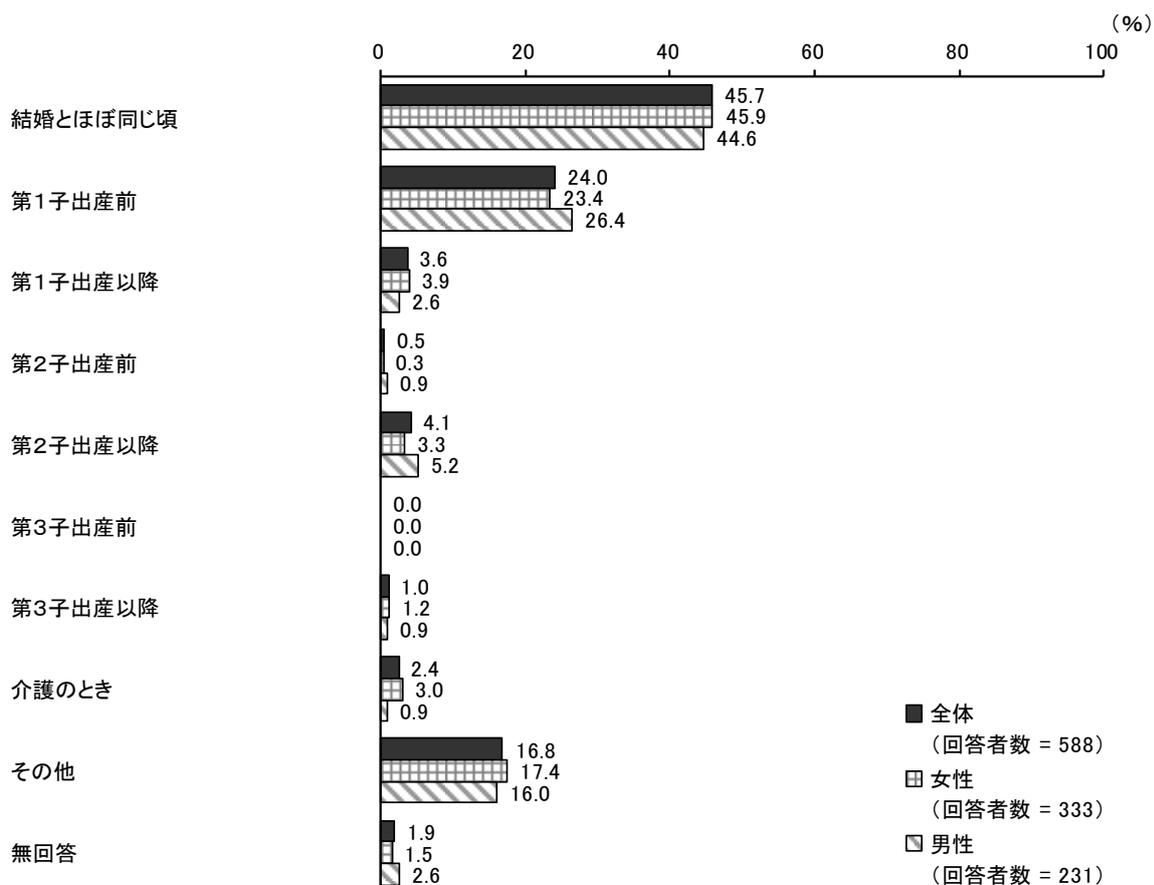
問10 退職した経験がある女性の方、または妻が退職した経験のある方にお聞きします。(女性は自分の状況、男性は妻の状況をご回答ください。)

(1) あなた(あなたの妻)がお仕事を辞めた時期はいつごろですか。複数回辞めている場合は、初めて辞めた時期に○をつけてください。(○は1つ)

「結婚とほぼ同じ頃」の割合が45.7%と最も高く、次いで「第1子出産前」の割合が24.0%となっています。

【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。

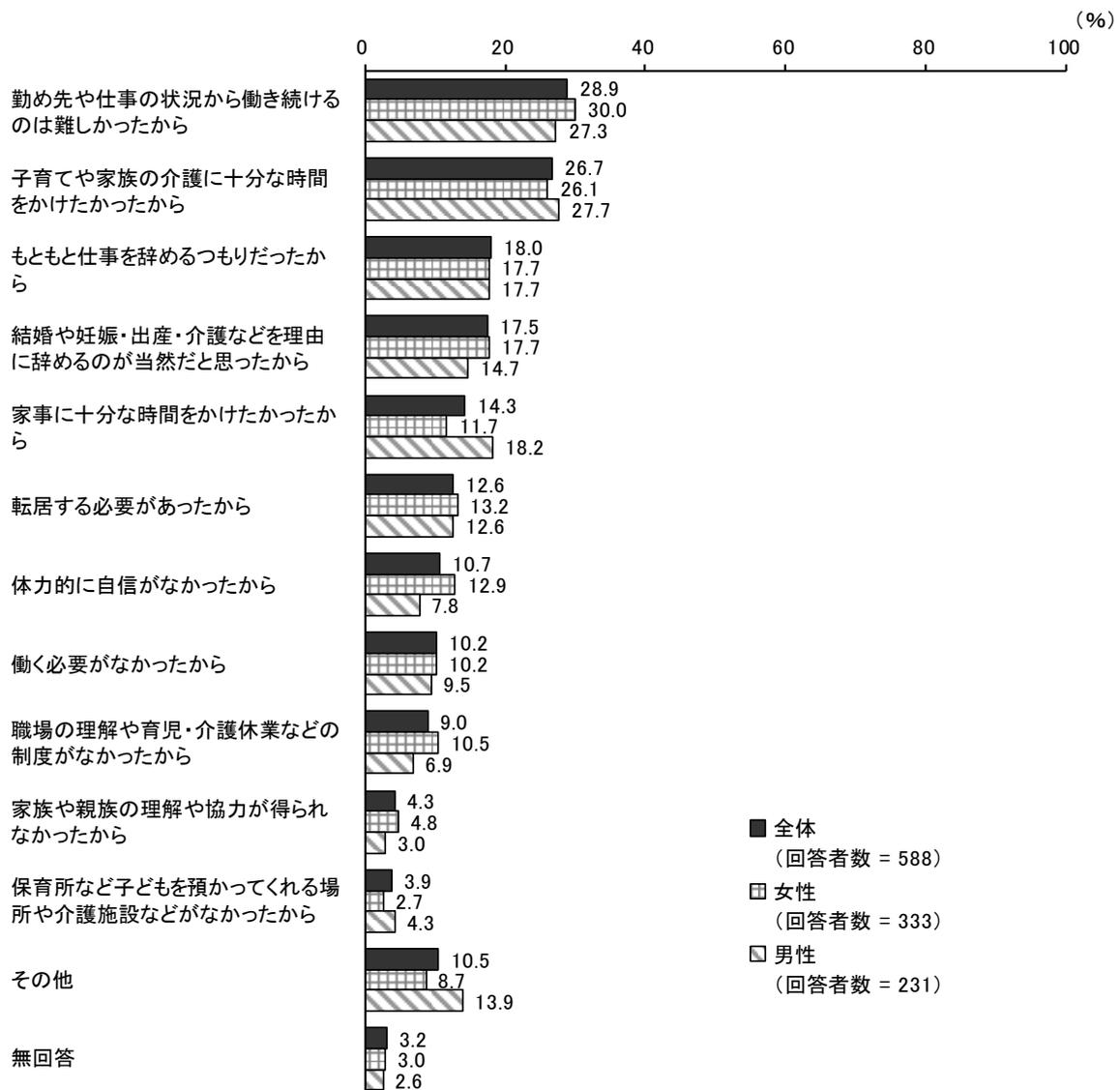


(2) あなた（あなたの妻）がお仕事を辞めた理由は何でしたか。（〇はいくつでも）

「勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったから」の割合が28.9%と最も高く、次いで「子育てや家族の介護に十分な時間をかけたかったから」の割合が26.7%、「もともと仕事を辞めるつもりだったから」の割合が18.0%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「家事に十分な時間をかけたかったから」の割合が高くなっています。



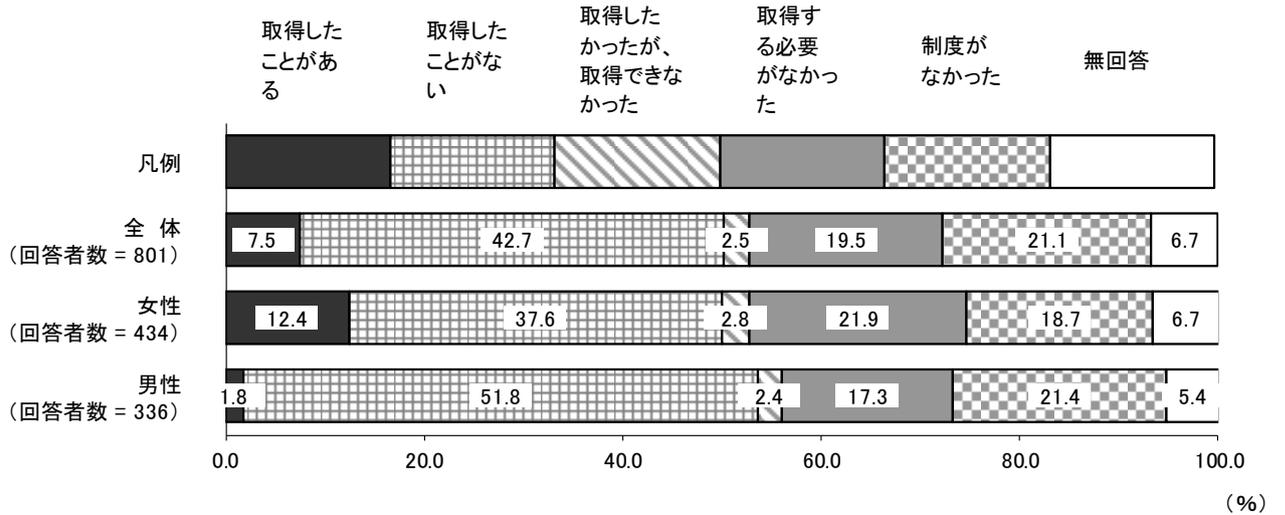
問 1 1 あなたは育児休業や介護休業を取得したことがありますか。①～②の項目ごとに1つずつ○をつけてください。

①育児休業

「取得したことがない」の割合が42.7%と最も高く、次いで「制度がなかった」の割合が21.1%、「取得する必要がなかった」の割合が19.5%となっています。

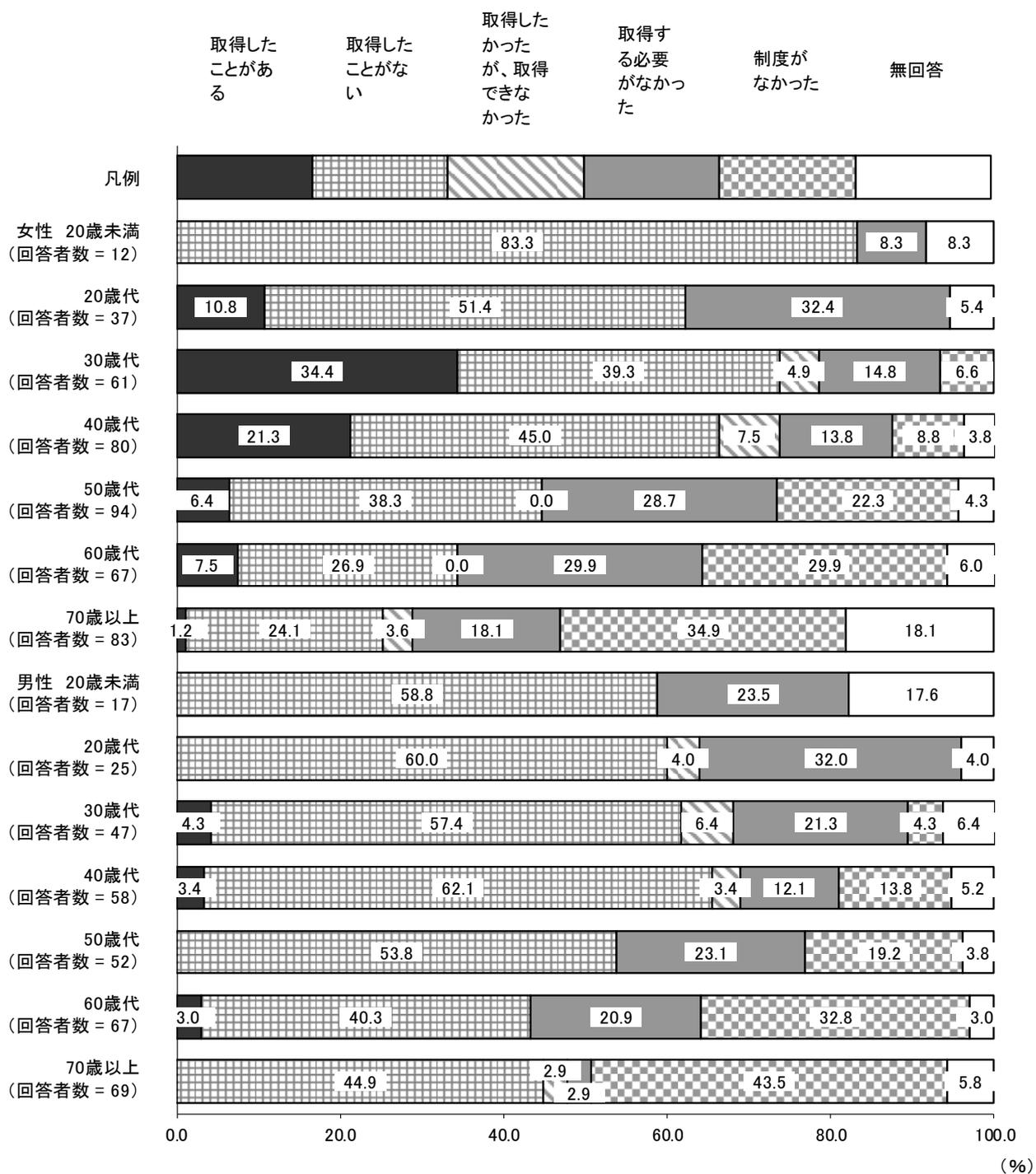
【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「取得したことがある」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「取得したことがない」の割合が高くなっています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、女性の30歳代で「取得したことがある」の割合が、女性の20歳未満で「取得したことがない」の割合が、女性、男性ともに20歳代で「取得する必要がなかった」の割合が高くなっています。また、女性、男性ともに、年代が高くなるにつれて「制度がなかった」の割合が高くなる傾向がみられます。

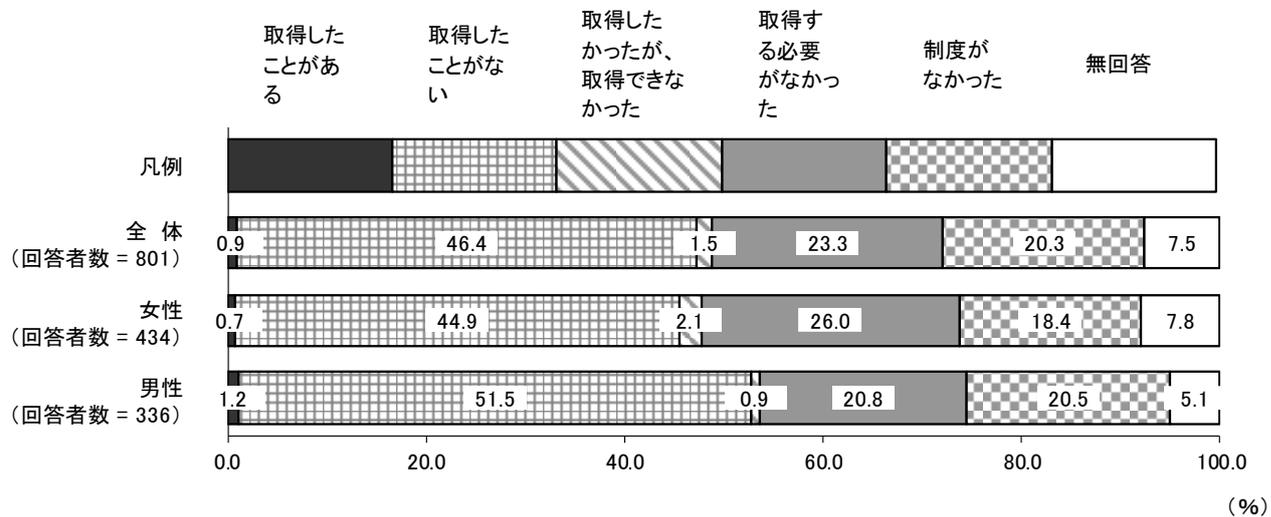


②介護休業

「取得したことがない」の割合が46.4%と最も高く、次いで「取得する必要がなかった」の割合が23.3%、「制度がなかった」の割合が20.3%となっています。

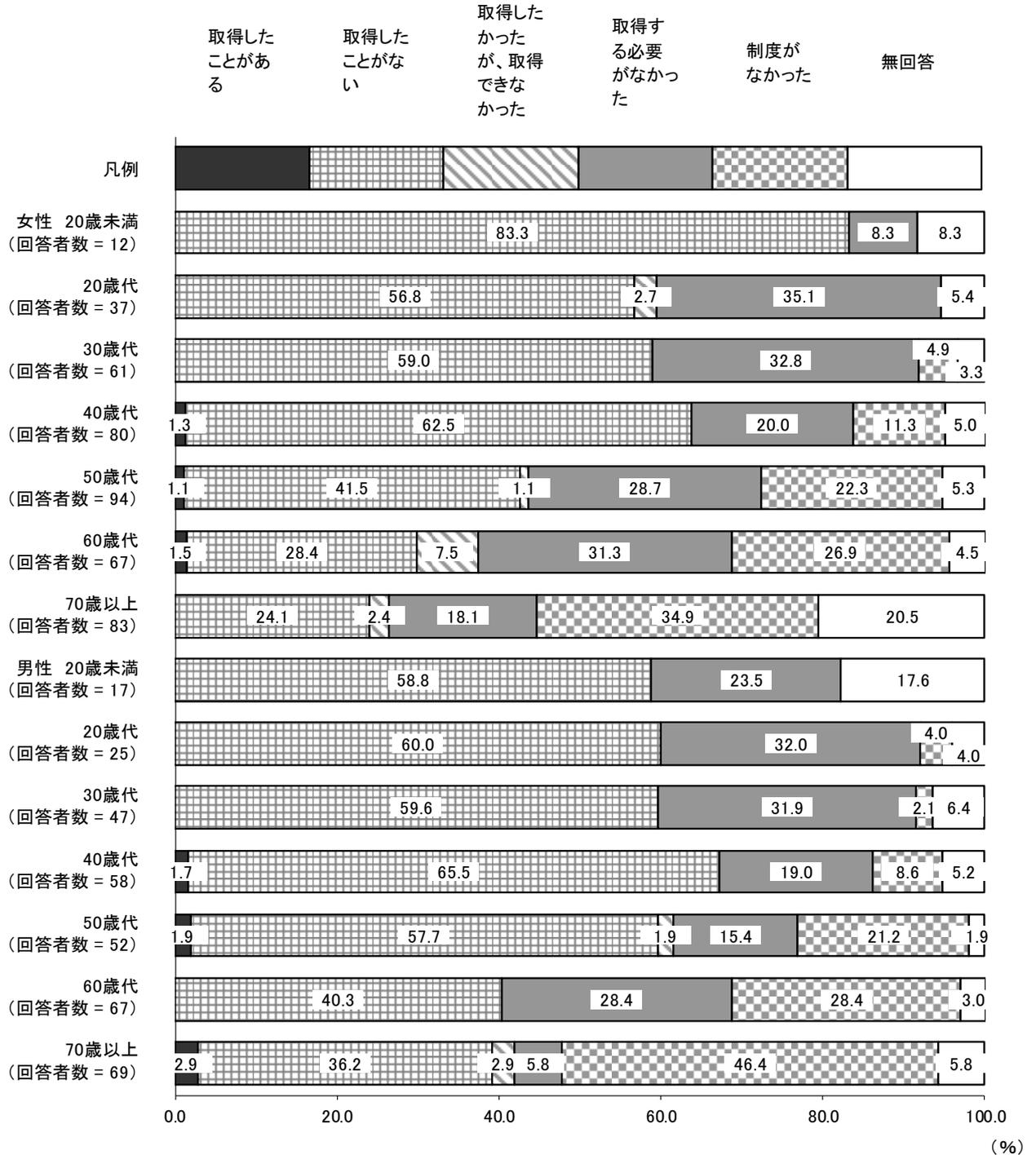
【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「取得したことがない」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「取得する必要がなかった」の割合が高くなっています。



【性年代別】

性年代別でみると、男性に比べ、女性の年代が低くなるほど「取得したことがない」の割合が高くなる傾向がみられます。また、女性、男性ともに、年代が高くなるにつれて「制度がなかった」の割合が高くなる傾向がみられます。また、他に比べ、女性の20歳代で「取得する必要がなかった」の割合が高くなっています。

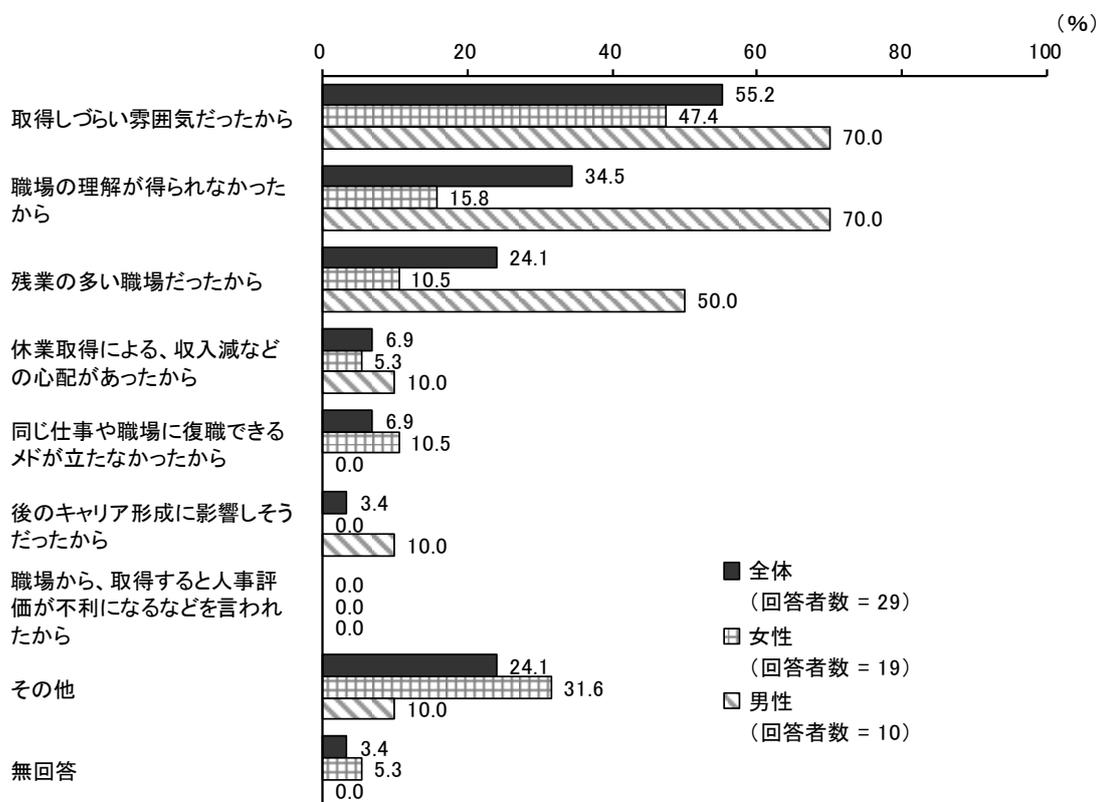


問12 問11の①・②で「3 取得したかったが、取得できなかった」を選んだ方にお伺いします。取得できなかった理由をお答えください。
(特にあてはまるもの3つまでに○)

「取得しづらい雰囲気だったから」の割合が55.2%と最も高く、次いで「職場の理解が得られなかったから」の割合が34.5%、「残業の多い職場だったから」の割合が24.1%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「取得しづらい雰囲気だったから」「職場の理解が得られなかったから」「残業の多い職場だったから」「後のキャリア形成に影響しそうだったから」の割合が高くなっています。

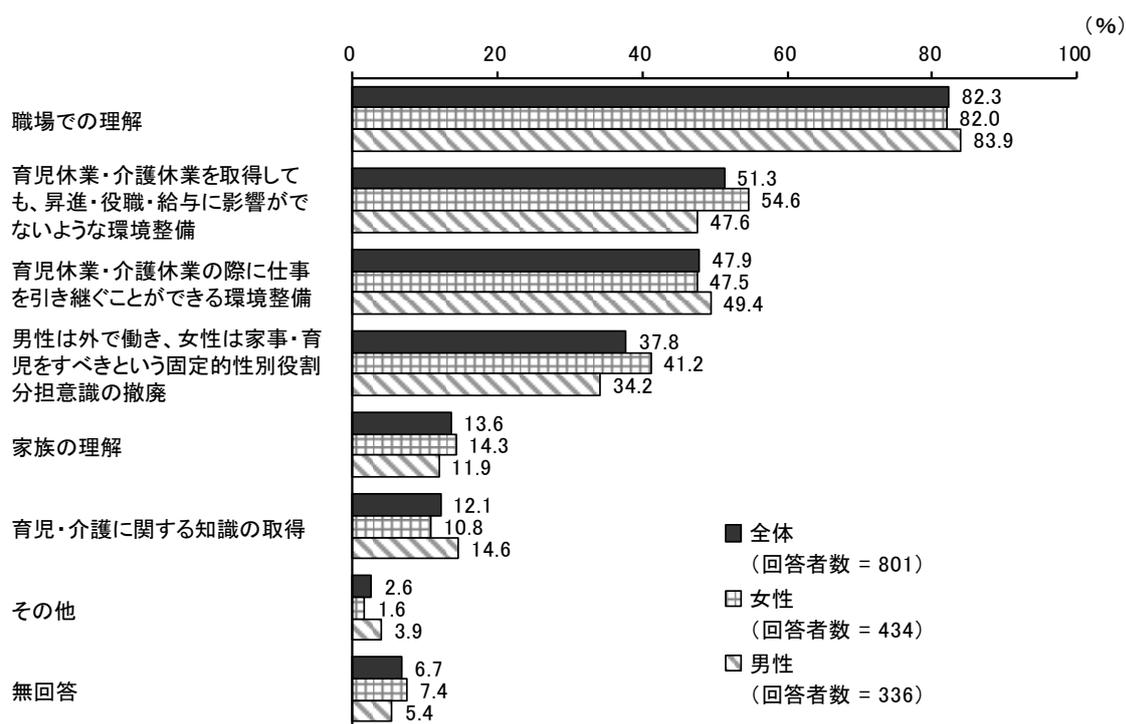


問 1 3 育児休業や介護休業制度が今より利用しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

「職場での理解」の割合が82.3%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業を取得しても、昇進・役職・給与に影響がでないような環境整備」の割合が51.3%、「育児休業・介護休業の際に仕事を引き継ぐことができる環境整備」の割合が47.9%となっています。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「育児休業・介護休業を取得しても、昇進・役職・給与に影響がでないような環境整備」「男性は外で働き、女性は家事・育児をすべきという固定的性別役割分担意識の撤廃」の割合が高くなっています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、女性の30歳代で「職場での理解」の割合が、女性の70歳以上で「家族の理解」の割合が、女性の20歳未満で「男性は外で働き、女性は家事・育児をすべきという固定的性別役割分担意識の撤廃」の割合が、男性の20歳代で「育児休業・介護休業の際に仕事を引き継ぐことができる環境整備」の割合が、女性の20歳代で「育児休業・介護休業を取得しても、昇進・役職・給与に影響がでないような環境整備」の割合が高くなっています。また、女性、男性ともに70歳以上で「育児・介護に関する知識の取得」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	職場での理解	家族の理解	男性は外で働き、女性は家事・育児をすべきという固定的性別役割分担意識の撤廃	育児休業・介護休業の際に仕事を引き継ぐことができる環境整備	育児休業・介護休業を取得しても、昇進・役職・給与に影響がでないような環境整備	育児・介護に関する知識の取得	その他	無回答
女性 20歳未満	12	83.3	16.7	58.3	16.7	41.7	8.3	—	16.7
20歳代	37	78.4	2.7	51.4	45.9	64.9	5.4	—	8.1
30歳代	61	91.8	11.5	36.1	50.8	59.0	9.8	1.6	4.9
40歳代	80	82.5	10.0	50.0	53.8	63.8	10.0	1.3	1.3
50歳代	94	89.4	11.7	42.6	51.1	54.3	9.6	3.2	3.2
60歳代	67	77.6	16.4	34.3	50.7	58.2	9.0	1.5	7.5
70歳以上	83	71.1	26.5	33.7	37.3	37.3	18.1	1.2	18.1
男性 20歳未満	17	88.2	17.6	41.2	52.9	35.3	5.9	—	11.8
20歳代	25	88.0	16.0	44.0	56.0	44.0	12.0	—	8.0
30歳代	47	78.7	10.6	40.4	42.6	48.9	14.9	2.1	8.5
40歳代	58	75.9	6.9	37.9	44.8	53.4	13.8	5.2	5.2
50歳代	52	88.5	13.5	25.0	42.3	55.8	9.6	5.8	—
60歳代	67	85.1	11.9	29.9	55.2	43.3	17.9	7.5	3.0
70歳以上	69	87.0	13.0	33.3	53.6	43.5	18.8	1.4	7.2

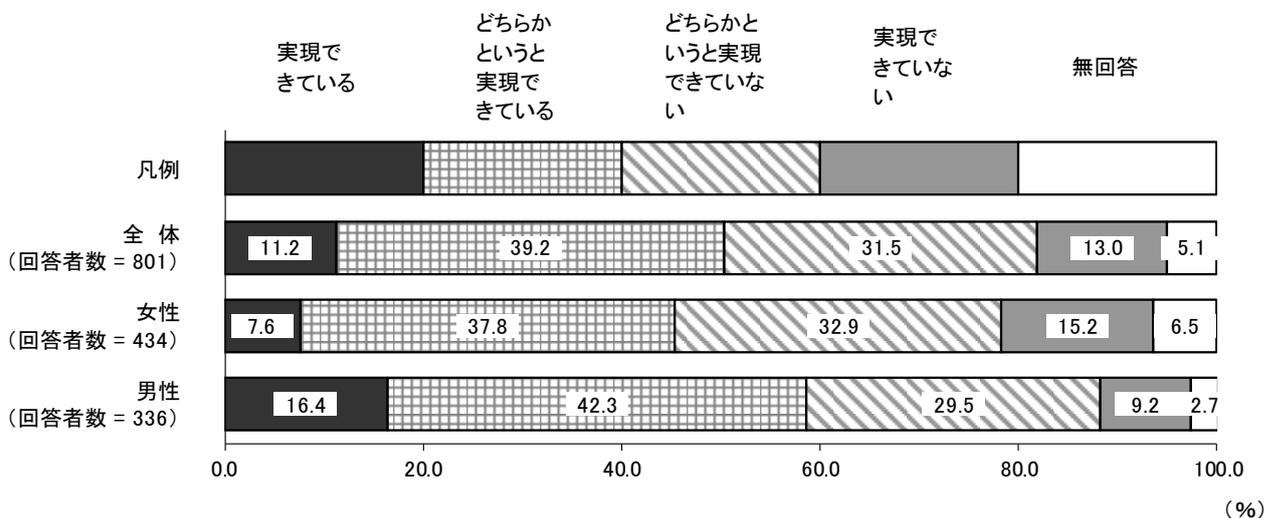
問14 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）についてお聞きします。
 あなた自身の生活や環境から判断して、以下の①～③の項目は実現できている
 と思いますか。項目ごとに1つずつ○をつけてください。

①就労による経済的自立が可能な社会

「実現できている」と「どちらかという実現できている」を合わせた“実現できている”の割合が50.4%、「どちらかという実現できていない」と「実現できていない」を合わせた“実現できていない”の割合が44.5%となっています。

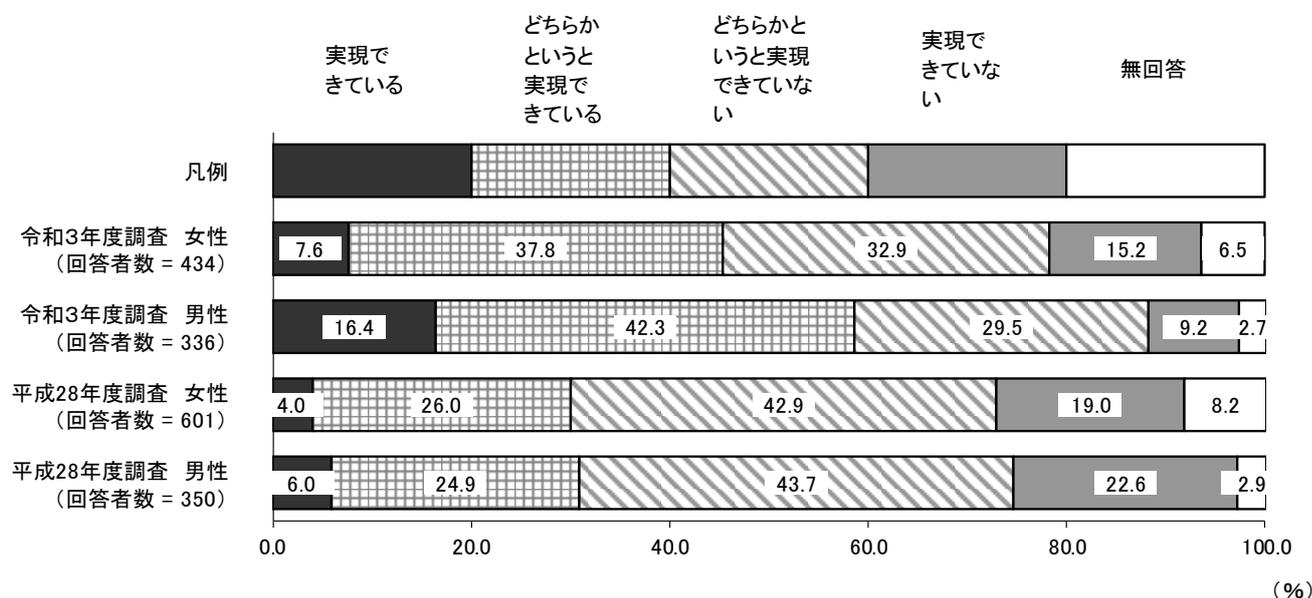
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「実現できている」と「どちらかという実現できている」を合わせた“実現できている”の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「どちらかという実現できていない」と「実現できていない」を合わせた“実現できていない”の割合が高くなっています。



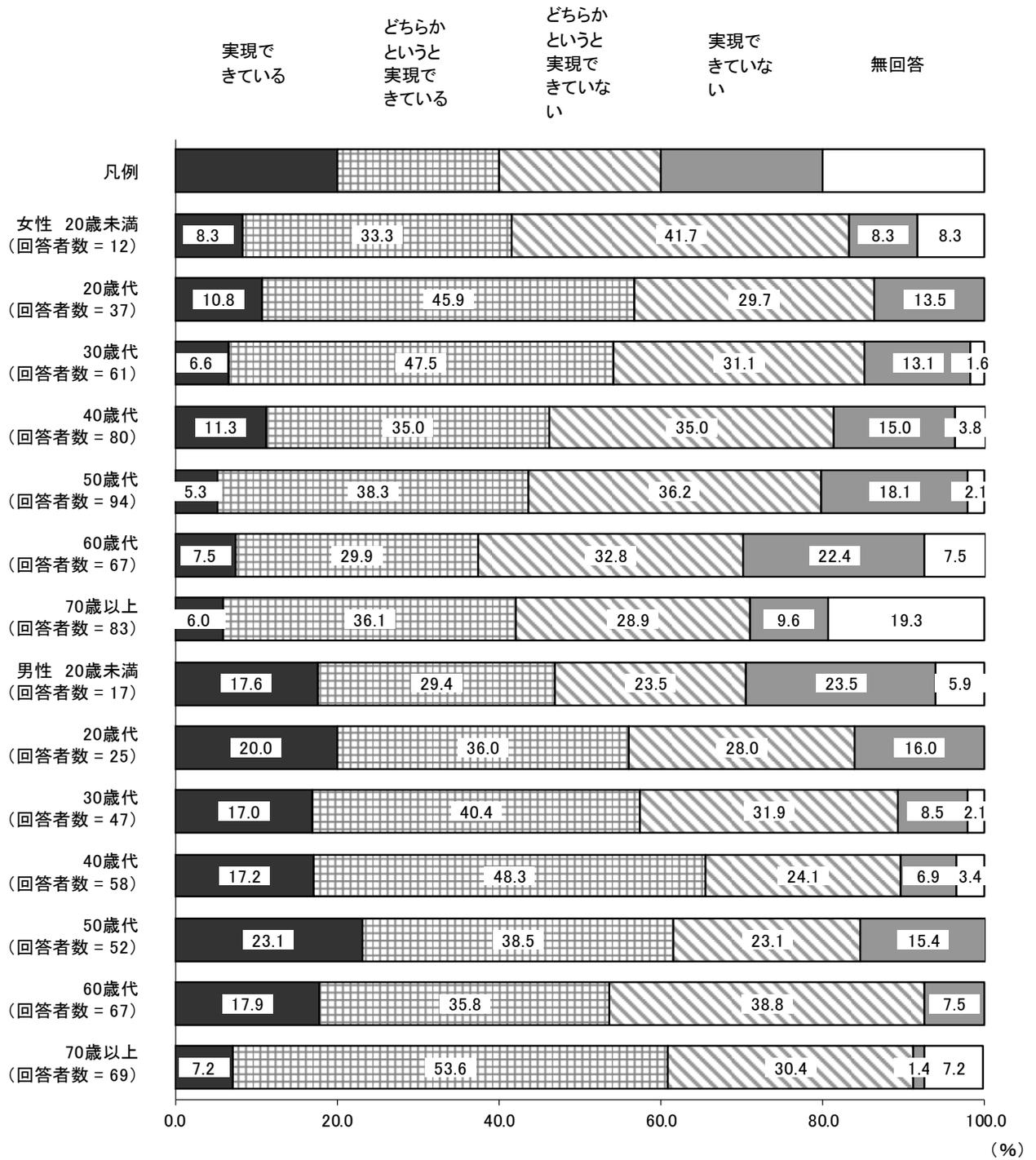
【前回比較】

平成28年度調査と比較すると、男女ともに、「実現できている」と「どちらかという実現できている」を合わせた“実現できている”の割合が増加しています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、男性の50歳代で「実現できている」の割合が、男性の70歳以上で「どちらかという実現できている」の割合が、女性の20歳未満で「どちらかという実現できていない」の割合が、男性の20歳未満で「実現できていない」の割合が高くなっています。

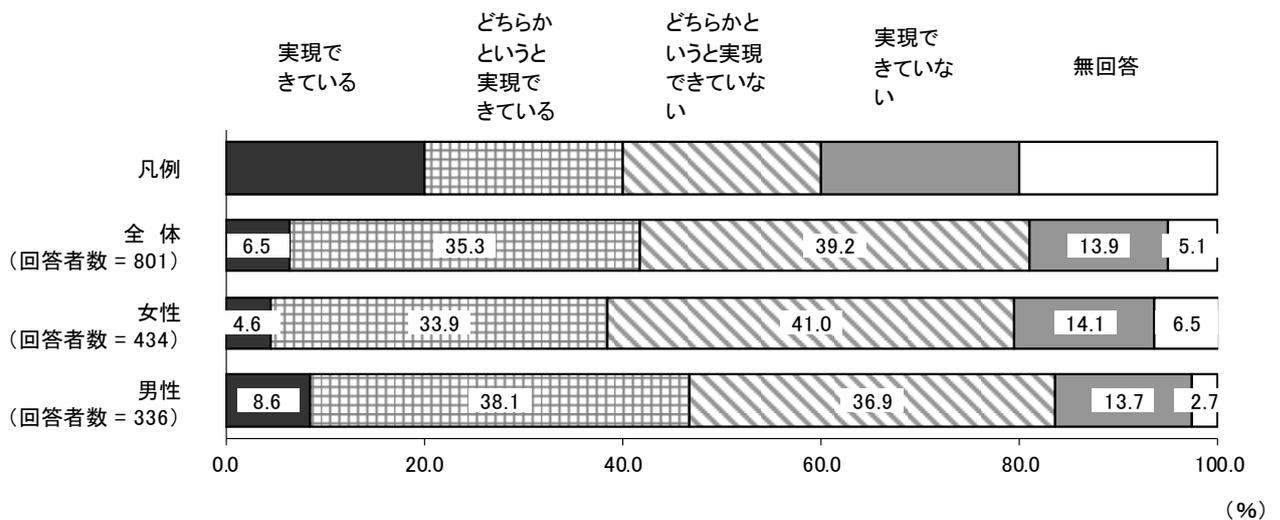


②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会

「実現できている」と「どちらかという実現できている」を合わせた“実現できている”の割合が41.8%、「どちらかという実現できていない」と「実現できていない」を合わせた“実現できていない”の割合が53.1%となっています。

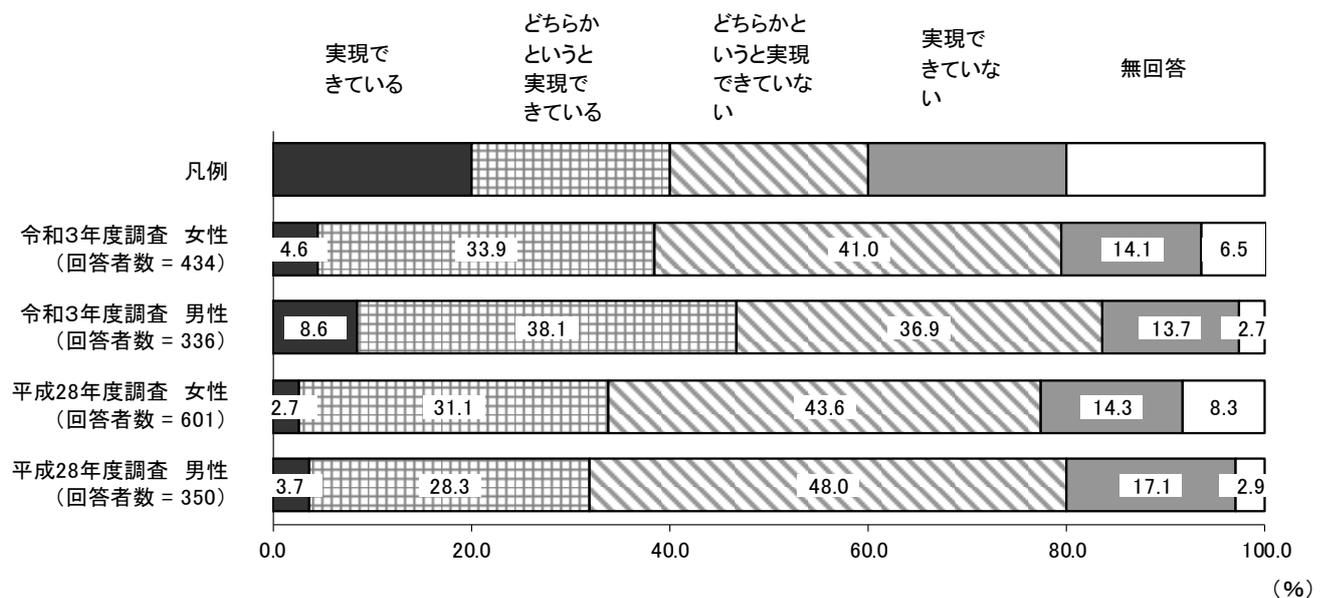
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「実現できている」と「どちらかという実現できている」を合わせた“実現できている”の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「どちらかという実現できていない」と「実現できていない」を合わせた“実現できていない”の割合が高くなっています。



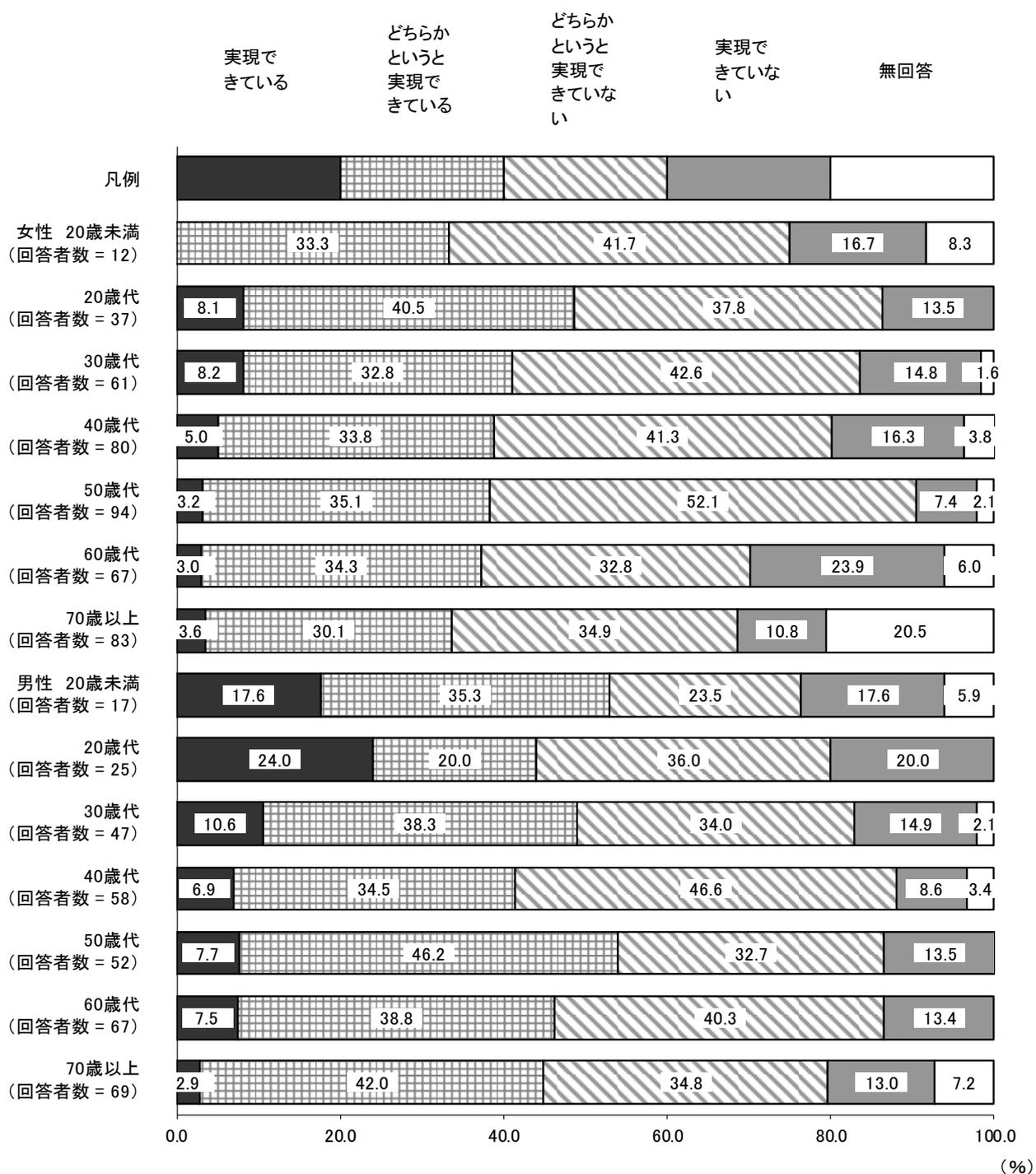
【前回比較】

平成28年度調査と比較すると、男女ともに、「実現できている」と「どちらかという実現できている」を合わせた“実現できている”の割合が増加しています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、男性の20歳代で「実現できている」の割合が、男性の50歳代で「どちらかという実現できている」の割合が、女性の50歳代で「どちらかという実現できていない」の割合が、女性の60歳代で「実現できていない」の割合が高くなっています。

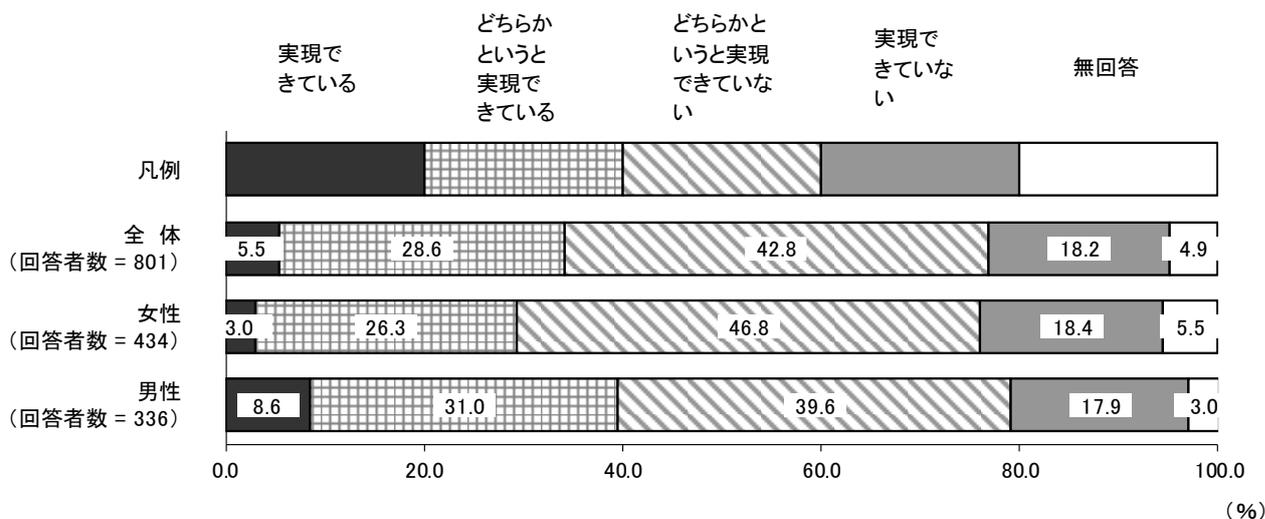


③性別や年齢などにかかわらず、自らの意思によって多様な働き方・生き方が選択できる社会

「実現できている」と「どちらかという実現できている」を合わせた“実現できている”の割合が34.1%、「どちらかという実現できていない」と「実現できていない」を合わせた“実現できていない”の割合が61.0%となっています。

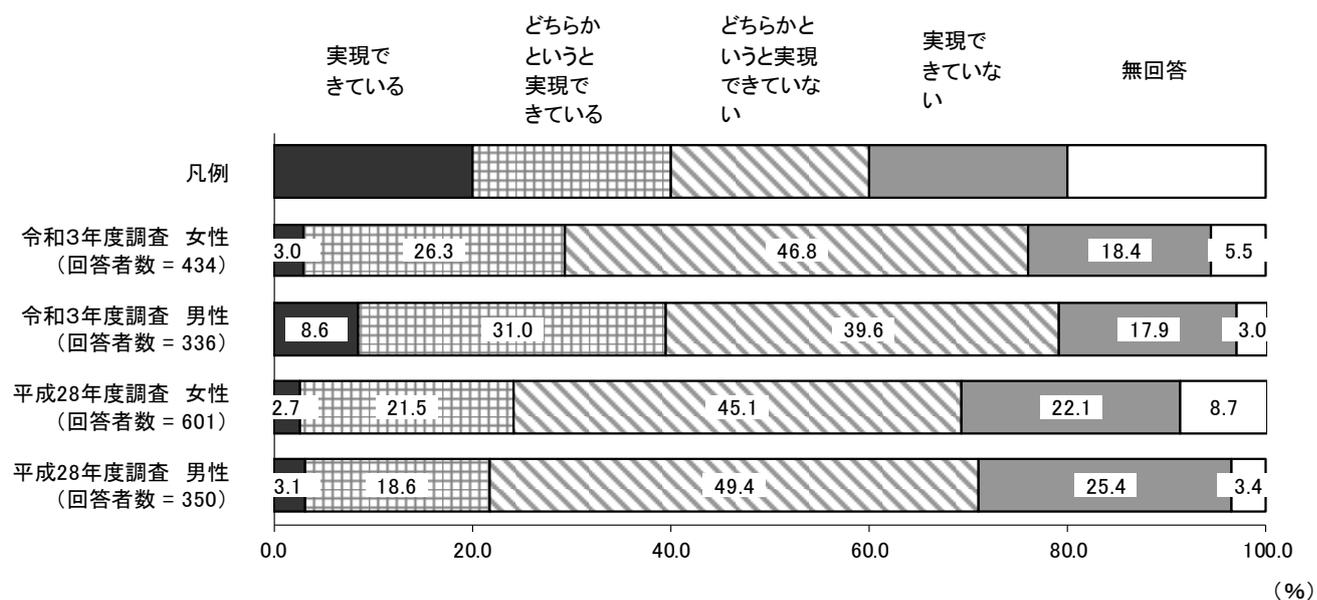
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「実現できている」と「どちらかという実現できている」を合わせた“実現できている”の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「どちらかという実現できていない」と「実現できていない」を合わせた“実現できていない”の割合が高くなっています。



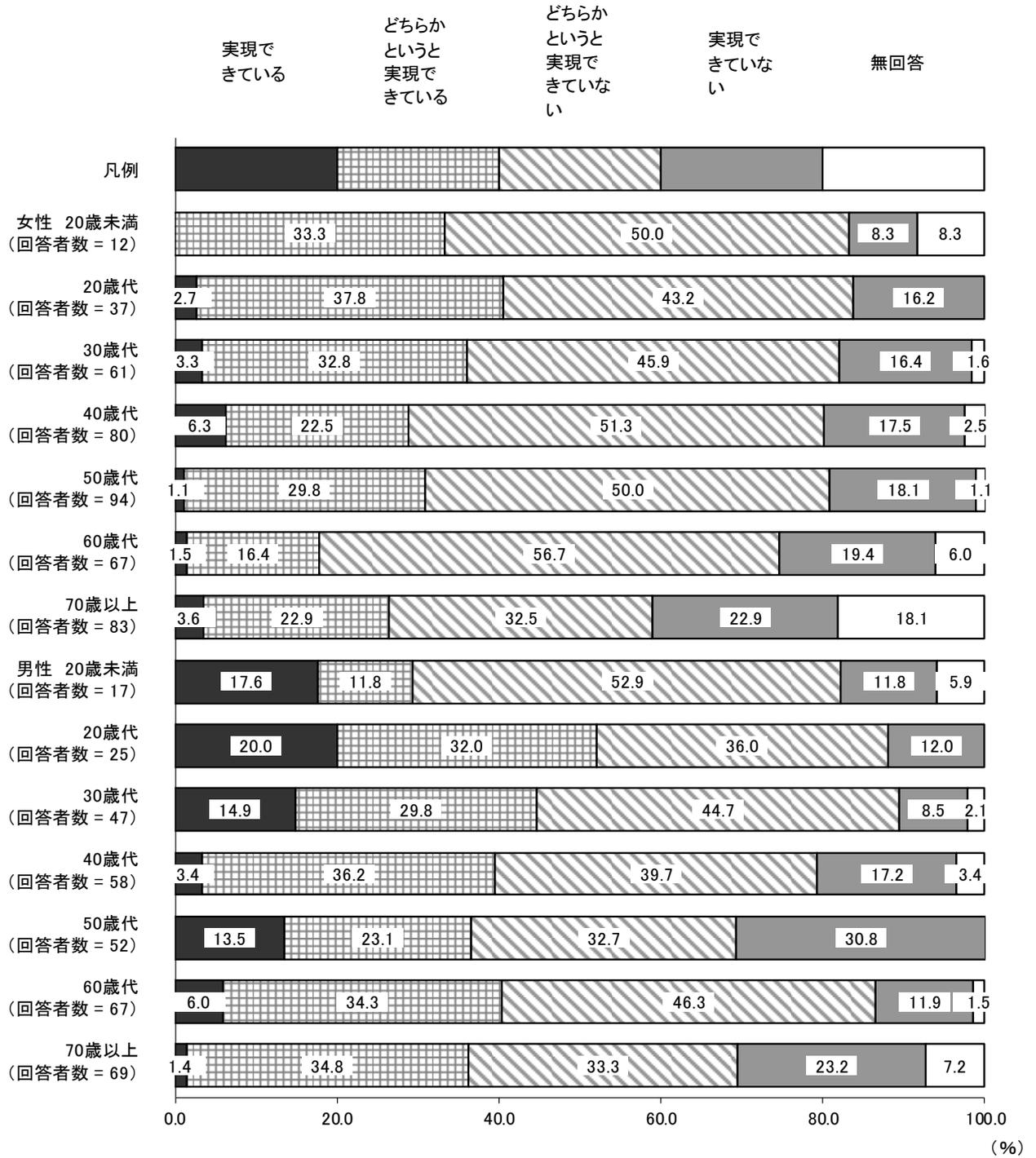
【前回比較】

平成28年度調査と比較すると、男女ともに、「実現できている」と「どちらかという実現できている」を合わせた“実現できている”の割合が増加しています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、男性の20歳代で「実現できている」の割合が、女性の20歳代で「どちらかという実現できている」の割合が、女性の60歳代で「どちらかという実現できていない」の割合が、男性の50歳代で「実現できていない」の割合が高くなっています。

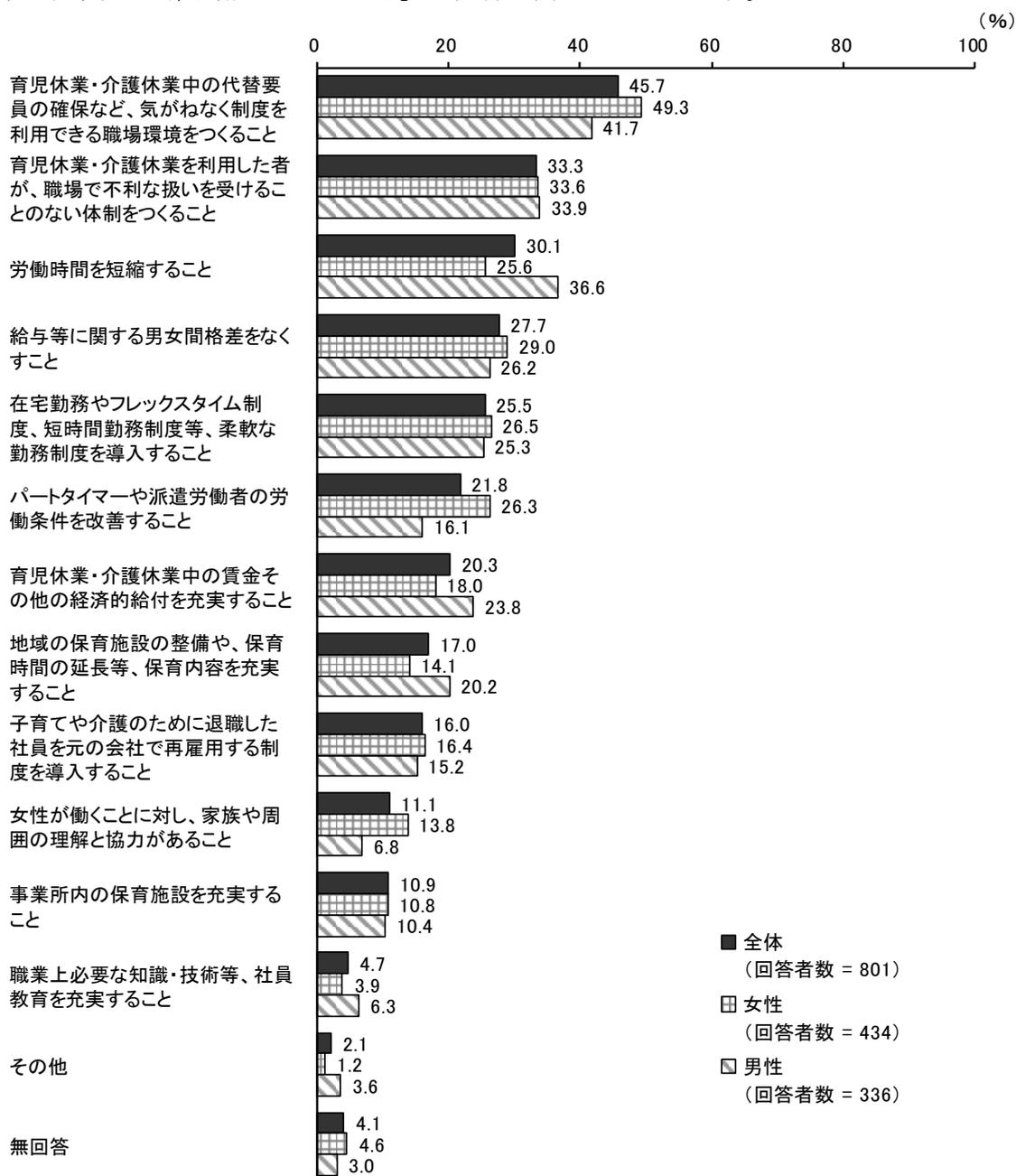


問15 すべての人が、仕事と家庭の両立を実現するためには、どのような条件が必要だと思いますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

「育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること」の割合が45.7%と最も高く、次いで「育児休業・介護休業を利用した者が、職場で不利な扱いを受けることのない体制をつくること」の割合が33.3%、「労働時間を短縮すること」の割合が30.1%となっています。

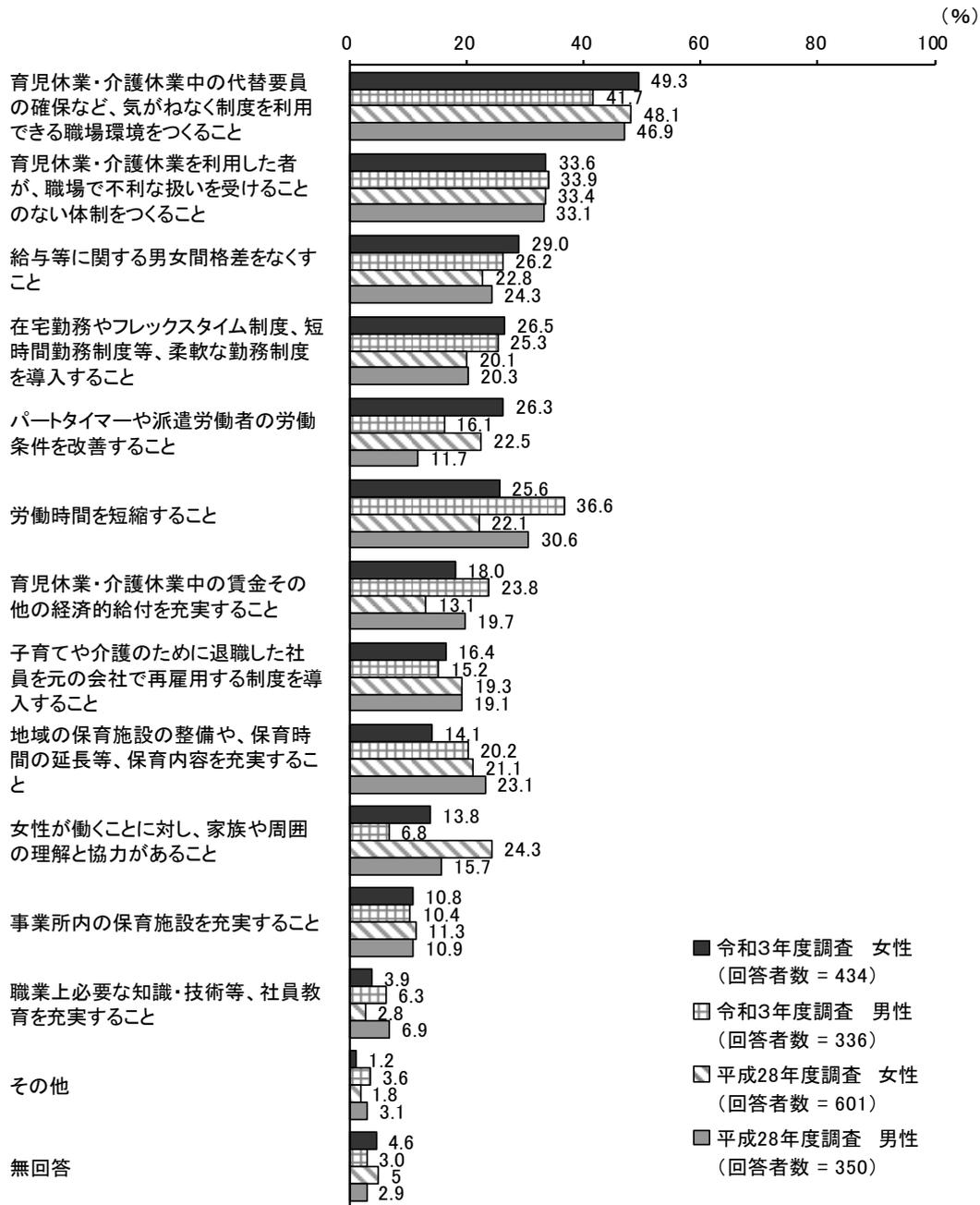
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「労働時間を短縮すること」「地域の保育施設の整備や、保育時間の延長等、保育内容を充実すること」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること」「パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること」「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」の割合が高くなっています。



【前回比較】

平成28年度調査と比較すると、男女ともに、「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」の割合が減少しています。

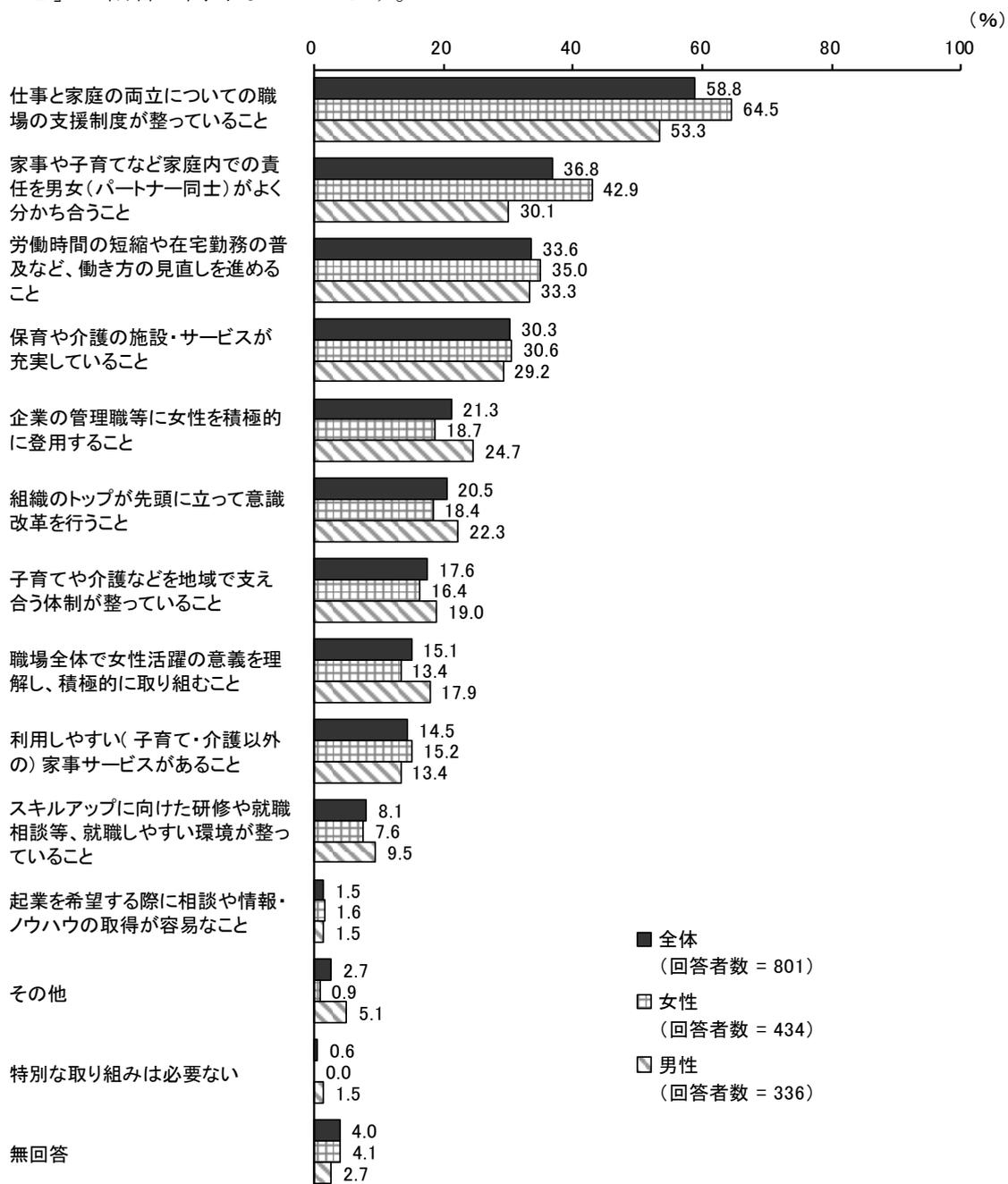


問 16 職業分野において女性が活躍するために必要なことは何だと思えますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

「仕事と家庭の両立についての職場の支援制度が整っていること」の割合が58.8%と最も高く、次いで「家事や子育てなど家庭内での責任を男女（パートナー同士）がよく分かち合うこと」の割合が36.8%、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを進めること」の割合が33.6%となっています。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「仕事と家庭の両立についての職場の支援制度が整っていること」「家事や子育てなど家庭内での責任を男女（パートナー同士）がよく分かち合うこと」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「企業の管理職等に女性を積極的に登用すること」の割合が高くなっています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、女性の20歳未満で「企業の管理職等に女性を積極的に登用すること」「職場全体で女性活躍の意義を理解し、積極的に取り組むこと」の割合が、女性の30歳代で「仕事と家庭の両立についての職場の支援制度が整っていること」の割合が、男性の60歳代で「保育や介護の施設・サービスが充実していること」の割合が、男性の20歳未満で「子育てや介護などを地域で支え合う体制が整っていること」の割合が、男性の30歳代で「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを進めること」の割合が、男性の20歳代で「組織のトップが先頭に立って意識改革を行うこと」の割合が、女性の70歳以上で「家事や子育てなど家庭内での責任を男女（パートナー同士）がよく分かち合うこと」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	企業の管理職等に女性を積極的に登用すること	仕事と家庭の両立についての職場の支援制度が整っていること	保育や介護の施設・サービスが充実していること	子育てや介護などを地域で支え合う体制が整っていること	利用しやすい(子育て・介護以外の)サービスがあること	働き方の見直しを進めること	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを進めること	就職しやすい環境が整っていること	スキルアップに向けた研修や就職相談等、就職しやすい環境が整っていること	起業を希望する際に相談や情報・ノウハウの取得が容易なこと	組織のトップが先頭に立って意識改革を行うこと	職場全体で女性活躍の意義を理解し、積極的に取り組むこと	家事や子育てなど家庭内での責任を男女(パートナー同士)がよく分かち合うこと	その他	特別な取り組みは必要ない	無回答
女性 20歳未満	12	33.3	41.7	16.7	25.0	8.3	33.3	16.7	16.7	—	33.3	33.3	—	—	—	—	—
20歳代	37	18.9	70.3	27.0	24.3	13.5	37.8	5.4	—	27.0	2.7	37.8	—	—	—	—	—
30歳代	61	8.2	77.0	19.7	18.0	18.0	44.3	4.9	4.9	19.7	11.5	44.3	—	—	—	—	1.6
40歳代	80	15.0	75.0	33.8	17.5	15.0	46.3	5.0	—	17.5	10.0	42.5	2.5	—	—	—	2.5
50歳代	94	20.2	68.1	34.0	13.8	13.8	27.7	12.8	1.1	18.1	12.8	43.6	1.1	—	—	—	2.1
60歳代	67	23.9	61.2	32.8	11.9	17.9	34.3	10.4	—	19.4	17.9	34.3	1.5	—	—	—	4.5
70歳以上	83	21.7	44.6	33.7	15.7	14.5	25.3	3.6	1.2	16.9	16.9	51.8	—	—	—	—	12.0
男性 20歳未満	17	17.6	64.7	35.3	41.2	5.9	35.3	11.8	—	5.9	11.8	41.2	—	5.9	—	—	—
20歳代	25	16.0	56.0	28.0	12.0	12.0	32.0	4.0	8.0	36.0	20.0	32.0	4.0	4.0	—	—	8.0
30歳代	47	21.3	44.7	23.4	19.1	10.6	55.3	6.4	—	12.8	10.6	27.7	6.4	—	—	—	2.1
40歳代	58	24.1	56.9	20.7	22.4	15.5	32.8	13.8	—	20.7	19.0	32.8	6.9	—	—	—	—
50歳代	52	25.0	46.2	23.1	15.4	13.5	34.6	1.9	—	25.0	19.2	28.8	1.9	3.8	—	—	3.8
60歳代	67	25.4	58.2	44.8	14.9	16.4	28.4	13.4	3.0	19.4	17.9	28.4	4.5	—	—	—	3.0
70歳以上	69	30.4	53.6	29.0	20.3	13.0	21.7	11.6	1.4	29.0	21.7	29.0	7.2	1.4	—	—	2.9

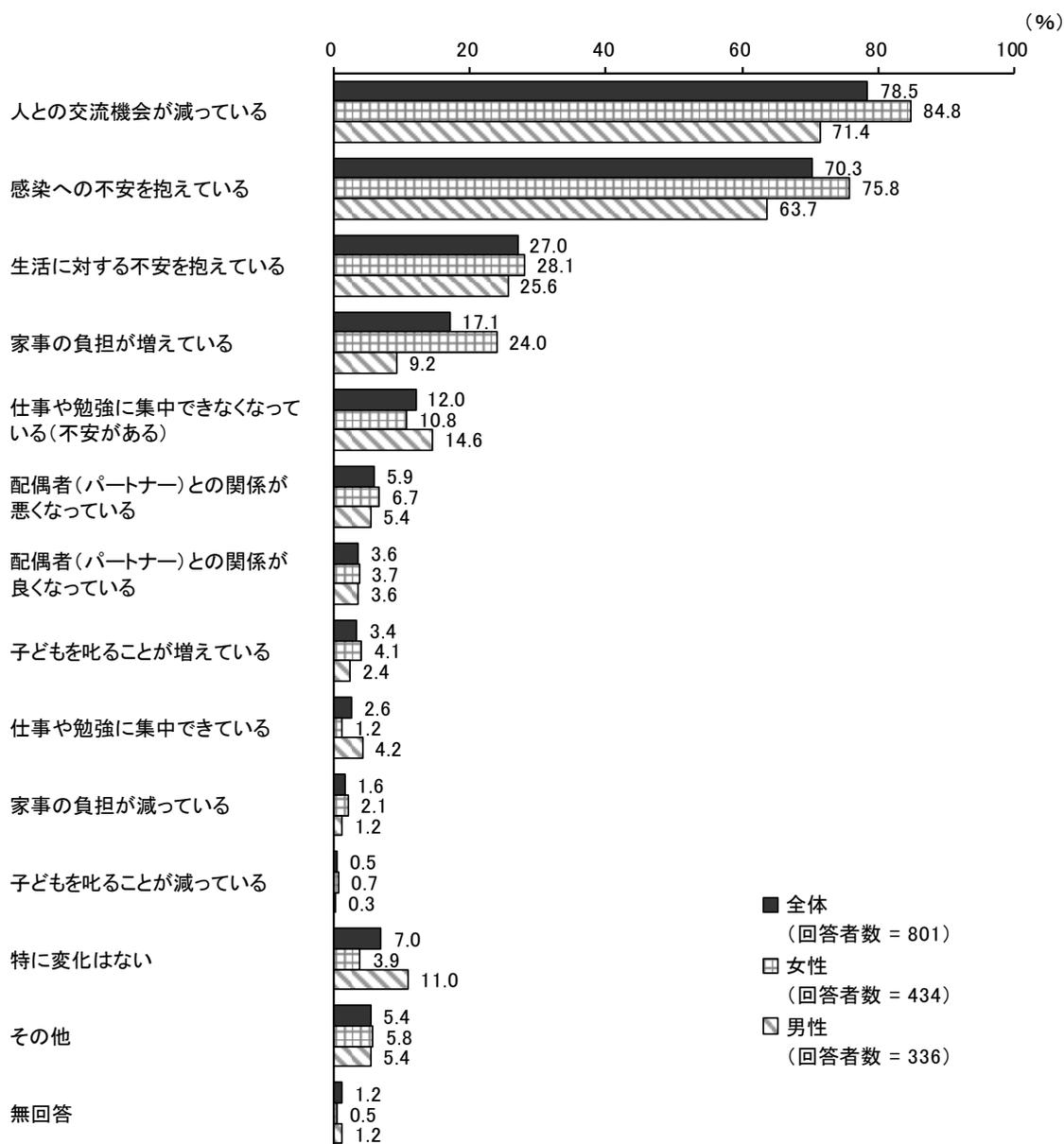
5 新型コロナウイルス感染症による影響について

問17 現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、コロナ禍前に比べ、あなたの生活や行動、心身に変化はありますか。(〇はいくつでも)

「人との交流機会が減っている」の割合が78.5%と最も高く、次いで「感染への不安を抱えている」の割合が70.3%、「生活に対する不安を抱えている」の割合が27.0%となっています。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「家事の負担が増えている」「人との交流機会が減っている」「感染への不安を抱えている」の割合が高くなっています。

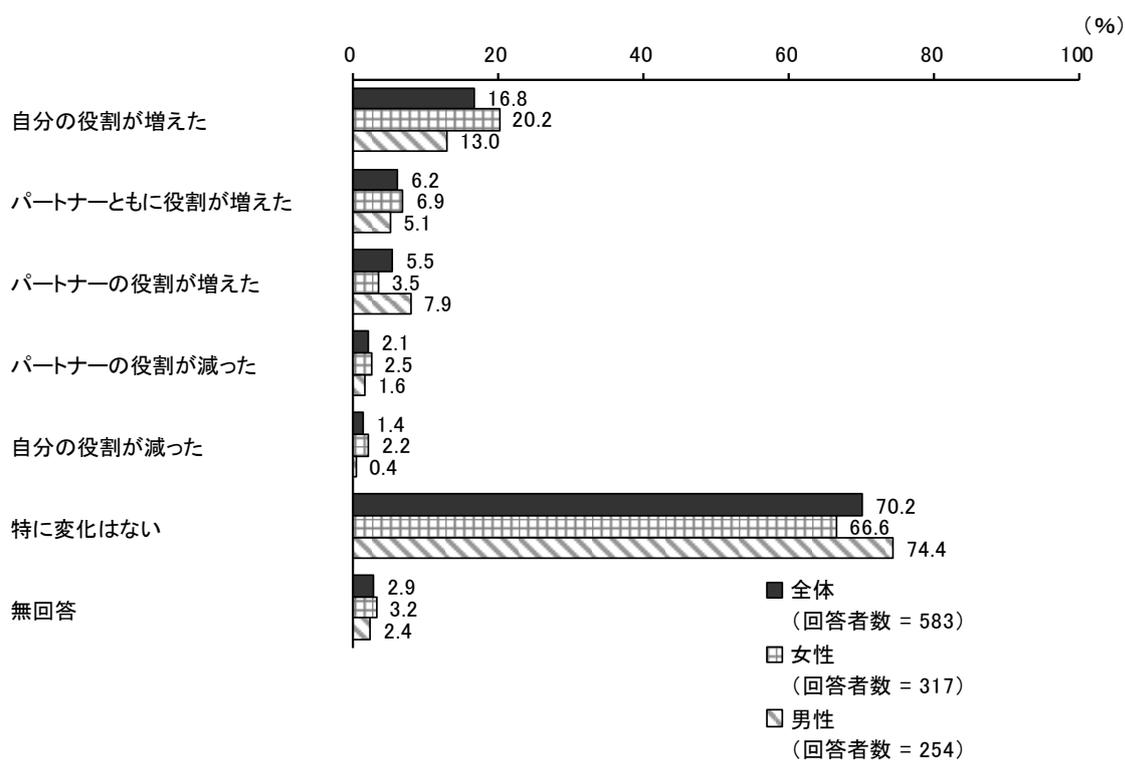


**問 18 配偶者（パートナー）がいる方にお聞きします。
新型コロナウイルス感染症の影響下で、家事・育児等に関するパートナー間の
役割分担に変化がありましたか。（〇はいくつでも）**

「特に変化はない」の割合が70.2%と最も高く、次いで「自分の役割が増えた」の割合が16.8%となっています。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「自分の役割が増えた」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「特に変化はない」の割合が高くなっています。



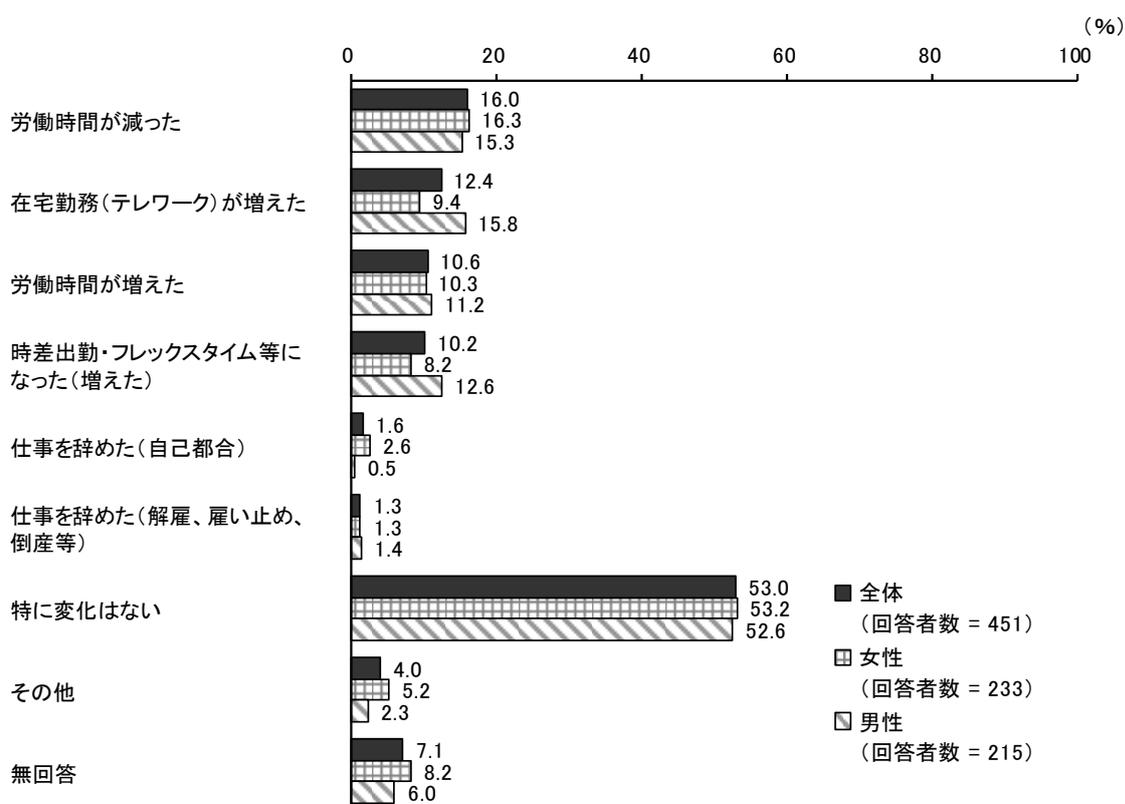
問19 働いている方、または配偶者（パートナー）が働いている方にお聞きします。新型コロナウイルス感染症の影響下で、あなたや配偶者（パートナー）の働き方に変化はありましたか。①あなた、②配偶者（パートナー）それぞれについて該当するところに○をつけてください。（○はいくつでも）

①あなた

「特に変化はない」の割合が53.0%と最も高く、次いで「労働時間が減った」の割合が16.0%、「在宅勤務（テレワーク）が増えた」の割合が12.4%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「在宅勤務（テレワーク）が増えた」「時差出勤・フレックスタイム等になった（増えた）」の割合が高くなっています。

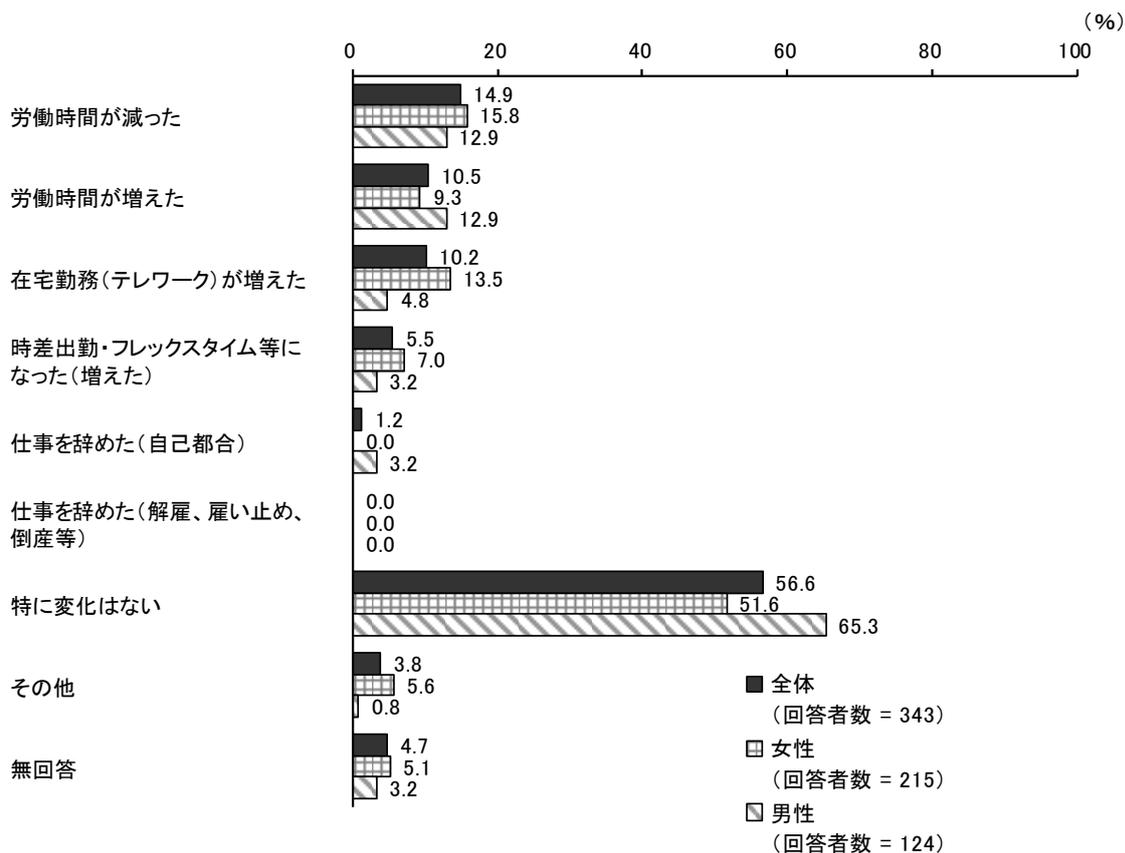


②配偶者（パートナー）

「特に変化はない」の割合が56.6%と最も高く、次いで「労働時間が減った」の割合が14.9%、「労働時間が増えた」の割合が10.5%となっています。

【性別】

性別で見ると、男性のパートナーに比べ、女性のパートナーで「在宅勤務（テレワーク）が増えた」の割合が高くなっています。一方、女性のパートナーに比べ、男性のパートナーで「特に変化はない」の割合が高くなっています。



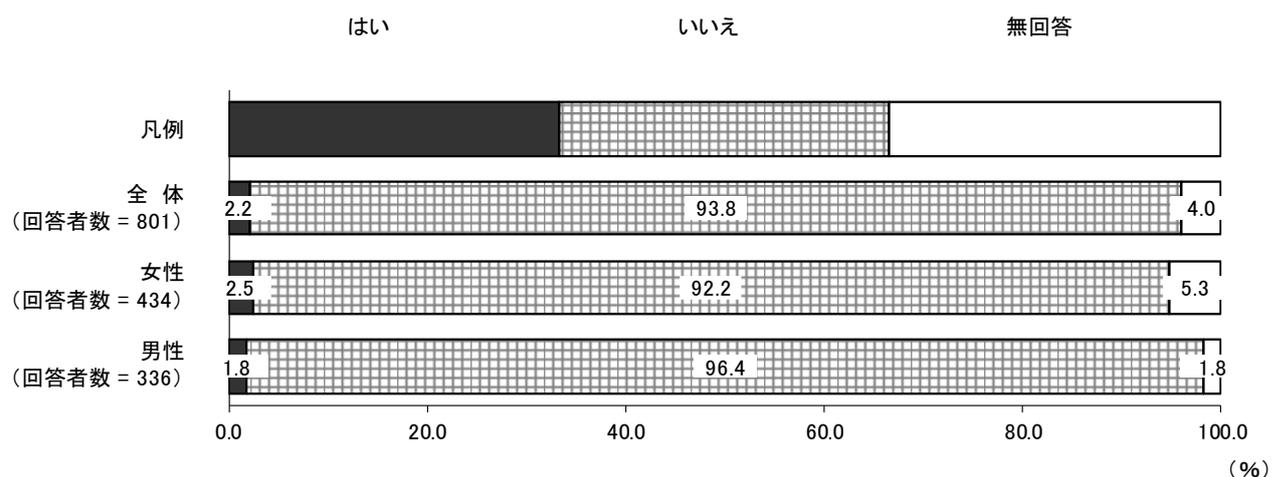
6 LGBTQ（性的マイノリティ）など多様な性について

問20 あなたは今までに自分の身体の性、心の性、または性的指向（自分が好きになる相手の性）などに悩んだことはありますか。（○は1つ）

「はい」の割合が2.2%、「いいえ」の割合が93.8%となっています。

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

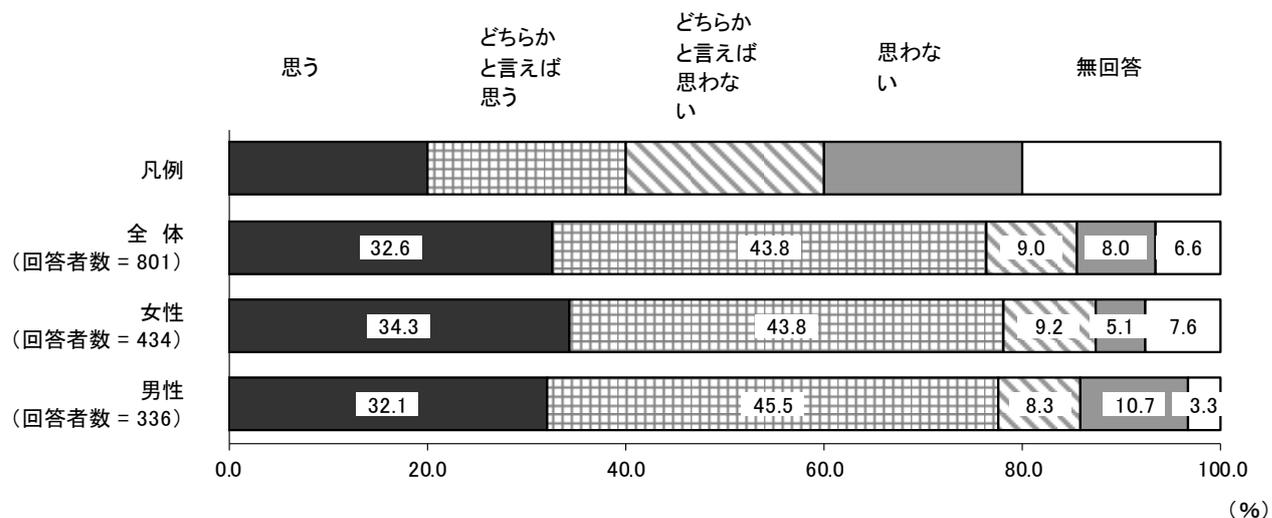


問21 性的マイノリティの方々にとって、現在の社会は生活しづらいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。（○は1つ）

「思う」と「どちらかと言えば思う」を合わせた“思う”の割合が76.4%、「どちらかと言えば思わない」と「思わない」を合わせた“思わない”の割合が17.0%となっています。

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



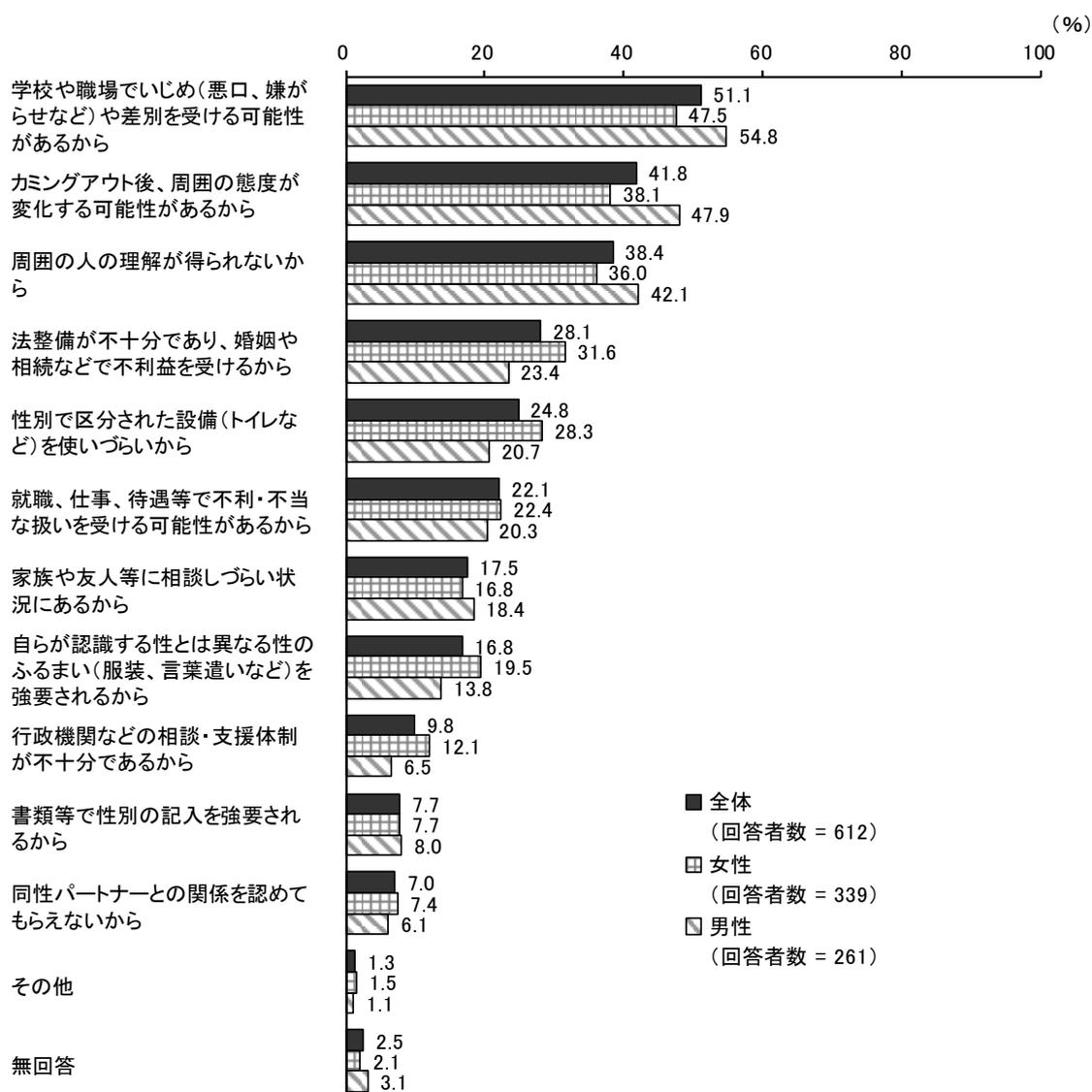
問22 問21で、「1. 思う」「2. どちらかと言えば思う」と回答した方にお聞きします。

それは、どのような理由からですか。(特にあてはまるもの3つまでに○)

「学校や職場でいじめ(悪口、嫌がらせなど)や差別を受ける可能性があるから」の割合が51.1%と最も高く、次いで「カミングアウト後、周囲の態度が変化する可能性があるから」の割合が41.8%、「周囲の人の理解が得られないから」の割合が38.4%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「学校や職場でいじめ(悪口、嫌がらせなど)や差別を受ける可能性があるから」「カミングアウト後、周囲の態度が変化する可能性があるから」「周囲の人の理解が得られないから」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けるから」「性別で区分された設備(トイレなど)を使いつらいから」「自らが認識する性とは異なる性のふるまい(服装、言葉遣いなど)を強要されるから」「行政機関などの相談・支援体制が不十分であるから」の割合が高くなっています。

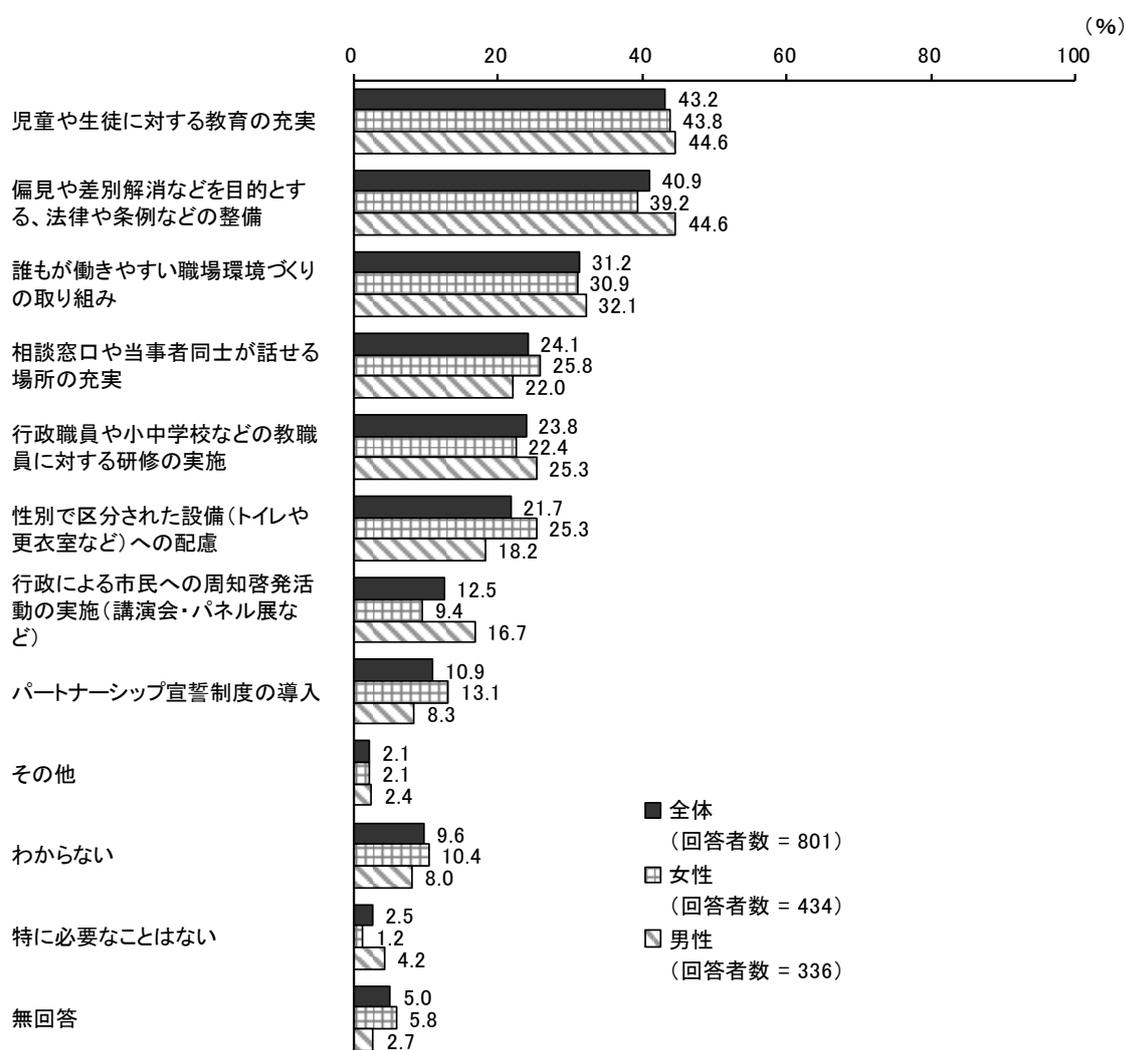


問23 あなたは、性的マイノリティの方々にとって、偏見や差別をなくし生活しやすい社会を実現するために、どのような対策が必要だと思いますか。（特に必要だと思うもの3つまでに○）

「児童や生徒に対する教育の充実」の割合が43.2%と最も高く、次いで「偏見や差別解消などを目的とする、法律や条例などの整備」の割合が40.9%、「誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み」の割合が31.2%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「偏見や差別解消などを目的とする、法律や条例などの整備」「行政による市民への周知啓発活動の実施（講演会・パネル展など）」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「性別で区分された設備（トイレや更衣室など）への配慮」の割合が高くなっています。

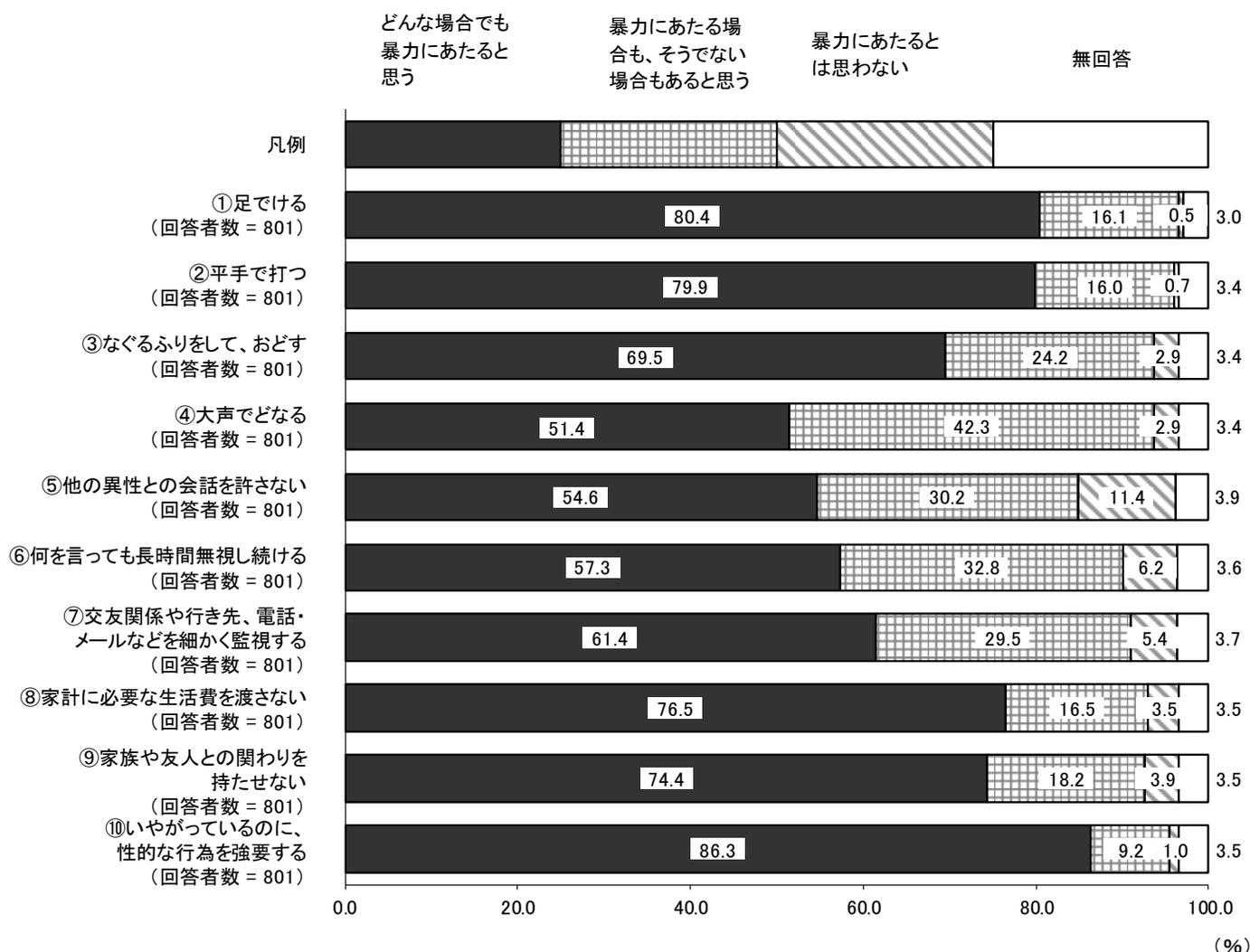


7 ドメスティック・バイオレンス（DV）、ハラスメントについて

問24 あなたは、次のようなことが配偶者（パートナー）間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。①～⑩の項目ごとに1つずつ○をつけてください。

『①足でける』『②平手で打つ』『⑩いやがっているのに、性的な行為を強要する』で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高く、特に「⑩いやがっているのに、性的な行為を強要する」で86.3%となっています。また、『④大声でどなる』で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高く、42.3%となっています。

一方、『⑤他の異性との会話を許さない』で「暴力にあたるとは思わない」の割合が高く、11.4%となっています。

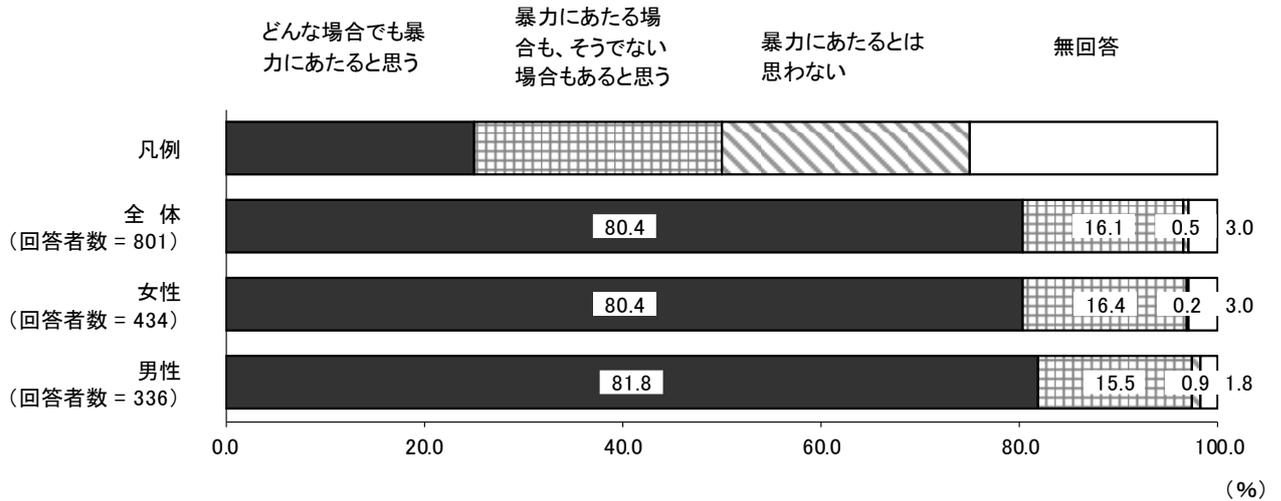


①足でける

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が80.4%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が16.1%となっています。

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

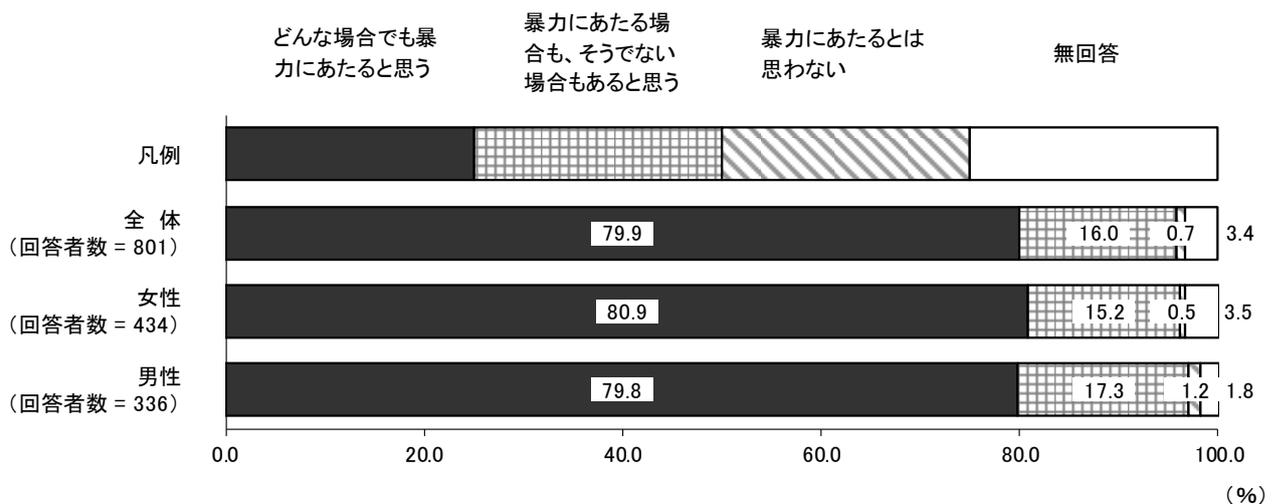


②平手で打つ

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が79.9%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が16.0%となっています。

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

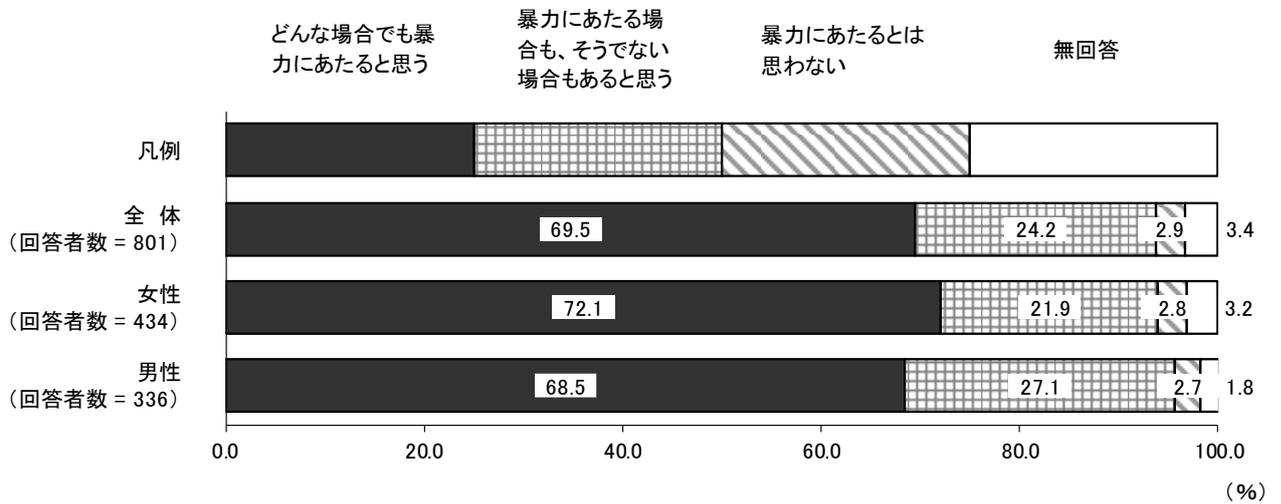


③なぐるふりをして、おどす

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が69.5%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が24.2%となっています。

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。

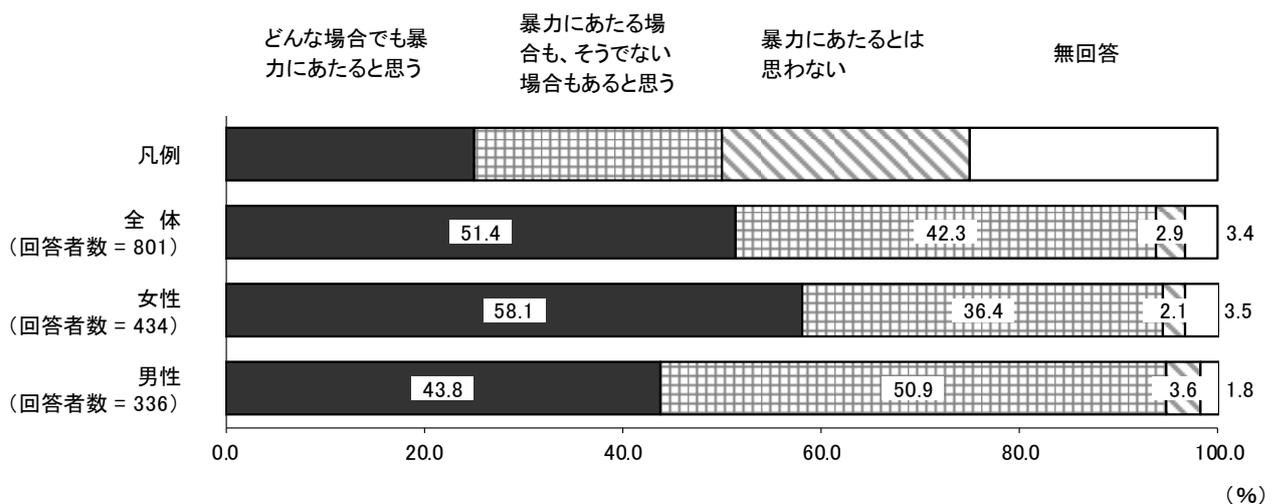


④大声でどなる

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が51.4%と最も高くなっていますが、一方で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合は42.3%となっています。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

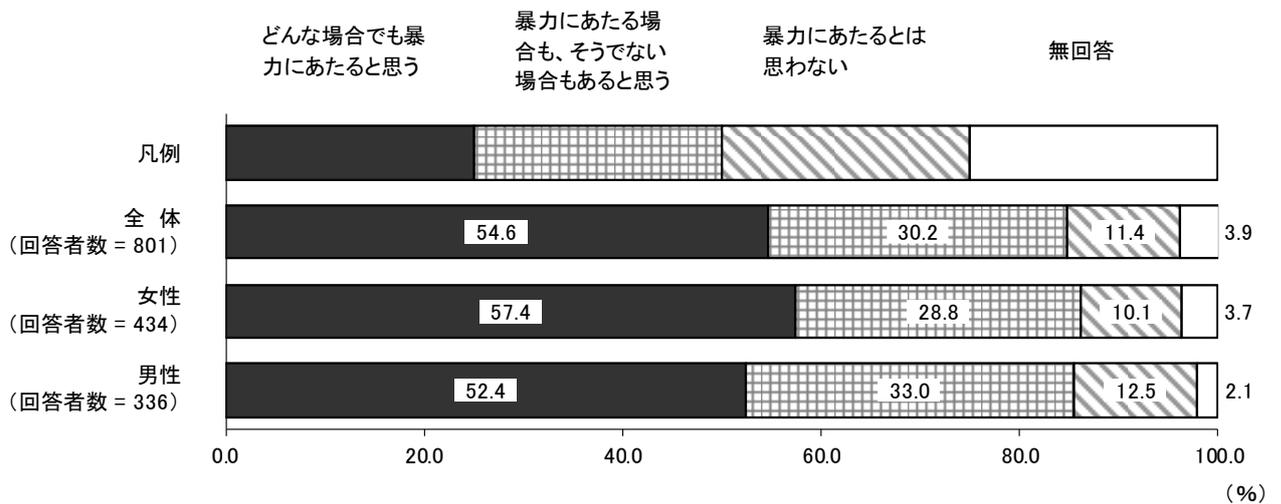


⑤他の異性との会話を許さない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が54.6%と最も高くなっていますが、一方で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合は30.2%、「暴力にあたるとは思わない」の割合は11.4%となっています。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。

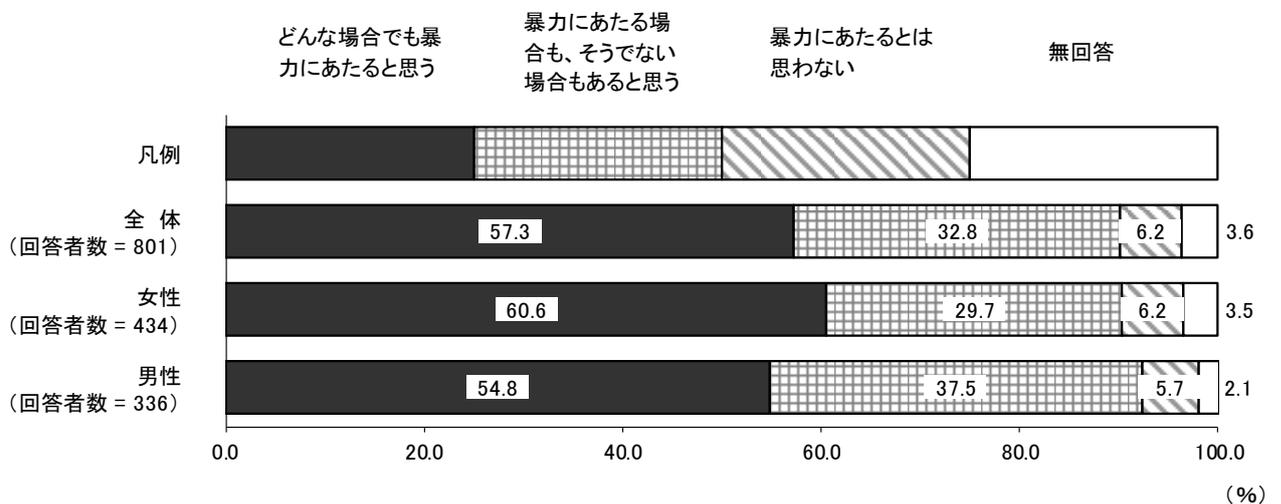


⑥何を言っても長時間無視し続ける

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が57.3%と最も高くなっていますが、一方で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合は32.8%、「暴力にあたるとは思わない」の割合は6.2%となっています。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

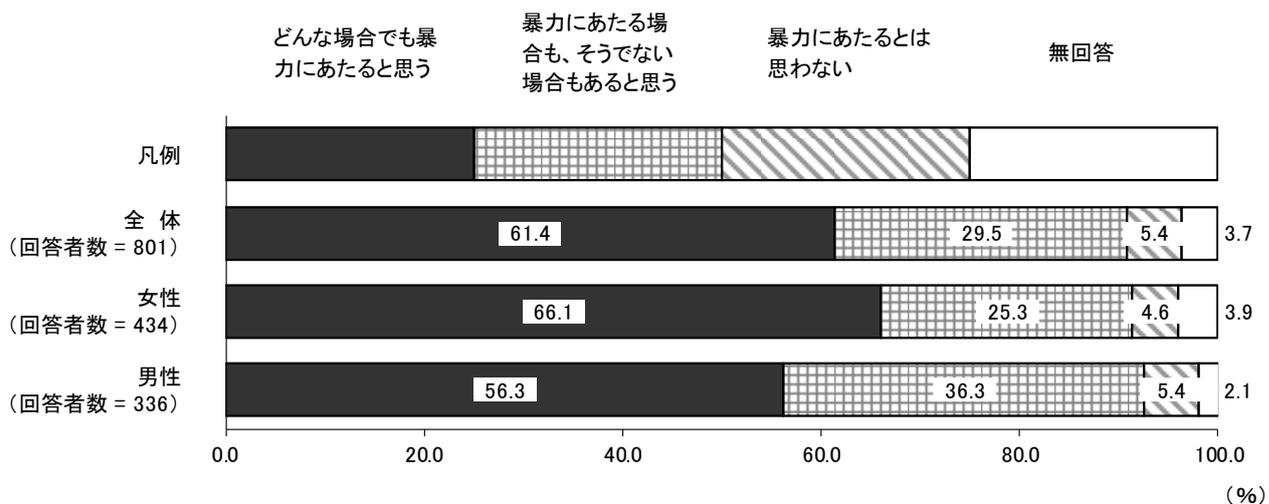


⑦交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が61.4%と最も高くなっていますが、一方で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合は29.5%、「暴力にあたるとは思わない」の割合は5.4%となっています。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

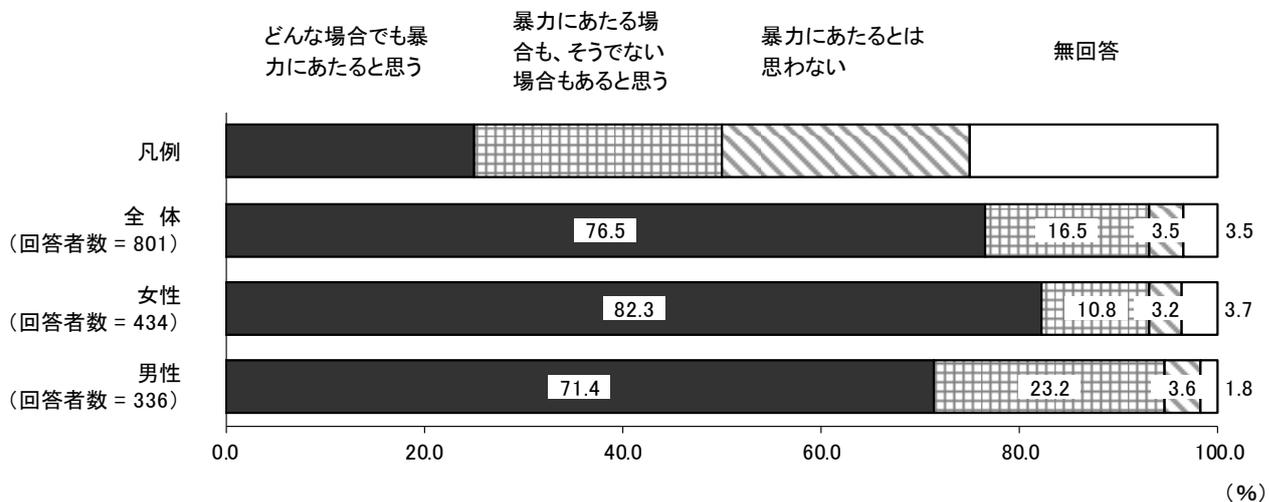


⑧家計に必要な生活費を渡さない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が76.5%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が16.5%となっています。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

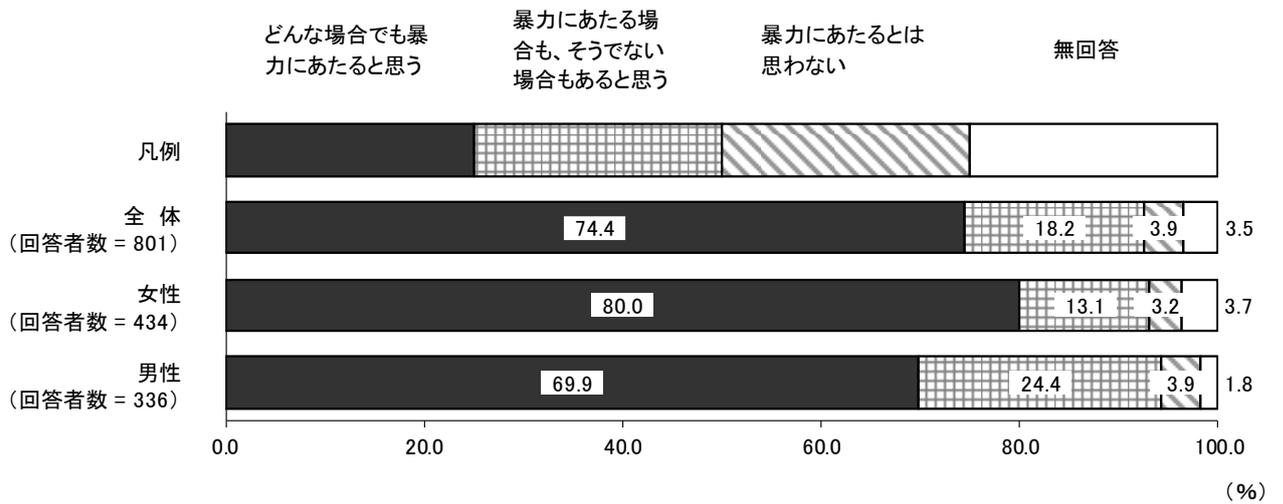


⑨家族や友人との関わりを持たせない

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が74.4%と最も高く、次いで「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が18.2%となっています。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」の割合が高くなっています。

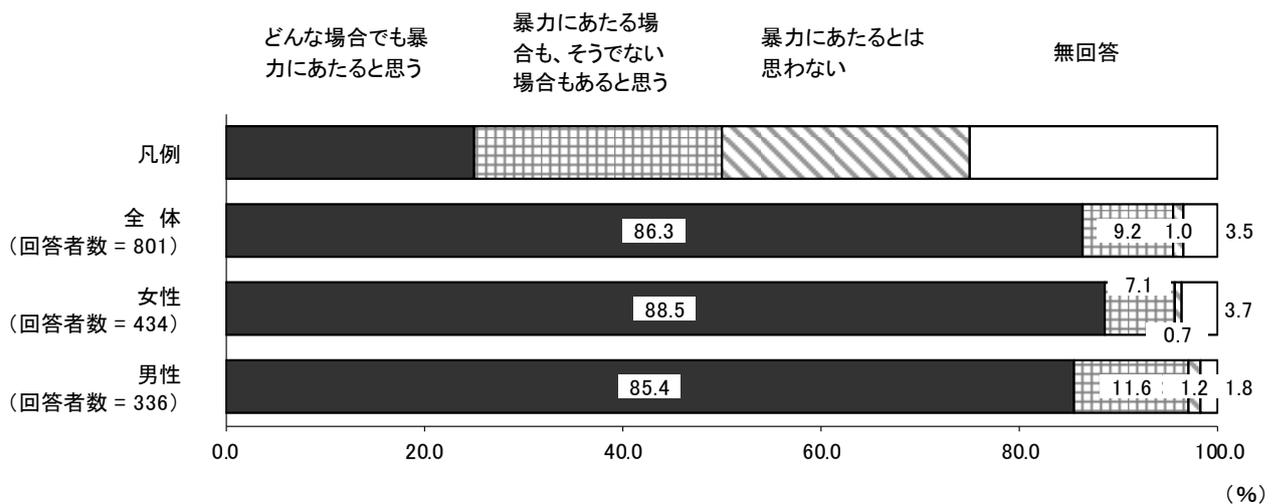


⑩いやがっているのに、性的な行為を強要する

「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が86.3%と最も高くなっています。

【性別】

性別でみると、大きな差異はみられません。



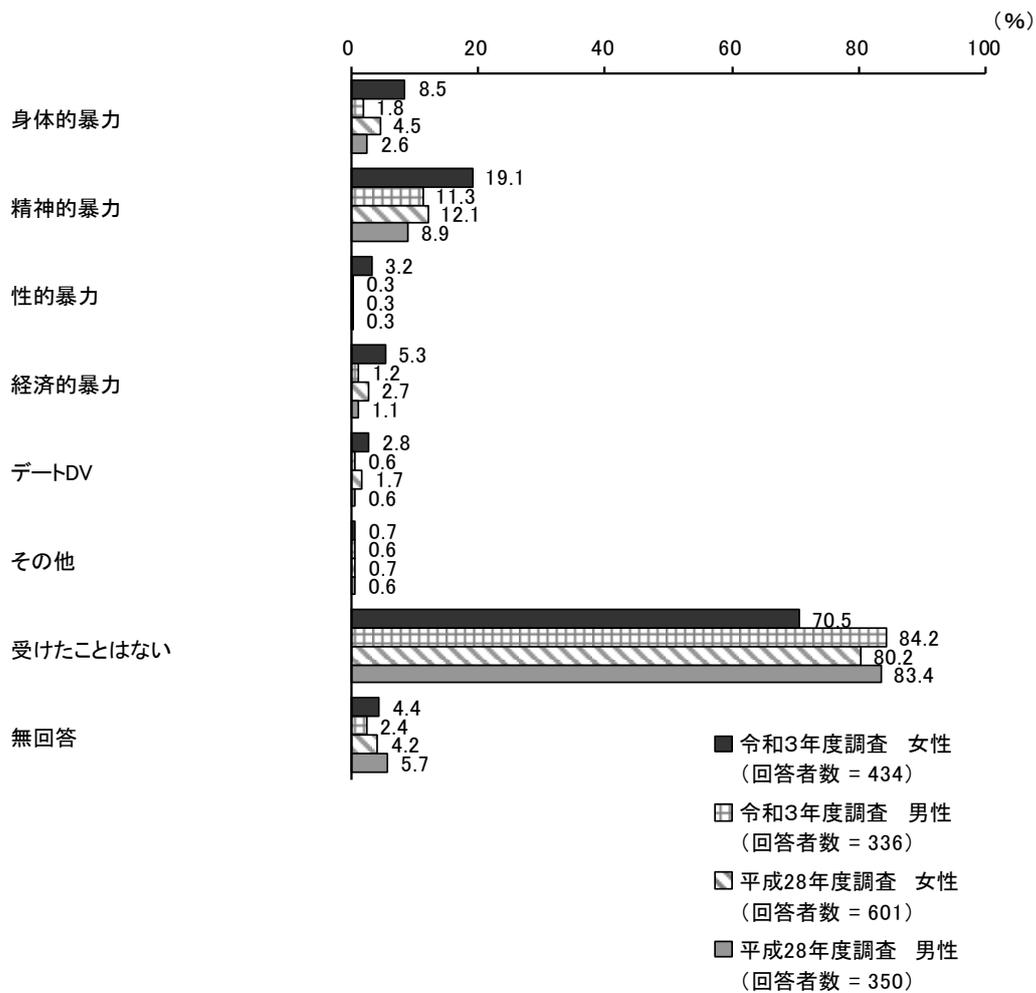
問 2 5 あなたは以下の種類のDVを受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

「精神的暴力」の割合が、女性で19.1%、男性で11.3%となっています。また、女性で「身体的暴力」の割合が8.5%となっています。

いずれの暴力についても受けたことがある人は数%みられます。

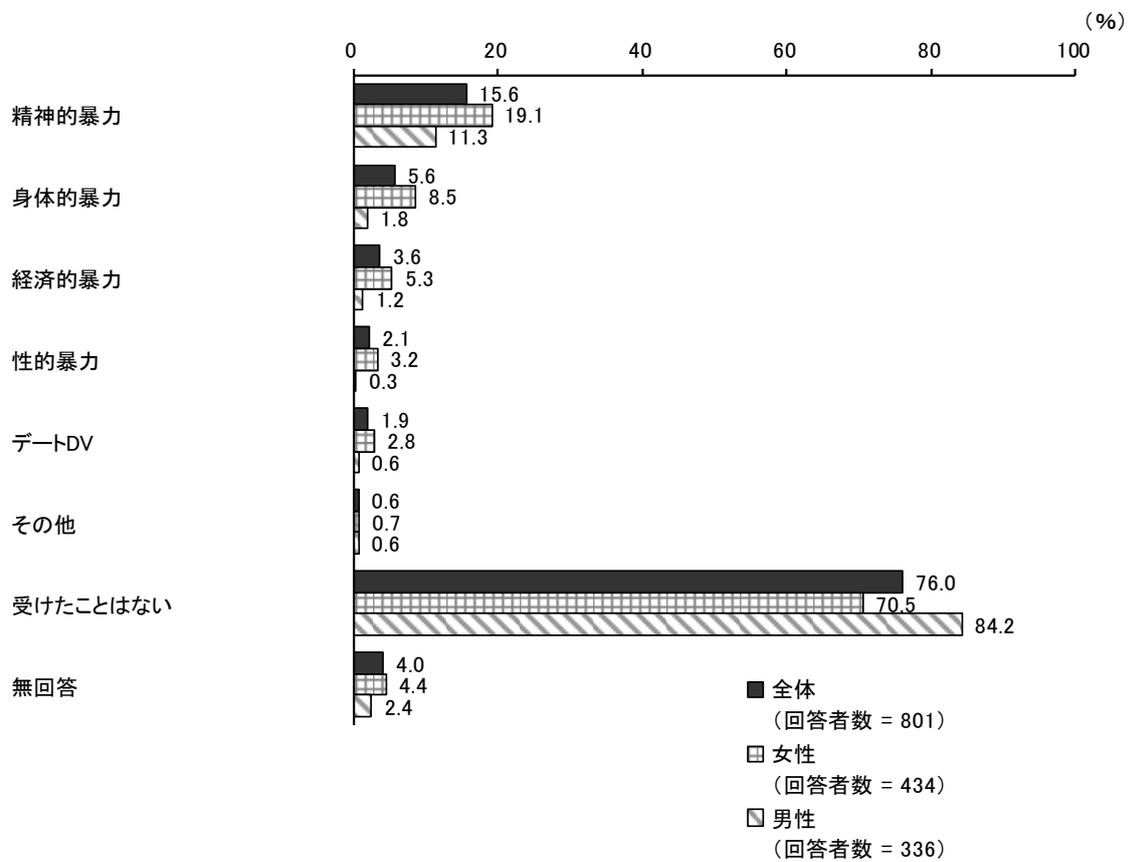
【前回比較】

平成 28 年度調査と比較すると、女性で「精神的暴力」の割合が増加し、「受けたことはない」の割合が減少しています。



【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「身体的暴力」「精神的暴力」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「受けたことはない」の割合が高くなっています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、女性の50歳代で「身体的暴力」「精神的暴力」の割合が高くなっています。

単位：%

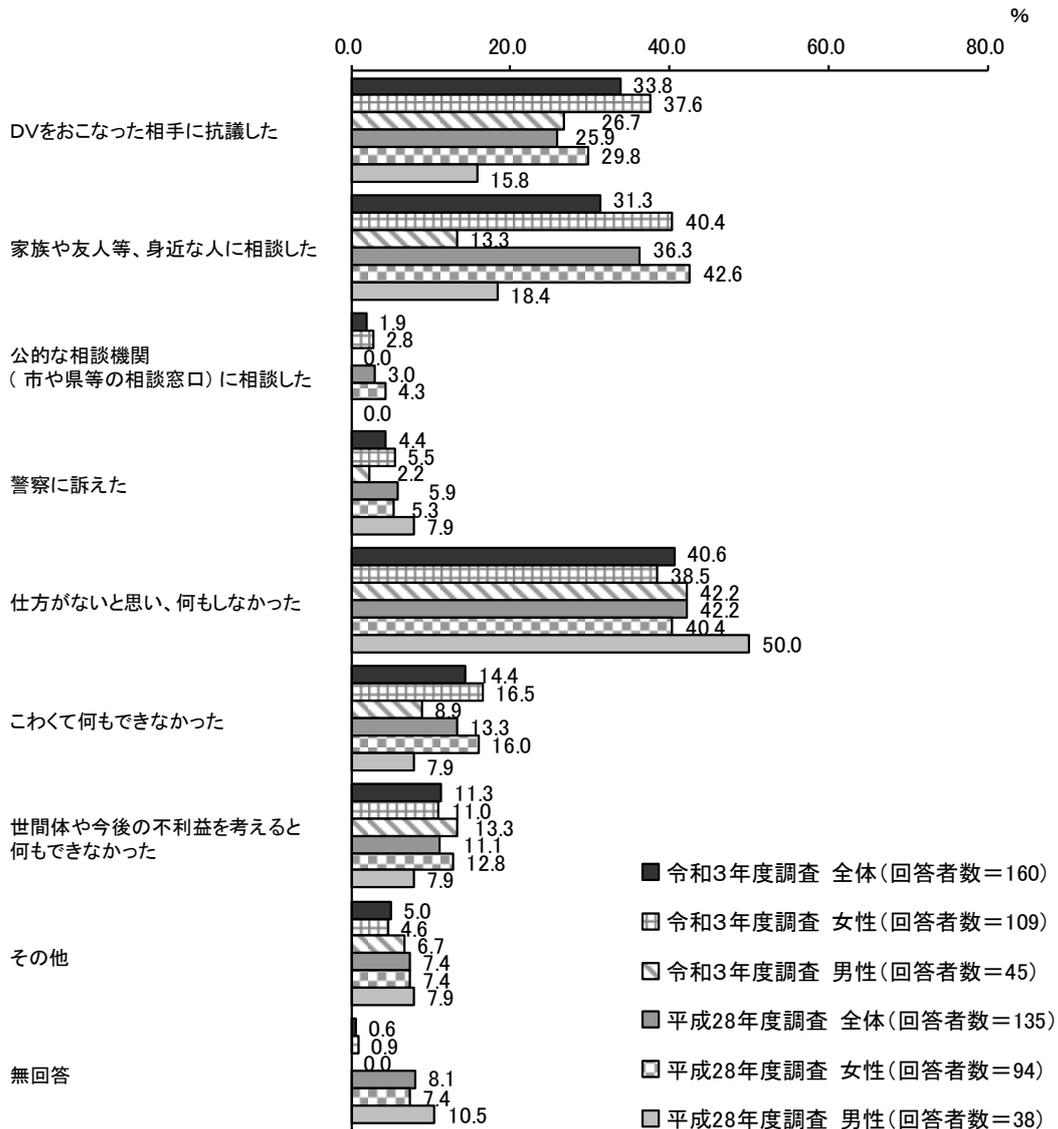
区分	回答者数 (件)	身体的暴力	精神的暴力	性的暴力	経済的暴力	デートDV	その他	受けたことはない	無回答
女性 20歳未満	12	—	8.3	—	—	—	—	91.7	—
20歳代	37	5.4	13.5	8.1	2.7	2.7	—	81.1	—
30歳代	61	9.8	9.8	4.9	3.3	6.6	—	82.0	1.6
40歳代	80	3.8	22.5	1.3	3.8	1.3	2.5	71.3	2.5
50歳代	94	13.8	23.4	2.1	6.4	4.3	1.1	63.8	2.1
60歳代	67	9.0	17.9	1.5	9.0	1.5	—	73.1	3.0
70歳以上	83	8.4	22.9	4.8	6.0	1.2	—	59.0	14.5
男性 20歳未満	17	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9	—	94.1	—
20歳代	25	—	4.0	—	—	—	—	96.0	—
30歳代	47	6.4	12.8	—	—	—	—	80.9	2.1
40歳代	58	1.7	8.6	—	1.7	—	1.7	84.5	3.4
50歳代	52	—	7.7	—	—	1.9	—	90.4	—
60歳代	67	—	9.0	—	—	—	—	91.0	—
70歳以上	69	1.4	21.7	—	2.9	—	1.4	68.1	7.2

**問26 問25で「1～6」と回答された方にお聞きします。
あなたはDVを受けたとき、どのような対応をしましたか。(〇はいくつでも)**

「仕方がないと思い、何もしなかった」の割合が40.6%と最も高く、次いで「DVをおこなった相手に抗議した」の割合が33.8%、「家族や友人等、身近な人に相談した」の割合が31.3%となっています。

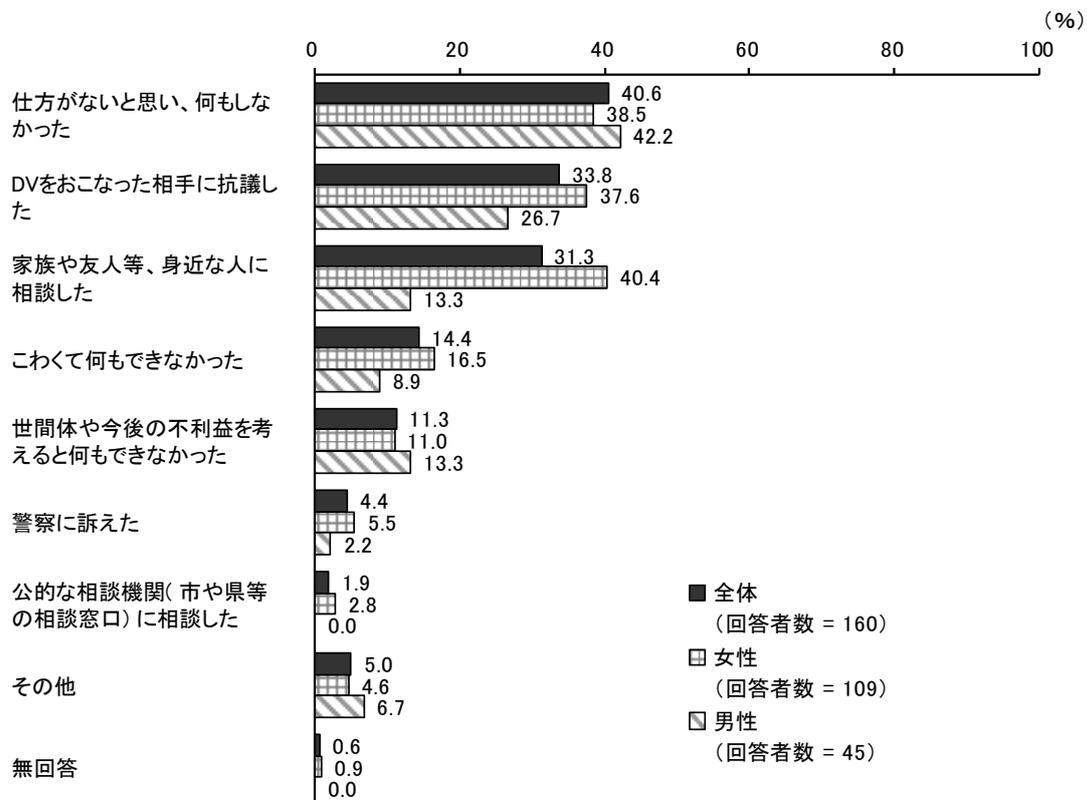
【前回比較】

前回調査と比較すると、男女ともに「DVをおこなった相手に抗議した」の割合が増加し、「仕方がないと思い、何もしなかった」の割合が減少しています。



【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「DVをおこなった相手に抗議した」「家族や友人等、身近な人に相談した」「こわくて何もできなかった」の割合が高くなっています。



【性年代別】

有効回答数が少ない為、参考として掲載します。

単位：%

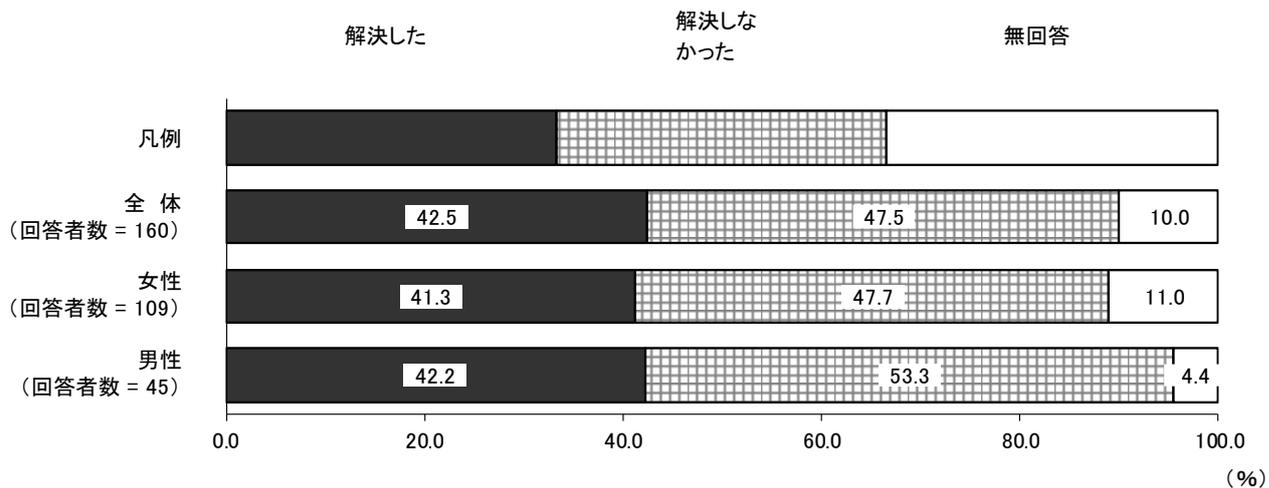
区分	回答者数(件)	DVをおこなった相手に抗議した	家族や友人等、身近な人に相談した	公的な相談機関(市や県等の相談窓口)に相談した	警察に訴えた	仕方がないと思い、何もしなかった	こわくて何もできなかった	世間体や今後の不利益を考えると何もできなかった	その他	無回答
女性 20歳未満	1	100.0	—	100.0	—	—	—	—	—	—
20歳代	7	—	42.9	—	—	71.4	14.3	—	—	—
30歳代	10	60.0	60.0	10.0	10.0	50.0	20.0	10.0	—	—
40歳代	21	33.3	28.6	—	9.5	47.6	19.0	14.3	—	—
50歳代	32	37.5	40.6	—	9.4	28.1	21.9	6.3	9.4	—
60歳代	16	37.5	50.0	6.3	—	31.3	18.8	12.5	—	6.3
70歳以上	22	40.9	36.4	—	—	36.4	4.5	18.2	9.1	—
男性 20歳未満	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
20歳代	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
30歳代	8	25.0	12.5	—	—	25.0	37.5	12.5	—	—
40歳代	7	14.3	14.3	—	14.3	42.9	14.3	14.3	—	—
50歳代	5	40.0	—	—	—	60.0	—	—	—	—
60歳代	6	16.7	33.3	—	—	50.0	—	16.7	—	—
70歳以上	17	23.5	11.8	—	—	47.1	—	17.6	17.6	—

問27 問25で「1～6」と回答された方にお聞きします。
あなたが問26で回答した対応をした結果、DVは解決しましたか。(〇は1つ)

「解決した」の割合が42.5%、「解決しなかった」の割合が47.5%となっています。

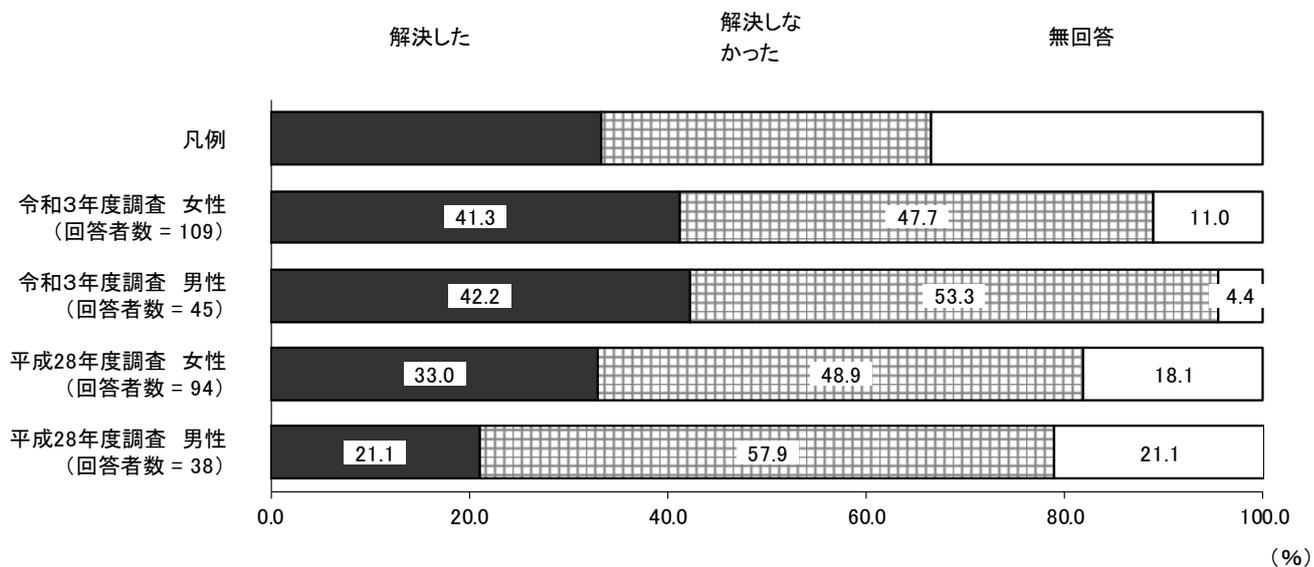
【性別】

性別で見ると、大きな差異はみられません。



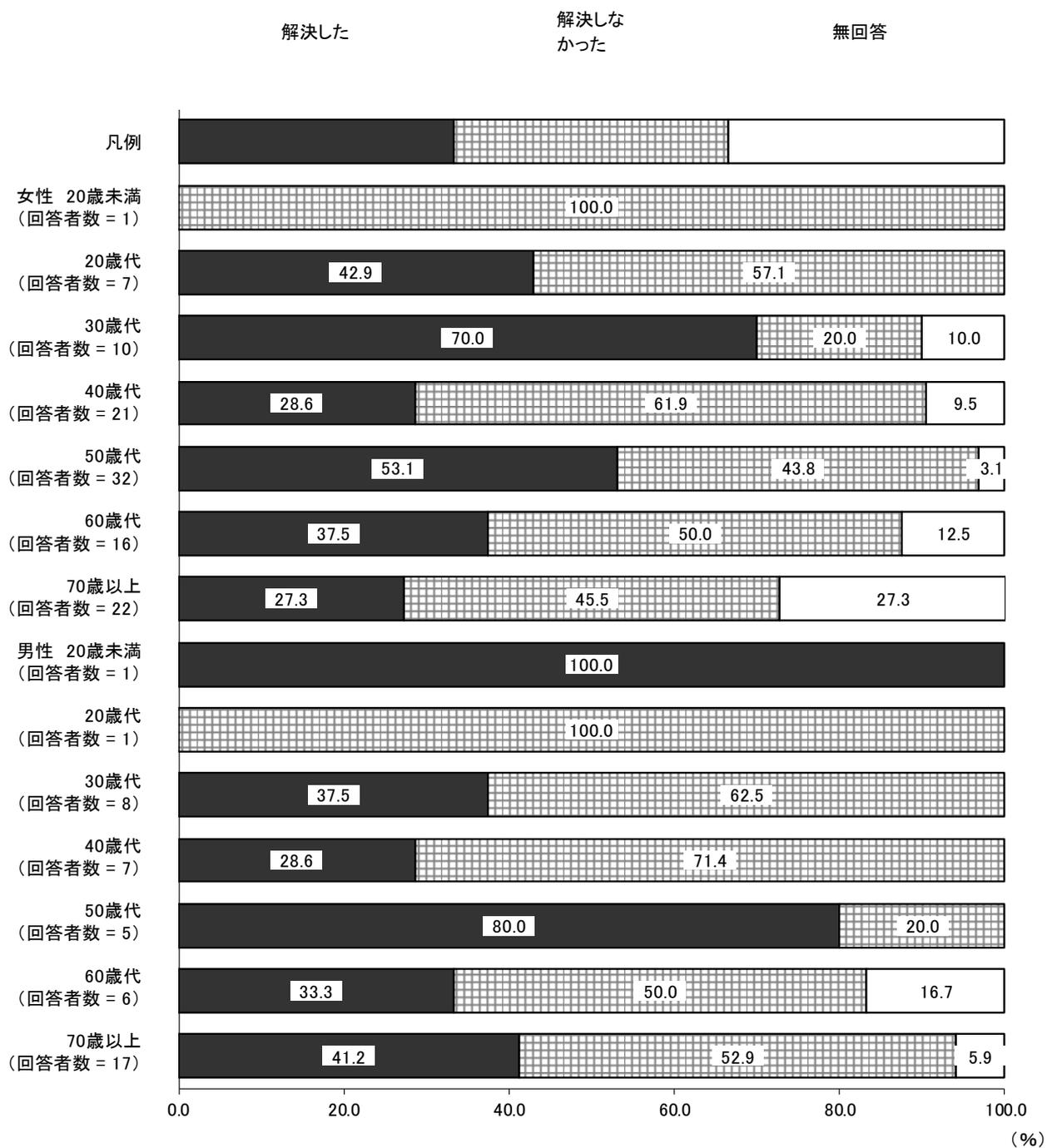
【前回比較】

平成28年度調査と比較すると、男女ともに「解決した」の割合が増加しています。



【性年代別】

有効回答数が少ない為、参考として掲載します。

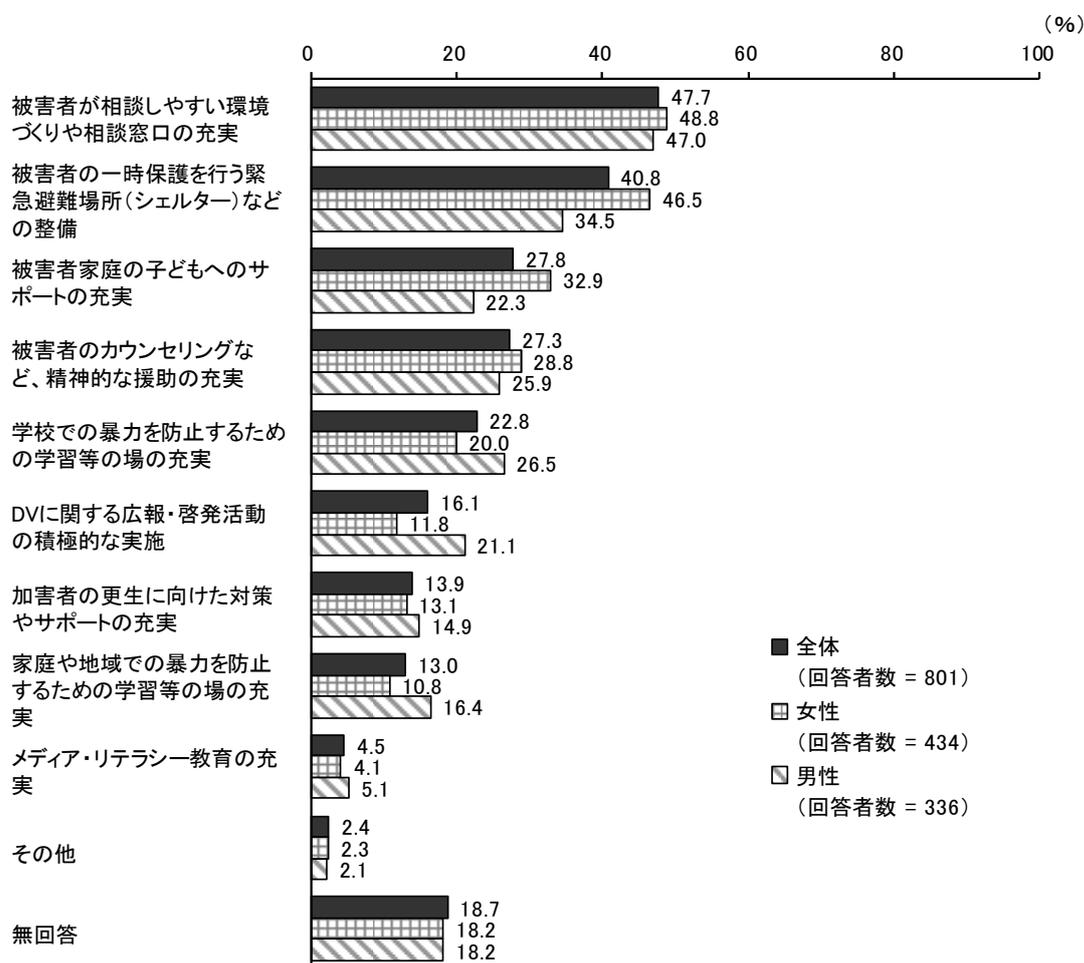


問28 あなたは、DVに対する対策や支援として、どのような取組が必要だと思えますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

「被害者が相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実」の割合が47.7%と最も高く、次いで「被害者の一時保護を行う緊急避難場所(シェルター)などの整備」の割合が40.8%、「被害者家庭の子どもへのサポートの充実」の割合が27.8%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「学校での暴力を防止するための学習等の場の充実」「DVに関する広報・啓発活動の積極的な実施」「家庭や地域での暴力を防止するための学習等の場の充実」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「被害者の一時保護を行う緊急避難場所(シェルター)などの整備」「被害者家庭の子どもへのサポートの充実」の割合が高くなっています。

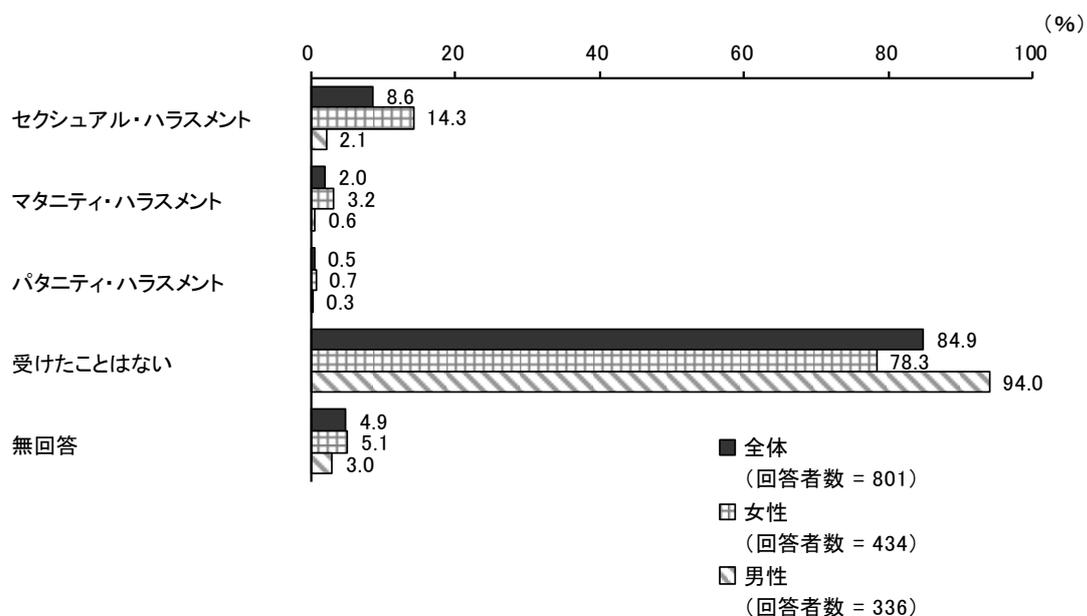


問 2 9 あなたは以下の種類のハラスメントを受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

「セクシュアル・ハラスメント」の割合が 8.6%、「マタニティ・ハラスメント」の割合が 3.2%となっています。

【性別】

性別で見ると、男性に比べ、女性で「セクシュアル・ハラスメント」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「受けたことはない」の割合が高くなっています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、女性の40歳代で「セクシュアル・ハラスメント」の割合が、女性の30歳代で「マタニティ・ハラスメント」の割合が、男性の60歳代で「受けたことはない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	セクシュアル・ハラスメント	マタニティ・ハラスメント	パタニティ・ハラスメント	受けたことはない	無回答
女性 20歳未満	12	8.3	—	—	91.7	—
20歳代	37	16.2	—	—	83.8	—
30歳代	61	16.4	11.5	3.3	73.8	—
40歳代	80	27.5	6.3	1.3	66.3	3.8
50歳代	94	13.8	1.1	—	81.9	3.2
60歳代	67	10.4	1.5	—	83.6	4.5
70歳以上	83	3.6	—	—	80.7	15.7
男性 20歳未満	17	5.9	—	—	94.1	—
20歳代	25	4.0	—	—	88.0	8.0
30歳代	47	2.1	2.1	—	93.6	2.1
40歳代	58	3.4	1.7	—	94.8	—
50歳代	52	3.8	—	—	96.2	—
60歳代	67	—	—	—	97.0	3.0
70歳以上	69	—	—	1.4	91.3	7.2

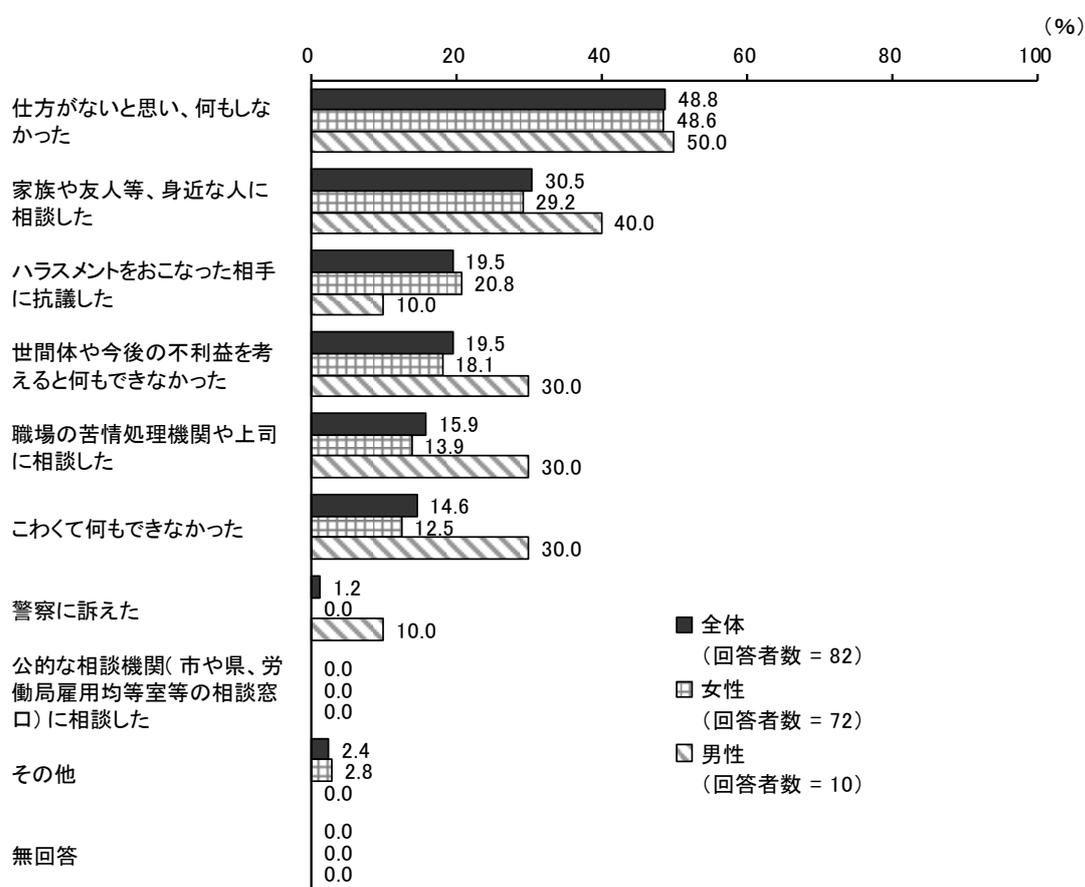
問30 問29で「1～3」と回答された方にお聞きします。

あなたはハラスメントを受けたとき、どのような対応をしましたか。(〇はいくつでも)

「仕方がないと思い、何もしなかった」の割合が48.8%と最も高く、次いで「家族や友人等、身近な人に相談した」の割合が30.5%、「ハラスメントをおこなった相手に抗議した」、「世間体や今後の不利益を考えると何もできなかった」の割合が19.5%となっています。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「ハラスメントをおこなった相手に抗議した」の割合が高くなっています。一方、女性に比べ、男性で「家族や友人等、身近な人に相談した」「職場の苦情処理機関や上司に相談した」「警察に訴えた」「世間体や今後の不利益を考えると何もできなかった」「こわくて何もできなかった」の割合が高くなっています。



【性年代別】

有効回答数が少ない為、参考として掲載します。

単位：％

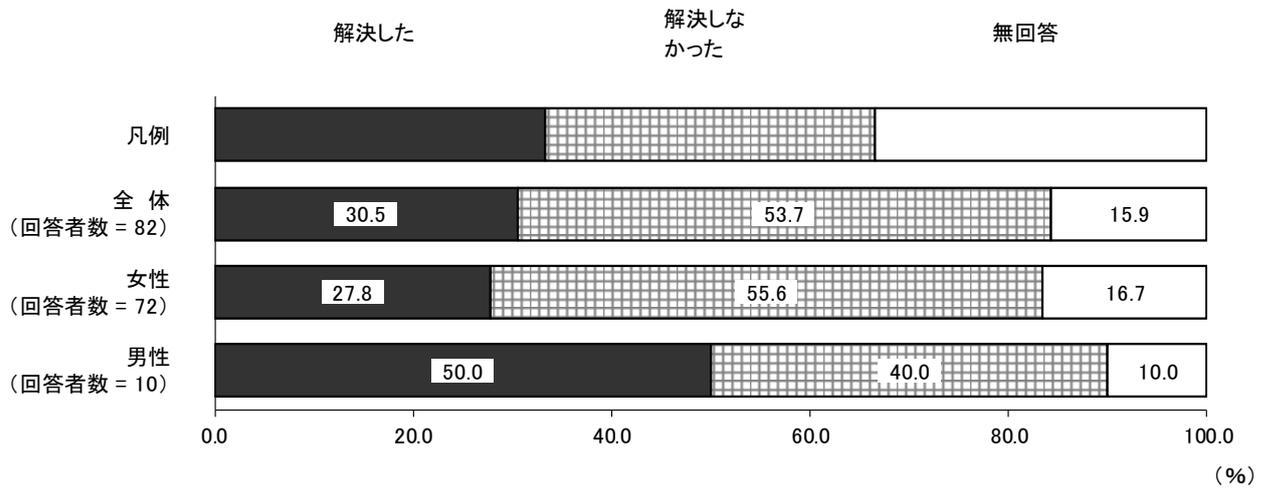
区分	回答者数（件）	議した ハラスメントをおこなった相手に抗	家族や友人等、身近な人に相談した	職場の苦情処理機関や上司に相談した	公的な相談機関（市や県、労働局雇用均等室等の相談窓口）に相談した	警察に訴えた	仕方がないと思い、何もしなかった	こわくて何もできなかった	世間体や今後の不利益を考えると何 もできなかった	その他	無回答
女性 20歳未満	1	—	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—
20歳代	6	—	16.7	33.3	—	—	50.0	—	33.3	—	—
30歳代	16	6.3	50.0	18.8	—	—	43.8	12.5	18.8	—	—
40歳代	24	25.0	25.0	12.5	—	—	41.7	12.5	20.8	8.3	—
50歳代	14	28.6	7.1	—	—	—	71.4	14.3	21.4	—	—
60歳代	8	37.5	37.5	25.0	—	—	50.0	25.0	—	—	—
70歳以上	3	33.3	33.3	—	—	—	33.3	—	—	—	—
男性 20歳未満	1	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20歳代	1	—	100.0	—	—	—	100.0	—	—	—	—
30歳代	2	—	—	—	—	—	50.0	50.0	50.0	—	—
40歳代	3	—	33.3	66.7	—	33.3	33.3	33.3	33.3	—	—
50歳代	2	—	50.0	—	—	—	50.0	50.0	50.0	—	—
60歳代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
70歳以上	1	—	100.0	100.0	—	—	100.0	—	—	—	—

問3 1 問29で「1～3」と回答された方にお聞きします。あなたが問30で回答した対応をした結果、ハラスメントは解決しましたか。(〇は1つ)

「解決した」の割合が30.5%、「解決しなかった」の割合が53.7%となっています。

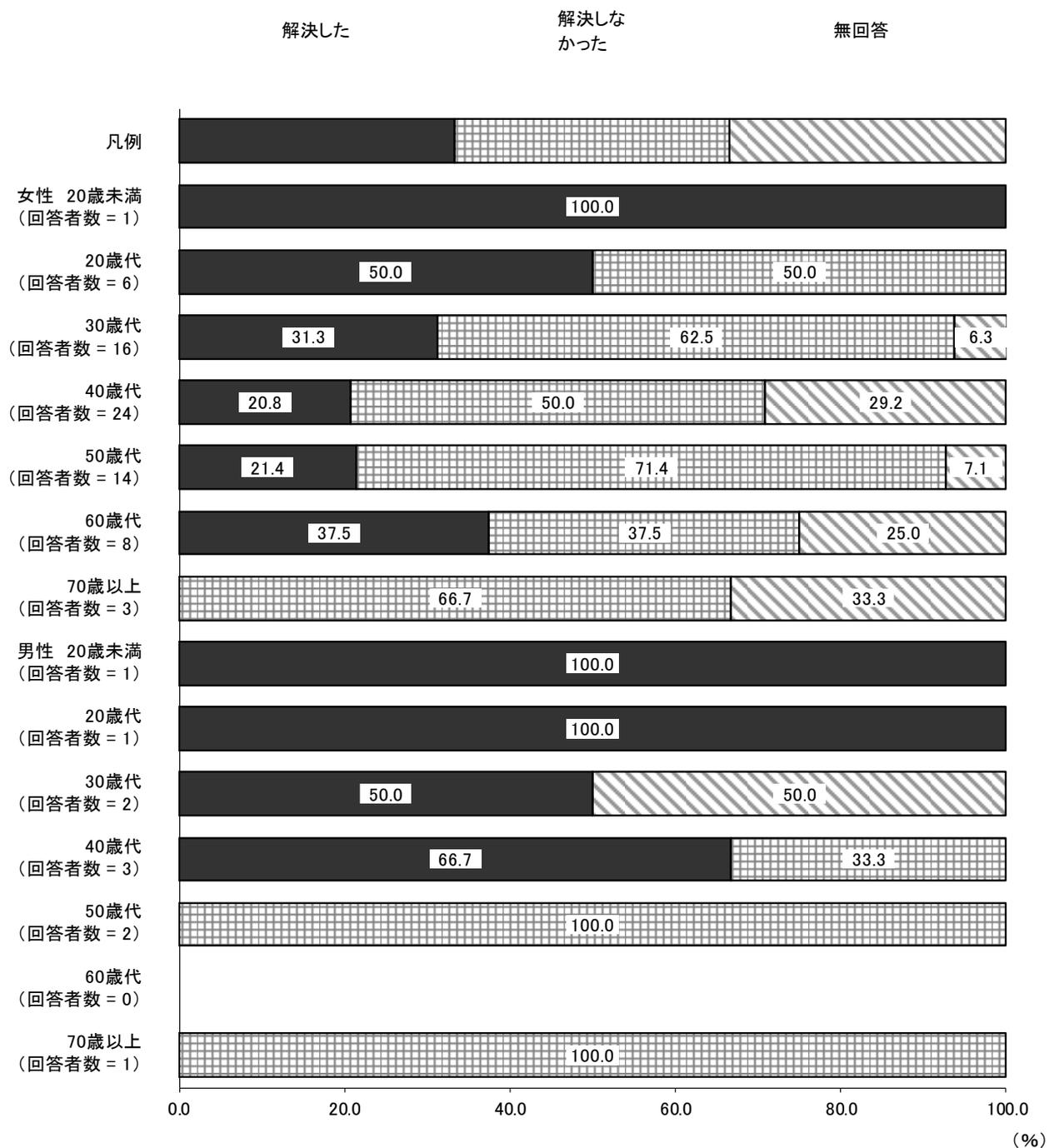
【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「解決した」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「解決しなかった」の割合が高くなっています。



【性年代別】

有効回答数が少ない為、参考として掲載します。

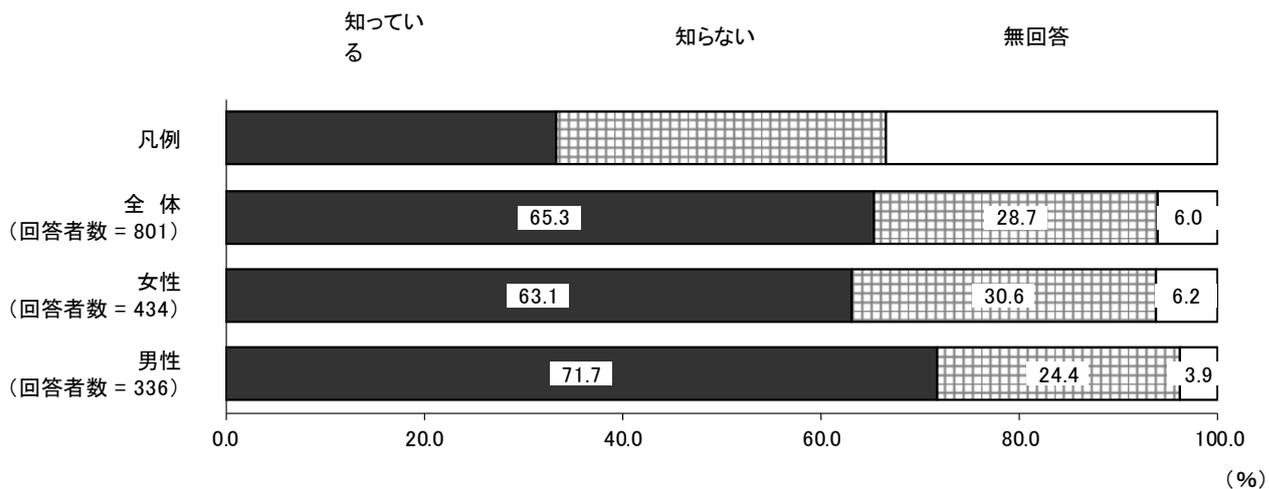


問32 近年、モデルやアイドル等の勧誘を装い、それをきっかけに若年層の女性が性的な被害を受ける問題（いわゆる、JKビジネス問題、アダルトビデオ出演強要問題等）が発生していることを知っていますか。（〇は1つ）

「知っている」の割合が65.3%、「知らない」の割合が28.7%となっています。

【性別】

性別で見ると、女性に比べ、男性で「知っている」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「知らない」の割合が高くなっています。

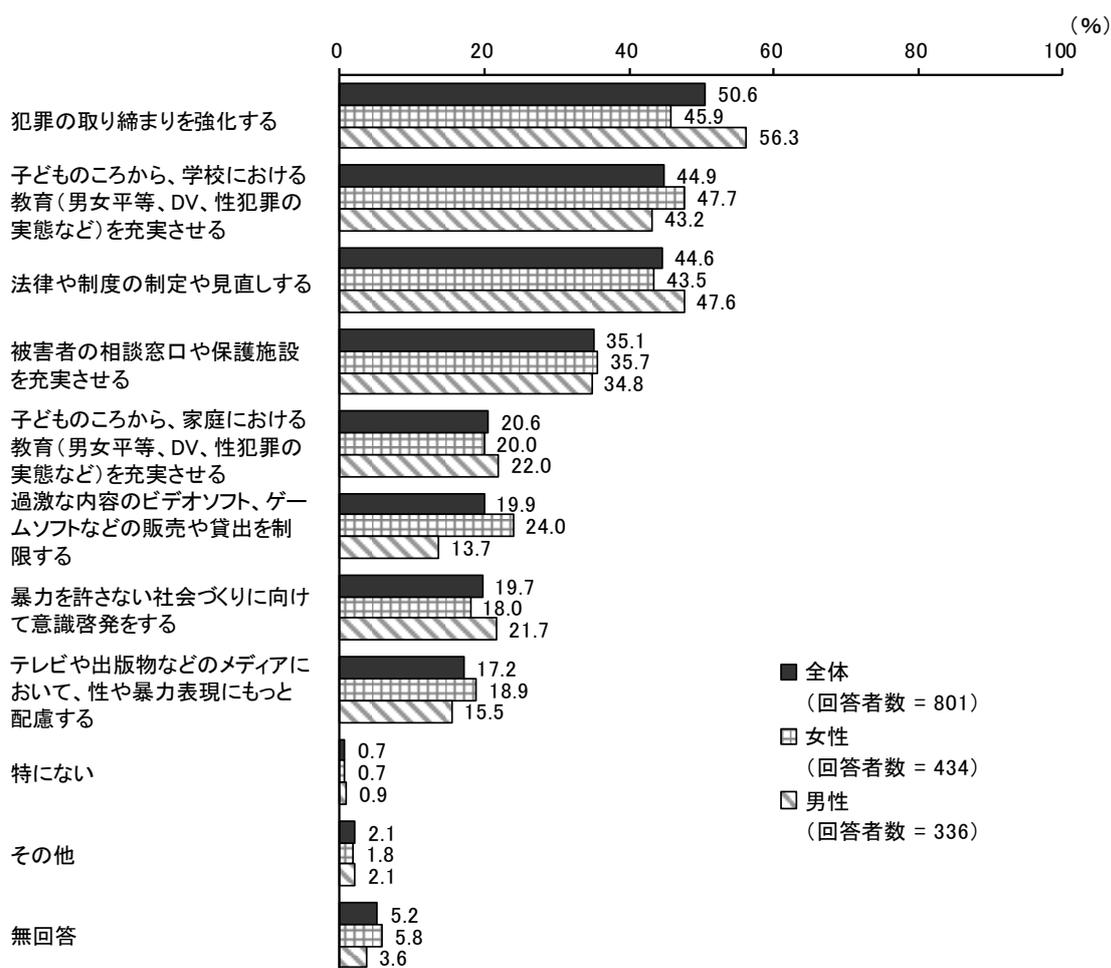


問33 異性に対する暴力、性犯罪、性暴力、ハラスメントなどから人権を守るためには、何が必要だと思いますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

「犯罪の取り締まりを強化する」の割合が50.6%と最も高く、次いで「子どものころから、学校における教育（男女平等、DV、性犯罪の実態など）を充実させる」の割合が44.9%、「法律や制度の制定や見直しする」の割合が44.6%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「犯罪の取り締まりを強化する」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「過激な内容のビデオソフト、ゲームソフトなどの販売や貸出を制限する」の割合が高くなっています。



【性年代別】

性年代別でみると、他に比べ、女性の20歳未満で「犯罪の取り締まりを強化する」「被害者の相談窓口や保護施設を充実させる」の割合が、女性の20歳代で「法律や制度の制定や見直しする」の割合が、男性の20歳未満で「暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする」の割合が、女性の30歳代で「子どものころから、学校における教育（男女平等、DV、性犯罪の実態など）を充実させる」「子どものころから、家庭における教育（男女平等、DV、性犯罪の実態など）を充実させる」の割合が、女性の60歳代で「テレビや出版物などのメディアにおいて、性や暴力表現にもっと配慮する」の割合が、女性の70歳以上で「過激な内容のビデオソフト、ゲームソフトなどの販売や貸出を制限する」の割合が高くなっています。

単位：%

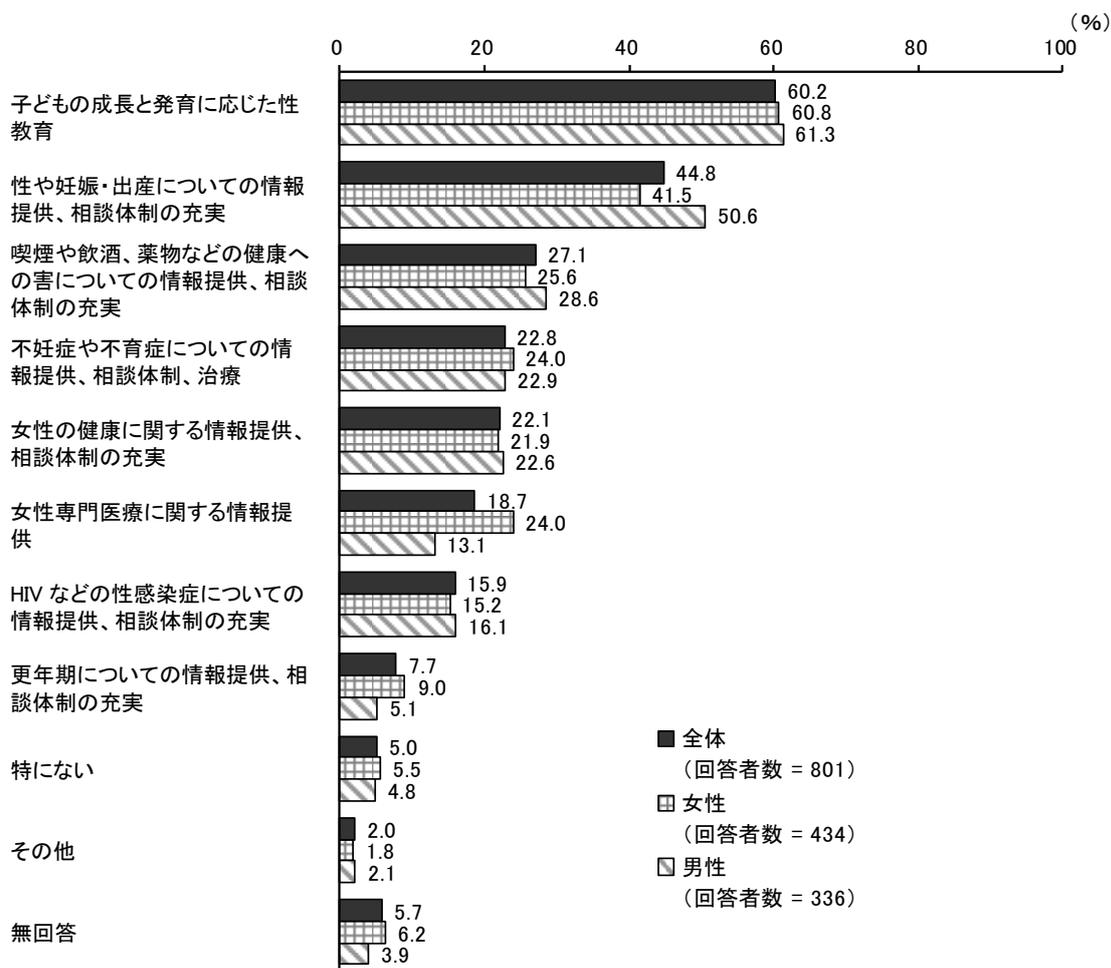
区分	回答者数（件）	犯罪の取り締まりを強化する	法律や制度の制定や見直しする	被害者の相談窓口や保護施設を充実させる	暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする	子どものころから、学校における教育（男女平等、DV、性犯罪の実態など）を充実させる	子どものころから、家庭における教育（男女平等、DV、性犯罪の実態など）を充実させる	テレビや出版物などのメディアにおいて、性や暴力表現にもっと配慮する	過激な内容のビデオソフト、ゲームソフトなどの販売や貸出を制限する	特になし	その他	無回答
女性 20歳未満	12	75.0	33.3	50.0	16.7	41.7	8.3	8.3	25.0	—	8.3	—
20歳代	37	56.8	62.2	35.1	13.5	54.1	16.2	8.1	10.8	2.7	2.7	—
30歳代	61	47.5	57.4	36.1	9.8	67.2	36.1	6.6	9.8	—	3.3	1.6
40歳代	80	56.3	46.3	35.0	10.0	51.3	22.5	17.5	21.3	—	2.5	3.8
50歳代	94	41.5	45.7	37.2	18.1	50.0	21.3	18.1	31.9	1.1	1.1	3.2
60歳代	67	32.8	35.8	38.8	28.4	35.8	11.9	31.3	22.4	—	1.5	9.0
70歳以上	83	41.0	27.7	30.1	25.3	34.9	14.5	26.5	34.9	1.2	—	14.5
男性 20歳未満	17	70.6	52.9	47.1	35.3	41.2	11.8	—	5.9	—	—	—
20歳代	25	60.0	44.0	16.0	20.0	52.0	28.0	12.0	12.0	—	4.0	8.0
30歳代	47	61.7	36.2	27.7	25.5	46.8	25.5	12.8	8.5	2.1	—	—
40歳代	58	55.2	58.6	39.7	12.1	44.8	19.0	13.8	12.1	1.7	5.2	—
50歳代	52	51.9	57.7	36.5	19.2	38.5	19.2	11.5	7.7	—	—	5.8
60歳代	67	52.2	52.2	35.8	16.4	40.3	28.4	23.9	19.4	—	3.0	3.0
70歳以上	69	55.1	34.8	36.2	31.9	42.0	18.8	18.8	20.3	1.4	1.4	7.2

問34 自らの性や妊娠・出産（出産の有無、出産する時期、子どもの数、出産間隔など）に関して、カップルや個人が自由にかつ責任を持って決定するためには、どのような支援が必要だと思いますか。（特に必要だと思うもの3つまでに○）

「子どもの成長と発育に応じた性教育」の割合が60.2%と最も高く、次いで「性や妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」の割合が44.8%、「喫煙や飲酒、薬物などの健康への害についての情報提供、相談体制の充実」の割合が27.1%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「性や妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「女性専門医療に関する情報提供」の割合が高くなっています。



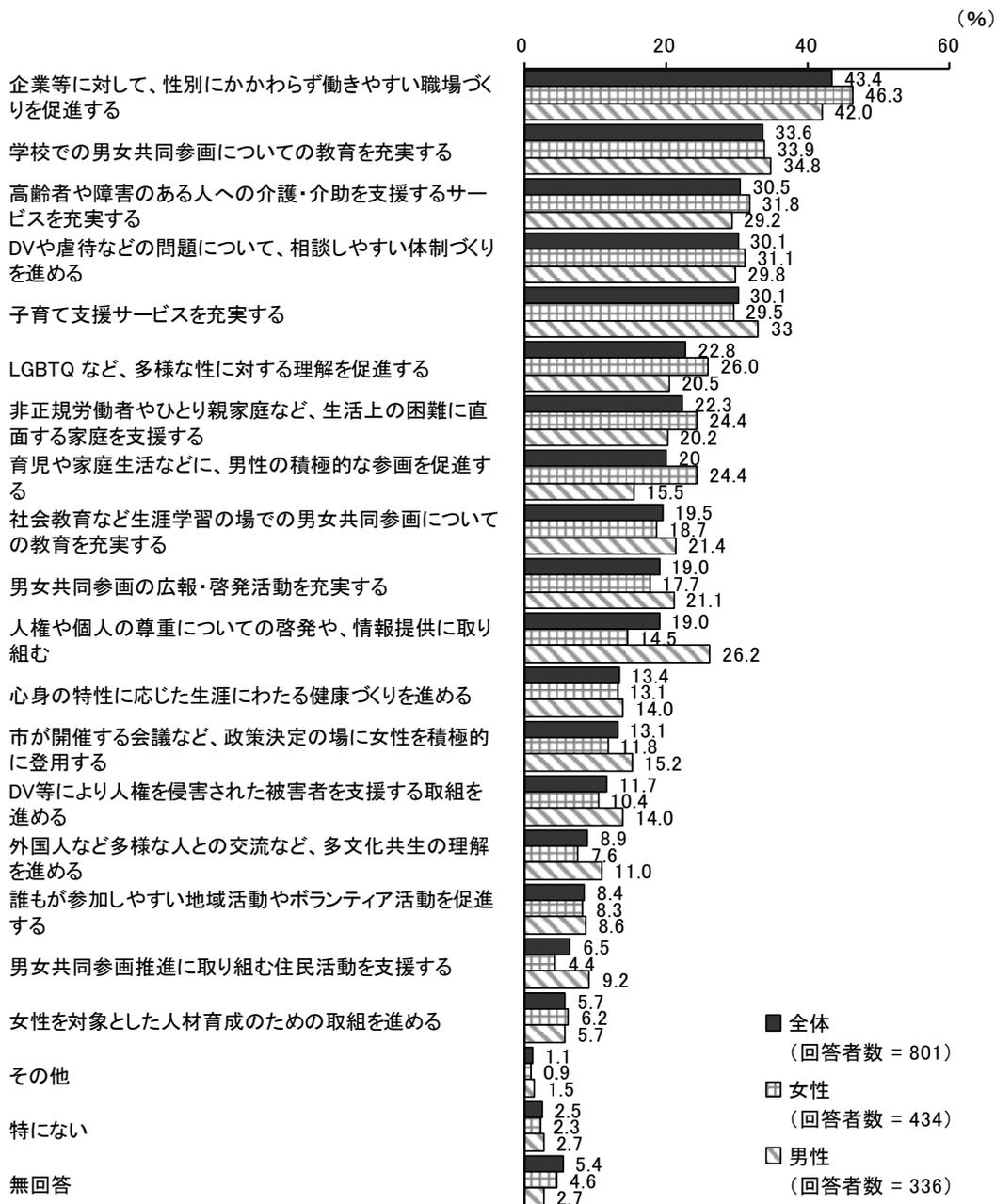
8 誰もが等しく活躍できる社会にするために、必要なことについて

問35 すべての人が対等な立場で活躍できる社会（男女共同参画社会）を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（特に必要だと思うもの5つまでに○）

「企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する」の割合が43.4%と最も高く、次いで「学校での男女共同参画についての教育を充実する」の割合が33.6%、「高齢者や障害のある人への介護・介助を支援するサービスを充実する」の割合が30.5%となっています。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「人権や個人の尊重についての啓発や、情報提供に取り組む」の割合が高くなっています。一方、男性に比べ、女性で「LGBTQ など、多様な性に対する理解を促進する」「育児や家庭生活などに、男性の積極的な参画を促進する」の割合が高くなっています。



IV 自由回答

男女共同参画の考え方について

- ・ 人権尊重。
- ・ 男女間での平等は実現すべきではあるが、全ての人間が平等になることは不可能である。
- ・ すべての人が対等な立場で活躍できる社会（男女共同参画社会）の実現には、活躍できる能力のある人には、どんどん参画してほしいと思います。介護等で支援を受けていましたが、結局自身の事を守るのは、自分自身しかないという現実。長い間「女は・・・」と人間性まで否定され続けてきたので社会とか男女とか関心も無くしてしまいました。もっと聡明な人間なら、社会のお役に立てていたのですが、残念です。
- ・ 今の子ども達はインターネットを通じて多くの情報を見聞きし多様化する性や男女平等に対し柔軟な考えを持っていると思います。反面、強い差別意識を持っているのは高齢者ではないでしょうか？若者だけでなく、高齢者の学びの場も必要と思います。
- ・ 性別にかかわらず相手の立場や考え方を考慮し、より良い方向性を見出して欲しいです。
- ・ 親やそれ以上の世代の意識改革が大切ではあるが、なかなかむずかしい。子供が当たり前と思う世界になれば、自然とそれは上の世代にも伝わると思う。
- ・ 理想と現実では大きなギャップは有るが、時間をかけて少しでも実現に向けて努力していくことが大切だと思っている。（市民一人一人が大人も子供も男も女も）以上。
- ・ 子供の教育から、すべての人が対等だという環境で育ち、今ある企業が男女差の少ない職場を目指していけば、子供たちが成人して(学校を卒業して)社会に出る時には、平等なのが当たり前で、不平等な会社の方がおかしいと誰もがわかる大人になるのがよいと思う。
- ・ 適材適所。
- ・ 現在 60 代以上の男性の場合、まだまだ男性が社会活動が中心と考えている人が私も含め多いと思う。会社を退社した時に地域活動に参加できる様になるといい。
- ・ 「男女が平等に」と意識しすぎると逆にかたよった考えにおちいってしまうと思う。「男女が・・・」ではなく各個人がそれぞれに思いえがく生活をしていけることの方が大切だと思います。
- ・ 男性と女性の完全な平等関係などありえない。全く違う「種」だからこそ「結婚」という制度がある。「ジェンダー」等は結局自身の「甘え」だ。完全に「逃げ」ていると思う。
- ・ なかなかむずかしい問題で何をどうする等の希望ではなくすこしでも前に進める様に応援していきたいと思います。
- ・ 実現しません。
- ・ 女性の意見を聞くのに積極的という事ではなく強制的に 40%の人員でやる。そのぐらいしないと変化はない。
- ・ 次世代に全ての男女共同参画のあり方を育てる為にも子どもの教育の中に十分知識を与える場を充実させることが大切かと。又、子どもの環境がコロナ禍において乱れているおそれがあるので、十分な配慮が不可欠で、これを機に周知できるように徹底していただきたい。
- ・ 要は能力があるか。能力があれば男女の差はないと思う。無理矢理、女性を起用しているように見える。冷めたいが能力のない女性を起用することはなく、男女を比較し、男を起用する場合に女を起用しても比較の条件が納得できれば良いと思う。
- ・ おもいやり、男女共に協力し合える社会に。

- ・ 私は大阪で生まれ、東京、横浜で生活してきましたが、奈良は一番閉鎖的で封建制度が残っているのでは？と思う程です。しかも女性もそれを良しと思っている。年よりから考えを変えなくてはいけないのでは？
- ・ 無理だと思う。古くからのしきたりが…。
- ・ 世の中にはいろんな人がいるという事を知り、どんな立場の人でも、何か社会にこうけんでできるようにし、他者(自分とは違う考えの人)を受け入れる。手始めに、異年齢交流会とかおもしろそうですね。
- ・ 香芝市役所市民協働課の男女の比率は？先ず、あしもとから見なおしては、いかがでしょうか。
- ・ 互いに尊重し合い、適切な距離を保つ事が大切だと考える。
- ・ 同じ人間であることを教育すればよい男も女も関係ない能力があるものが上に立てばよい夫婦は次世代の子どもも育てる社会として重要であるただし、収入は男とか女ではなく、稼げる人が稼げばよい。

子育て、子どもの教育について

- ・ 賃金に対する税金、社会保険が高く結婚、子育て等をあきらめる大きな要因だと考えます。
- ・ 小学校からの教育が大切だと感じる。相手への思いやりを持つことの重要性を授業で教えてほしい。
- ・ 活躍したいか、したくないか個人の考え方だと思うので、対等な立場が必要かどうかは分かりませんが、子供の頃から将来の目標を明確に持てるような教育に取り組んで欲しいです。
- ・ 私が教員の時、香芝市は性教育推進地区で、学校ごとに参観授業があり、教員全員で学習したことがあります。現在はもっと必要になっています。性の多様性、男女の区切りはないなど教員自身の知識の必要性とそれを授業展開できる資料指導案など考えること。誰もが児童、生徒に言える授業できる力です。
- ・ 社会保障の充実と若年者（小学校～）に上記に関しての教育と倫理感を考える場を設ける。
- ・ 男性は家族を養うプレッシャー、女性は家庭を守る責任など昔からのすりこみをなくすために、子どもたちには、教育をすると同時に、大人の考えを改めていかななくてはならないと思います。また、女性が子どもを持つためには、“結婚をする”というのも変で、結婚をせずに子どもを産み育てることもあたり前に選択できる事を望みます。手当てなど、母子家庭と同じ状況であるか？違いがあれば選択しづらい。もちろん、子どもの生命を育み、責任を持ってその選択をするという教育も必要だと思います。
- ・ 子持ちの女性がフルタイムで働こうと思ったら、パートナーが家事に協力的で対等、または、自分の両親が、リタイアしていて、孫第一主義で助けてくれる、でないと思った。私は、里帰り出産ではない(両親も働いている)。夫が家事と育児にすごく協力的で、だから私も外で働きやすい。・子供が3人いるが、時々、LGBTの事を話すようにしている。どんな考えでも認めたいと思っている。・子育てと仕事は大変。特に保育園の頃は、朝は運動会の様だった。下の子が小学生になり、だいぶ楽に。職場にフレックスタイムがないので、小さいうちは、あれば助かる。このアンケートで色々考える事が出来た！

職場や就労について

- ・ 週休二日、一日 8 時間労働で男性が家事に力を入れるのは厳しい。仕事に重心がいきすぎる。労働環境がかわらない限り、何も変わらないと思う。
- ・ 女性の経済自立、今、私は 75 才です。子供が 8 ヶ月の時に自営業を始めました。36 才の時です。それから 39 年働き続けました。主人からの支援はありませんでした。でも今でも続けていて自分の仕事として頑張ってきてよかったと思っています。今、現在主人とは家庭内別居しており自由な時間を過ごしております。80 才迄、仕事をする事が望みです。
- ・ 現在、コロナウイルス感染症で仕事がやむなく失業してしまった多くの方々に対して、再就職できる場を早急に斡旋するシステムづくりを行なう。個々の持っている能力や特性を重んじ、男女分け隔てなく、やりたい仕事につけるよう、地方自治体などで支援してほしい。
- ・ 自分が子どもを産んで育てるまで、女性もバリバリ働いてキャリアを積むのが当たり前だと思っていました。ですが、実際のところ、前職（教師）ではそれが難しいと思い、育休を取れなかった（講師だったため）今は子育てに専念しています。今の日本の教員の現状を見ると、小さい子どもを育てながら（満足いくレベルで）（教員の）仕事をするにはなかなか大変です。（やっておられる方々ももちろんたくさんいます）心身共にゆとりを持って、仕事と家庭の両立が実現できるのであれば、働きたいですが、このように大変な仕事を選んだ場合、心身共に余裕のない日々になりそうです。そういう点なら雇用を拡大するなどして、一人当たりの仕事量、労働時間を減らし、結婚して子どもを産んでも心身ともに余裕を持って仕事と家庭の両立ができるよう制度が整うと嬉しい限りです。そして何よりも大事だと思うのは家事や育児→楽しそう（働いている方が大変）について軽視されているように思うので、とてもだいじなことだと再認識されるといいなと思います。
- ・ ・会社において管理職に女性を置く。・ハラスメント等に法律を作る。
- ・ 安定就労、安定収入があり、子育てしやすい保育サービスが提供されていれば、女性も自由に使える時間ができて、社会活動、地域活動にも対等に参加できるようになるのではないのでしょうか？
- ・ 仕事に男女差はあるのか？実力が高い人が上にいく。女性は育児で仕事を離れる時間が長い分、役職に就く割合が下がるのはしょうがないと思う。無理に役職の男女比率を 5 : 5 にするほうが差別だと思う。
- ・ 香芝市議会、先日の市議選で女性が当選し恥ずかしい「(女性)ゼロ議会」から脱出できて良かったと思います。市議会はクォータ制を導入すべきでは。政策決定の場がおじさんだらけでは、今回のこのようなアンケートも税金のムダでしかないと思います。我々の協力もムダに。奈良県は専業主婦の多い保守的な所なので、「制度」として縛りをつくらないと、またゼロ議会に戻ってしまうのでは。
- ・ 女性が出産後夫がもっと育休をとれるようにする。実家が負担できるよう男性も早く帰宅できるようにする。話は異なるが、地球環境の為に国として市として進めるべき事が分かる「人生の資本論」を市長、議員、全員に読んでもらいたい。最そくで一早くコモンを作してほしい。
- ・ 企業において男性の育児休暇等の整備はされつつあるが、現実的に取得ができるかと言われたら困難であることが多い。取得を義務づける等、一定の強制が必要ではないかと感じる。
- ・ 夫婦のうちどちらかのみ収入で十分に生計を立てることができるだけの賃金をすべての職業に対して保証し、男性が専業主夫を選択しやすい環境を整えれば、すべての人が自分に合う生き方を実現できる社会に近づくと考える。

- ・ 雇用の確保。柔軟な対応支援。
- ・ 65才以上（定年後）の職業応募や内容を充実させる。
- ・ 女性が働きやすい環境を作る。保育園の充実化など。

地域での慣習や地域活動、社会活動について

- ・ 地域のコミュニケーションを活発化させる。・草の根民主主義を進める。
- ・ 今後もよりよい香芝市づくり、よろしくお願ひします。
- ・ スーパー等の食べれるのにすてる物等をコロナ等でたいへんな人に無料でていきょうする。子供食堂を各小学校等に設置して子供も大人もだれでも食べにこれる制度をつくる。ボランティアに参加した人にスタンプカード等を作成して市民税とか水道代等をわり引きにする。

社会問題、政治について

- ・ 貧困を改善しないと何もできない。なぜならお金が要るから。だから、日本の技術で海外で勝負すべき。AIや自動車などで外貨を取らないと国庫のIn、Outのバランスがとれず、様々な問題にあてるお金が生まれない。
- ・ お互いを思い合える社会の実現。細かいステップで理解を深め弱者に寄り添う政治。
- ・ 年金が自分の時にあるのか不安で仕方ないです。
- ・ 国、市町村、企業の情報面での参画を促進。
- ・ 全く関係ない事ですが交通渋滞の解消・改善を切にお願いします。場所は穴虫+穴虫南+穴虫西の交差点で時間帯はAM6:30~8:00 PM6:00~7:30で行政（市・県警察等の行政と市長・市議・県議）の改善努力が見られない。議会の質疑にも、市の広報にも一切でないです。宜しくお願ひします。穴虫南から大阪太子町へ抜ける信号の数秒の増加により改善が見込まれます。
- ・ 政治が後ろ向き。
- ・ ベーシックインカムの実現。

高齢化社会、介護について

- ・ 育児・介護と仕事が両立できる仕組み作りを自治体が積極的に行うべき。・国会議員の定数を減らし、税金が有効に使われるような改革をしてほしい。

DVやセクハラについて

- ・ 香芝市は、相談窓口が少ないです。女性法律相談は、月1回弁護士だけなので、DV相談を含む女性相談が必要です。悩みを持つ人が気軽に相談できるよう、婦人相談員を活用する等で、身近に相談できる相談窓口の体制を市が整えるべきです。市の相談窓口は、無料であり、安心して相談できる場所です。相談内容から、DV問題につながり、支援できることもあるかと思ひます。香芝市に、男女共同参画社会を実現できるよう、取り組んでいただける事をお願ひいたします。
- ・ 小学校の時、教科書を忘れたので隣人に見せてもらおうと行ったら、先生に平手うちされた。中学の時、バレエ部の先生に体が硬いなど背中を思いっきり押され腰骨を折られた。

男女共同参画に関する市民意識調査

—ご協力をお願い—

市民の皆さまには、日頃から市政にご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

本市では、性別にかかわらず全ての人が互いに認め合い、思いやりとやさしさを持って、対等な立場で責任と喜びを分かち合うことのできる社会(男女共同参画社会)の実現に向けた取り組みを進めております。

今回、この「男女共同参画社会」の実現に向け、その指針となる「第3次香芝市男女共同参画プラン」の策定にあたり、市民の皆さまのお考えをお伺いし、プラン策定の基礎資料とするため、本調査を実施いたします。実施にあたって、16歳以上の市民の皆さまから男女各1,000人、合わせて2,000人を無作為に抽出し、調査票を送付させていただきました。

回答は無記名で、すべて統計的に処理いたしますので、プライバシーの保護はもとより、本調査の目的以外に利用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

令和3年5月

香芝市長 福岡 憲宏

ご記入にあたってのお願い

- 本調査票に特に記載のあるもの以外は、質問ごとにあてはまる番号に○を付けてください。
 - ご記入は黒のボールペン、または濃い鉛筆でお願いいたします。
 - 「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが、()内になるべく具体的にその内容をご記入ください。
 - 回答後は本調査票を同封の返信用封筒に入れ、令和3年5月31日(月)までにご投函ください。(切手は不要です)
 - 本調査はインターネットからも回答できます。[回答期間:令和3年5月31日(月)まで]
- [URL: https://s-kantan.jp/kashiba-nara-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=24137]
- ※インターネットで回答される場合は本調査票の返送は不要です。



お問い合わせ先

香芝市役所 市民協働課

TEL:0745-44-3314(受付時間:月～金 8:30～17:15)

【本調査では、以下のことについてご質問します。】

1. 男女平等意識のこと
2. 家庭生活や地域での活動のこと
3. 職業生活のこと
4. 新型コロナウイルス感染症の影響
5. 多様な性に関すること
6. ドメスティック・バイオレンス(DV)やハラスメントのこと
7. 誰もが等しく活躍できる社会の実現のために必要なこと
8. あなたご自身やご家族のこと

1. はじめに、男女平等意識についてお聞きします

問1 あなたは次の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。

①～⑧の項目ごとに1つずつ○をつけてください。

	男性の方が 優遇されている	性の方が 優遇されている どちらかというと男	平等である	性の方が 優遇されている どちらかというと女	女性の方が 優遇されている
①家庭生活	1	2	3	4	5
②職場	1	2	3	4	5
③学校教育の場	1	2	3	4	5
④地域活動 (自治会・PTA・ボランティア活動など)	1	2	3	4	5
⑤政治の場	1	2	3	4	5
⑥法律や制度上	1	2	3	4	5
⑦社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5
⑧社会全体	1	2	3	4	5

問2 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりして、知っているものはありますか。(○はいくつでも)

1. 男女共同参画	2. 男女共同参画週間(毎年6/23～29)
3. ジェンダー(社会的性差)	4. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)
5. ドメスティック・バイオレンス(DV)	6. デートDV
7. LGBT、LGBTQ	8. 性的指向・性自認(SOGI)
9. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)	
10. マタニティハラスメント、パタニティハラスメント	
11. すべて知らない	

問3 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1. 賛成	2. どちらかといえば賛成	3. どちらかといえば反対	4. 反対
-------	---------------	---------------	-------

問4 あなたが考える、最も望ましいと思う女性・男性の生き方はどのようなタイプですか。下記に生き方のタイプをいくつか示してあるので、あなたの考えに近いものを選んでください。

※この問いでの「女性・男性」は自認している性を指します。また、「結婚」は事実婚も含みます。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 結婚せず、仕事を続ける2. 結婚して子どもは持たず、仕事を続ける3. 結婚して子どもを持ち、仕事は配偶者(パートナー)にまかせて、仕事を辞め、家庭を中心とした生活を送る4. 結婚して子どもを持ち、家事・子育てをしながら、仕事も続ける5. 結婚して子どもを持ち、結婚あるいは子どもを持ったタイミングでいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ6. 結婚して子どもを持ち、家事・子育ては配偶者(パートナー)にまかせて、仕事を中心とした生活を送る7. その他(具体的に: _____) |
|--|



(1)女性の生き方

(2)男性の生き方

※数字を記入してください

2. 家庭生活や、地域での活動についてお聞きします

問5 (1)あなたの家庭では、①～⑥の項目について、主に誰が担っていますか。現在一人暮らしの方は、過去の生活のことをお答えください。(○は1つずつ)

現 状	主に父または夫	主に母または妻	父母または 夫妻で同じくらい	その他の人	する必要がない・わからない
①生活費を得る	1	2	3	4	5
②日常の家事(炊事・掃除・洗濯など)	1	2	3	4	5
③日常の家計の管理	1	2	3	4	5
④家族の介護や看護	1	2	3	4	5
⑤子どもの世話・教育	1	2	3	4	5
⑥地域活動(自治会やPTA、ボランティアなど)	1	2	3	4	5

(2) あなたは、①～⑥の項目について、主に誰が担うのが理想だと思いますか。(○は1つずつ)

理 想	主に父または夫	主に母または妻	父母または 夫妻で同じくらい	その他の人	する必要がない・わからない
①生活費を得る	1	2	3	4	5
②日常の家事(炊事・掃除・洗濯など)	1	2	3	4	5
③日常の家計の管理	1	2	3	4	5
④家族の介護や看護	1	2	3	4	5
⑤子どもの世話・教育	1	2	3	4	5
⑥地域活動(自治会やPTA、ボランティアなど)	1	2	3	4	5

問6 (1)あなたの現在の生活で、「①仕事」「②家庭生活」「③地域活動」「④プライベート」に費やす時間と労力が占める割合は、何%くらいですか。

また、(2)あなたの理想としては何%くらいを希望しますか。それぞれについて数字を記入してください。

用語の解説

- ◆「仕事」・・・自営業主(農林漁業を含む)、家族従業者、雇用者として、週1回以上働いていること。常勤(フルタイム)、パート、アルバイト、嘱託などは問いません。
- ◆「家庭生活」・・・家事、育児、介護、看護、家族と過ごすことなど。
- ◆「地域活動」・・・ボランティア活動、社会参加活動、自治会やPTA活動など。
- ◆「プライベート」・・・付き合い、学習(学業)、趣味、娯楽、スポーツ、休息など、自分で自由に選択して自由に過ごすことができる時間。

	(1)現在の生活 ↓	(2)理想 ↓
①仕事	()%	()%
②家庭生活	()%	()%
③地域活動	()%	()%
④プライベート	()%	()%
合計	100%	100%

問7 今後、男性が家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参画していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

1. すでに男性が積極的に参画している状況ができているので、特に必要なことはない
2. 男性が家事等をするに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
3. 男性が家事等をするに対する女性の抵抗感をなくすこと
4. 夫妻や家族間でコミュニケーションをよくはかること
5. 年配者やまわりの人が、夫妻の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること
6. 社会の中で、男性による家事・子育て・介護・地域活動についても、その評価を高めること
7. 労働時間短縮や休暇制度の普及等で、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
8. 男性が家事・子育て・介護・地域活動に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行うこと
9. 国や地方公共団体等の研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
10. 男性が家事・子育て・介護・地域活動を行うための仲間(ネットワーク)作りを進めること
11. 家庭や地域活動と仕事の両立等の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
12. その他(具体的に:)
13. 男性が家事や子育て等を行う必要はない

問8 東日本大震災をはじめとするこれまでの災害の教訓から、平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点が必要だと指摘されています。災害時に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

1. 性別にかかわらず多様な人が防災活動や訓練に取り組む
2. 市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす
3. 避難所などの運営に女性も参加できるようにする
4. 防災や災害現場で活動する女性を育成する
5. 日ごろから地域の男女共同参画を進める
6. 備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点をいれる
7. 日ごろからコミュニケーション・地域のつながりを大切にする
8. 性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境・物資・安全など)について知識を普及する
9. 避難所マニュアルをつくり、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする
10. その他(具体的に:)
11. わからない

3. 職業生活についてお聞きします

問9 (1)あなたは、管理職以上に昇進することについて、どのようなイメージをお持ちですか。

現在管理職の方は、管理職になる前に思っていたことをお答えください。(特にあてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. やりがいのある仕事ができる | 2. 仕事が増える・時間外勤務が増える |
| 3. 賃金が上がる | 4. 仕事と家庭の両立が困難になる |
| 5. 能力が認められた結果である | 6. 責任が重くなる |
| 7. 家族から評価される | 8. 自分のやりたい仕事ができなくなる |
| 9. 自分自身で決められる事柄が多くなる | 10. 報酬面でのメリットが少ない(割に合わない) |
| 11. その他() | 12. わからない |

(2) (1)で答えたイメージを踏まえた上で、あなたは、将来管理職に昇進できるのであれば昇進したいと思いますか。現在管理職の方は、管理職になる前に思っていたことをお答えください。(○は1つ)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 昇進したい | 2. どちらかといえば昇進したい |
| 3. どちらかといえば昇進したくない | 4. 昇進したくない |

(3)あなたは、女性が管理職以上に就くことについて、どのようなイメージをお持ちですか。

(特にあてはまるもの3つまでに○)

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| 1. やりがいのある仕事ができる | 2. 仕事が増える・時間外勤務が増える |
| 3. 賃金が上がる | 4. 仕事と家庭の両立が困難になる |
| 5. 能力が認められた結果である | 6. 責任が重くなる |
| 7. 家族から評価される | 8. 自分のやりたい仕事ができなくなる |
| 9. 自分自身で決められる事柄が多くなる | 10. 報酬面でのメリットが少ない(割に合わない) |
| 11. その他() | 12. わからない |

問10 退職した経験がある女性の方、または妻が退職した経験のある方にお聞きします。(女性は自分の状況、男性は妻の状況をご回答ください。)

(1)あなた(あなたの妻)がお仕事を辞めた時期はいつごろですか。複数回辞めている場合は、初めて辞めた時期に○をつけてください。(○は1つ)

- | | | |
|-------------|------------|------------|
| 1. 結婚とほぼ同じ頃 | 2. 第1子出産前 | 3. 第1子出産以降 |
| 4. 第2子出産前 | 5. 第2子出産以降 | 6. 第3子出産前 |
| 7. 第3子出産以降 | 8. 介護のとき | 9. その他() |

(2)あなた(あなたの妻)がお仕事を辞めた理由は何でしたか。(○はいくつでも)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. もともと仕事を辞めるつもりだったから |
| 2. 家事に十分な時間をかけたかったから |
| 3. 子育てや家族の介護に十分な時間をかけたかったから |
| 4. 職場の理解や育児・介護休業などの制度がなかったから |
| 5. 勤め先や仕事の状況から働き続けるのは難しかったから |
| 6. 家族や親族の理解や協力が得られなかったから |
| 7. 結婚や妊娠・出産・介護などを理由に辞めるのが当然だと思ったから |
| 8. 保育所など子どもを預かってくれる場所や介護施設などがなかったから |
| 9. 体力的に自信がなかったから |
| 10. 転居する必要があったから |
| 11. 働く必要がなかったから |
| 12. その他(具体的に:) |

問11 あなたは育児休業や介護休業を取得したことがありますか。①～②の項目ごとに1つずつ○をつけてください。

	取得した ことがある	取得した ことがない	取得したかったが、 取得できなかった	取得する必要が なかった	制度がなかった
①育児休業	1	2	3	4	5
②介護休業	1	2	3	4	5

問12 問11の①・②で「3 取得したかったが、取得できなかった」を選んだ方にお伺いします。

取得できなかった理由をお答えください。(特にあてはまるもの3つまでに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 取得しづらい雰囲気だったから 2. 残業の多い職場だったから 3. 職場の理解が得られなかったから 4. 職場から、取得すると人事評価が不利になるなどを言われたから 5. 休業取得による、収入減などの心配があったから 6. 後のキャリア形成に影響しそうだったから 7. 同じ仕事や職場に復職できるメドが立たなかったから 8. その他(具体的に: _____)

問13 育児休業や介護休業制度が今より利用しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

<ol style="list-style-type: none"> 1. 職場での理解 2. 家族の理解 3. 男性は外で働き、女性は家事・育児をすべきという固定的性別役割分担意識の撤廃 4. 育児休業・介護休業の際に仕事を引き継ぐことができる環境整備 5. 育児休業・介護休業を取得しても、昇進・役職・給与に影響がでないような環境整備 6. 育児・介護に関する知識の取得 7. その他(具体的に: _____)
--

問14 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)についてお聞きします。

あなた自身の生活や環境から判断して、以下の①～③の項目は実現できていると思いますか。

項目ごとに1つずつ○をつけてください。

	実現できている	実現できている どちらかというところ	実現できている どちらかというところ	実現できていない
①就労による経済的自立が可能な社会	1	2	3	4
②健康で豊かな生活のための時間が確保できる社会	1	2	3	4
③性別や年齢などにかかわらず、自らの意思によって多様な働き方・生き方が選択できる社会	1	2	3	4

問15 すべての人が、仕事と家庭の両立を実現するためには、どのような条件が必要だと思えますか。

(特に必要だと思うもの3つまでに○)

1. 給与等に関する男女間格差をなくすこと
2. 労働時間を短縮すること
3. 育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること
4. 育児休業・介護休業を利用した者が、職場で不利な扱いを受けることのない体制をつくること
5. 子育てや介護のために退職した社員を元の会社で再雇用する制度を導入すること
6. 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給付を充実すること
7. 事業所内の保育施設を充実すること
8. 地域の保育施設の整備や、保育時間の延長等、保育内容を充実すること
9. 職業上必要な知識・技術等、社員教育を充実すること
10. パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること
11. 在宅勤務やフレックスタイム制度、短時間勤務制度等、柔軟な勤務制度を導入すること
12. 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること
13. その他(具体的に: _____)

問16 職業分野において女性が活躍するために必要なことは何だと思えますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

1. 企業の管理職等に女性を積極的に登用すること
2. 仕事と家庭の両立についての職場の支援制度が整っていること
3. 保育や介護の施設・サービスが充実していること
4. 子育てや介護などを地域で支え合う体制が整っていること
5. 利用しやすい(子育て・介護以外の)家事サービスがあること
6. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、働き方の見直しを進めること
7. スキルアップに向けた研修や就職相談等、就職しやすい環境が整っていること
8. 起業を希望する際に相談や情報・ノウハウの取得が容易なこと
9. 組織のトップが先頭に立って意識改革を行うこと
10. 職場全体で女性活躍の意義を理解し、積極的に取り組むこと
11. 家事や子育てなど家庭内での責任を男女(パートナー同士)がよく分かち合うこと
12. その他(具体的に: _____)
13. 特別な取り組みは必要ない

4. 新型コロナウイルス感染症による影響についてお聞きします

問17 現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、コロナ禍前に比べ、あなたの生活や行動、心身に変化はありますか。(○はいくつでも)

1. 家事の負担が増えている
2. 家事の負担が減っている
3. 仕事や勉強に集中できなくなっている(不安がある)
4. 仕事や勉強に集中できている
5. 子どもを叱ることが増えている
6. 子どもを叱ることが減っている
7. 配偶者(パートナー)との関係が悪くなっている
8. 配偶者(パートナー)との関係が良くなっている
9. 人との交流機会が減っている
10. 生活に対する不安を抱えている
11. 感染への不安を抱えている
12. 特に変化はない
13. その他(具体的に: _____)

問18 配偶者(パートナー)がいる方にお聞きします。

新型コロナウイルス感染症の影響下で、家事・育児等に関するパートナー間の役割分担に変化がありましたか。(〇はいくつでも)

1. 自分の役割が増えた	2. 自分の役割が減った
3. パートナーともに役割が増えた	4. パートナーの役割が増えた
5. パートナーの役割が減った	6. 特に変化はない

問19 働いている方、または配偶者(パートナー)が働いている方にお聞きします。

新型コロナウイルス感染症の影響下で、あなたや配偶者(パートナー)の働き方に変化はありましたか。①あなた、②配偶者(パートナー)それぞれについて該当するところに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

	①あなた ↓	②配偶者 (パートナー) ↓
1.在宅勤務(テレワーク)が増えた	1	1
2.時差出勤・フレックスタイム等になった(増えた)	2	2
3.労働時間が増えた	3	3
4.労働時間が減った	4	4
5.仕事を辞めた(自己都合)	5	5
6.仕事を辞めた(解雇、雇い止め、倒産等)	6	6
7.特に変化はない	7	7
8.その他	(具体的に記入↓)	(具体的に記入↓)

5. LGBTQ(性的マイノリティ)など 多様な性についてお聞きします

用語の解説
<p>*LGBTQ 性的マイノリティの一部である「レズビアン(同性に魅かれる女性)」「ゲイ(同性に魅かれる男性)」「バイセクシュアル(同性にも異性にも魅かれる人)」「トランスジェンダー(出生時と異なる性別で生きる人)」「クエスチョニング(自分の性的指向や性自認がはっきりしていない人・わからない人)」の頭文字を並べた略称です。</p>
<p>*性的マイノリティ 性的指向、性自認、性別表現において「典型」あるいは「多数」とは異なる性のありようをもつ人たちの総称です。</p>
<p>*パートナーシップ宣誓制度 性的マイノリティであるカップルが、互いを人生のパートナーとし、日常生活において協力しあうことを約束した関係であることを宣誓した事実に対し、地方自治体が証明する制度です。法的な拘束力はありません。</p>

問20 あなたは今までに自分の身体の性、心の性、または性的指向(自分が好きになる相手の性)などに悩んだことはありますか。(○は1つ)

- | | |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問21 性的マイノリティの方々にとって、現在の社会は生活しづらいと思いますか。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1. 思う | 2. どちらかと言えば思う |
| 3. どちらかと言えば思わない | 4. 思わない |

問22 問21で、「1.思う」「2.どちらかと言えば思う」と回答した方にお聞きします。

それは、どのような理由からですか。(特にあてはまるもの3つまでに○)

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校や職場でいじめ(悪口、嫌がらせ など)や差別を受ける可能性があるから 2. カミングアウト後、周囲の態度が変化する可能性があるから 3. 自らが認識する性とは異なる性のふるまい(服装、言葉遣い など)を強要されるから 4. 性別で区分された設備(トイレ など)を使いづらいから 5. 書類等で性別の記入を強要されるから 6. 家族や友人等に相談しづらい状況にあるから 7. 周囲の人の理解が得られないから 8. 就職、仕事、待遇等で不利・不当な扱いを受ける可能性があるから 9. 同性パートナーとの関係を認めてもらえないから 10. 法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けるから 11. 行政機関などの相談・支援体制が不十分であるから 12. その他(具体的に: _____) |
|---|

問23 あなたは、性的マイノリティの方々にとって、偏見や差別をなくし生活しやすい社会を実現するために、どのような対策が必要だと思いますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

1. 行政による市民への周知啓発活動の実施(講演会・パネル展など)
2. 行政職員や小中学校などの教職員に対する研修の実施
3. 相談窓口や当事者同士が話せる場所の充実
4. 児童や生徒に対する教育の充実
5. 偏見や差別解消などを目的とする、法律や条例などの整備
6. 誰もが働きやすい職場環境づくりの取り組み
7. 性別で区分された設備(トイレや更衣室など)への配慮
8. パートナーシップ宣誓制度の導入
9. その他(具体的に: _____)
10. わからない
11. 特に必要なことはない

6. ドメスティック・バイオレンス(DV)、ハラスメントについてお聞きします

問24 あなたは、次のようなことが配偶者(パートナー)間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。

①～⑩の項目ごとに1ずつ○をつけてください。

	どんな場合でも 暴力にあたると思う	そうでない場合も あると思う	暴力にあたるかは 思わない
①足でける	1	2	3
②平手で打つ	1	2	3
③なぐるふりをして、おどす	1	2	3
④大声でどなる	1	2	3
⑤他の異性との会話を許さない	1	2	3
⑥何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
⑦交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3
⑧家計に必要な生活費を渡さない	1	2	3
⑨家族や友人との関わりを持たせない	1	2	3
⑩いやがっているのに、性的な行為を強要する	1	2	3

問25 あなたは以下の種類のDVを受けたことがありますか。(○はいくつでも)

1. 身体的暴力	2. 精神的暴力
3. 性的暴力	4. 経済的暴力
5. デートDV(交際相手からの暴力、元交際相手によるストーカー行為等)	
6. その他()	7. 受けたことはない

問26 問25で「1～6」と回答された方にお聞きします。

あなたはDVを受けたとき、どのような対応をしましたか。(○はいくつでも)

1. DVをおこなった相手に抗議した
2. 家族や友人等、身近な人に相談した
3. 公的な相談機関(市や県等の相談窓口)に相談した
4. 警察に訴えた
5. 仕方がないと思い、何もしなかった
6. こわくて何もできなかった
7. 世間体や今後の不利益を考えると何もできなかった
8. その他(具体的に:)

問27 問25で「1～6」と回答された方にお聞きします。

あなたが問26で回答した対応をした結果、DVは解決しましたか。(○は1つ)

1. 解決した	2. 解決しなかった
---------	------------

問28 あなたは、DVに対する対策や支援として、どのような取組が必要だと思えますか。(特に必要だと思うもの3つまでに○)

1. DVに関する広報・啓発活動の積極的な実施
2. 家庭や地域での暴力を防止するための学習等の場の充実
3. 学校での暴力を防止するための学習等の場の充実
4. 被害者が相談しやすい環境づくりや相談窓口の充実
5. 被害者のカウンセリングなど、精神的な援助の充実
6. 被害者の一時保護を行う緊急避難場所(シェルター)などの整備
7. 被害者家庭の子どもへのサポートの充実
8. 加害者の更生に向けた対策やサポートの充実
9. メディア・リテラシー教育の充実
10. その他(具体的に: _____)

用語の解説

*ドメスティック・バイオレンス(DV)

夫婦や恋人などの親密な関係にある(あった)パートナーからふるわれる暴力のこと。特に、交際相手からふるわれる暴力をデートDVといいます。

暴力というと、殴る、蹴るなどの身体への暴力をイメージしがちですが、次のようなものも「暴力」です。

- (1)身体的暴力(髪をひっぱる、首を絞める、物を投げつける など)
- (2)精神的暴力(大声でどなる、無視する、交友関係を制限する、メールなどをチェックする など)
- (3)性的暴力(性行為を強要する、避妊に協力しない、見たくないのにポルノビデオなどをみせる など)
- (4)経済的暴力(生活費を渡さない、仕事をやめさせる、貯金を勝手におろす など)

*メディア・リテラシー

テレビ番組や新聞記事などメディアからのメッセージを正しく読み解く能力のこと。

用語の解説

*セクシュアル・ハラスメント(セクハラ)

職場などにおいて、相手の望まない性的な言動(性的な嫌がらせ)のことをいいます。相手は異性に限らず、同性同士でも起こる場合があります。

*マタニティ・ハラスメント(マタハラ)

・職場などにおいて、働く女性が妊娠や出産を理由に、精神的・肉体的な苦痛を受ける嫌がらせ行為のことをいいます。

・妊娠や出産を理由とした解雇、雇用契約の変更などもマタハラにあたります。相手は異性だけに限らず、同性同士でも起こる場合があります。

*パタニティ・ハラスメント(パタハラ)

職場などにおいて、男性が育児をするために育児休業や時短勤務などの制度を希望、あるいは利用したときに、同僚や上司などから嫌がらせ行為をされたり、制度利用を邪魔されたりすることをいいます。

問29 あなたは以下の種類のハラスメントを受けたことがありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. セクシュアル・ハラスメント | 2. マタニティ・ハラスメント |
| 3. パタニティ・ハラスメント | 4. 受けたことはない |

問30 問29で「1～3」と回答された方にお聞きします。

あなたはハラスメントを受けたとき、どのような対応をしましたか。(〇はいくつでも)

- | |
|-------------------------------------|
| 1. ハラスメントをおこなった相手に抗議した |
| 2. 家族や友人等、身近な人に相談した |
| 3. 職場の苦情処理機関や上司に相談した |
| 4. 公的な相談機関(市や県、労働局雇用均等室等の相談窓口)に相談した |
| 5. 警察に訴えた |
| 6. 仕方がないと思い、何もしなかった |
| 7. こわくて何もできなかった |
| 8. 世間体や今後の不利益を考えると何もできなかった |
| 9. その他(具体的に: _____) |

問31 問29で「1～3」と回答された方にお聞きします。

あなたが問30で回答した対応をした結果、ハラスメントは解決しましたか。(〇は1つ)

- | | |
|---------|------------|
| 1. 解決した | 2. 解決しなかった |
|---------|------------|

問32 近年、モデルやアイドル等の勧誘を装い、それをきっかけに若年層の女性が性的な被害を受ける問題(いわゆる、JK ビジネス問題、アダルトビデオ出演強要問題等)が発生していることを知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問33 異性に対する暴力、性犯罪、性暴力、ハラスメントなどから人権を守るためには、何が必要だと思いますか。(特に必要だと思うもの3つまでに〇)

- | |
|--|
| 1. 犯罪の取り締まりを強化する |
| 2. 法律や制度の制定や見直しする |
| 3. 被害者の相談窓口や保護施設を充実させる |
| 4. 暴力を許さない社会づくりに向けて意識啓発をする |
| 5. 子どものころから、学校における教育(男女平等、DV、性犯罪の実態など)を充実させる |
| 6. 子どものころから、家庭における教育(男女平等、DV、性犯罪の実態など)を充実させる |
| 7. テレビや出版物などのメディアにおいて、性や暴力表現にもっと配慮する |
| 8. 過激な内容のビデオソフト、ゲームソフトなどの販売や貸出を制限する |
| 9. 特にない |
| 10. その他(具体的に:) |

問34 自らの性や妊娠・出産(出産の有無、出産する時期、子どもの数、出産間隔など)に関して、カップルや個人が自由にかつ責任を持って決定するためには、どのような支援が必要だと思いますか。(特に必要だと思うもの3つまでに〇)

- | |
|--------------------------------------|
| 1. 子どもの成長と発育に応じた性教育 |
| 2. 性や妊娠・出産についての情報提供、相談体制の充実 |
| 3. 不妊症や不育症についての情報提供、相談体制、治療 |
| 4. 喫煙や飲酒、薬物などの健康への害についての情報提供、相談体制の充実 |
| 5. HIV などの性感染症についての情報提供、相談体制の充実 |
| 6. 女性の健康に関する情報提供、相談体制の充実 |
| 7. 女性専門医療に関する情報提供 |
| 8. 更年期についての情報提供、相談体制の充実 |
| 9. 特にない |
| 10. その他(具体的に:) |

7. 誰もが等しく活躍できる社会にするために、必要なことをお聞きします

問35 すべての人が対等な立場で活躍できる社会(男女共同参画社会)を実現するために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(特に必要だと思うもの5つまでに○)

1. 男女共同参画の広報・啓発活動を充実する
2. 人権や個人の尊重についての啓発や、情報提供に取り組む
3. LGBTQ など、多様な性に対する理解を促進する
4. 学校での男女共同参画についての教育を充実する
5. 社会教育など生涯学習の場での男女共同参画についての教育を充実する
6. DV や虐待などの問題について、相談しやすい体制づくりを進める
7. DV 等により人権を侵害された被害者を支援する取組を進める
8. 市が開催する会議など、政策決定の場に女性を積極的に登用する
9. 女性を対象とした人材育成のための取組を進める
10. 企業等に対して、性別にかかわらず働きやすい職場づくりを促進する
11. 誰もが参加しやすい地域活動やボランティア活動を促進する
12. 男女共同参画推進に取り組む住民活動を支援する
13. 外国人など多様な人との交流など、多文化共生の理解を進める
14. 心身の特性に応じた生涯にわたる健康づくりを進める
15. 育児や家庭生活などに、男性の積極的な参画を促進する
16. 子育て支援サービスを充実する
17. 高齢者や障害のある人への介護・介助を支援するサービスを充実する
18. 非正規労働者やひとり親家庭など、生活上の困難に直面する家庭を支援する
19. その他(具体的に: _____)
20. 特にない

問36 すべての人が対等な立場で活躍できる社会(男女共同参画社会)の実現に関してご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

⑧ 就業 (配偶者・パートナー) ※配偶者(パートナー)が いる方のみ回答	1. していない 	1. 家事専業 2. 学生 3. その他()
	2. している (事業所が市内にある) 3. している (事業所が市外にある) 	1. 正規従業員 2. 契約・派遣従業員 3. パート・アルバイト・内職 4. 自営業主・経営者 5. 家族従業者 6. 自由業(開業医・作家・ハンドメイド作家など) 7. その他()

※アンケートのご協力、ありがとうございました。本調査票を同封の返信用封筒に入れ、
令和3年5月31日(月)までに郵便ポストにご投函ください。